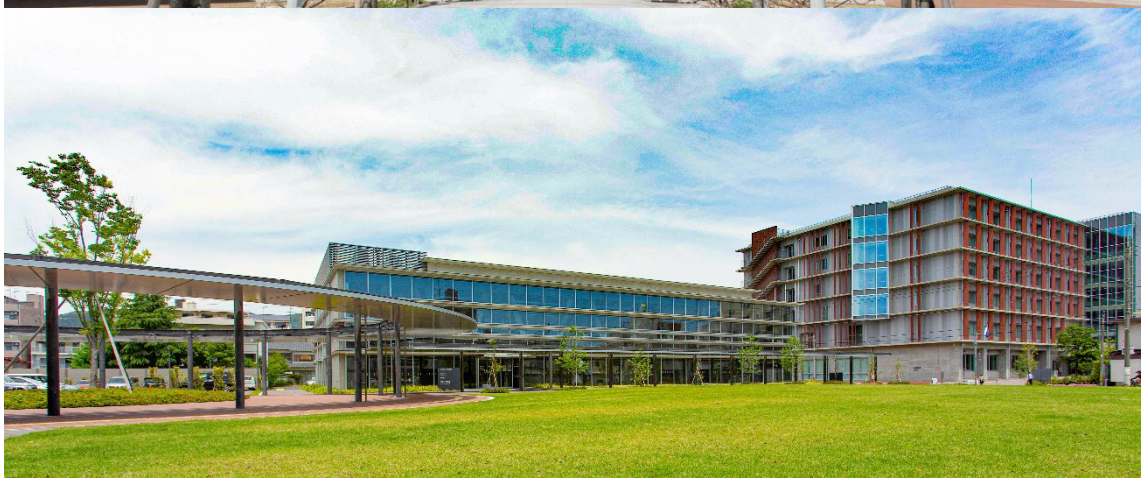
令和5年度

高知県立大学　年報



University of Kochi

目　　次

I　理念・使命・方針
1　高知県立大学の理念 …… 1
2　使命 …… 1
3　基本方針 …… 1

II　沿　革
1　概要 …… 3
2　沿革図 …… 3
3　主要年表 …… 4
4　名称及び所在地 …… 7

III　組織及び教職員
1　組織 …… 8
2　教員（令和５年度） …… １２

IV　教育及び研究
1　学部・大学院の概要（３つの方針） …… ２７
2　受講者の状況 …… ５３
3　科目等履修生・特別聴講学生の状況 …… ６６
4　教員免許状取得状況・国家資格等合格状況 …… ６７
5　学位等及び大学賞・学長賞等の授与状況 …… ６９
6　ＳＤ・ＦＤ活動実施状況 …… ７５

V　学　生
1　行事実績 …… ７９
2　入学の状況 …… ８１
3　学生数（令和５年５月１日現在） …… ８４
4　休学・退学・修業年限を超えて在籍する学生数及び単位互換の状況 …… ８５
5　課外活動 …… ８７
6　授業料等の納入状況 …… ８８
7　日本学生支援機構奨学金受給状況（令和６年３月１日現在） …… ８９
8　卒業（修了）者状況 …… ９０

VI　総合情報センター
1　概要 …… ９２
2　組織・委員会 …… ９２
3　図書等受入状況 …… ９３
4　図書館利用状況 …… ９４
5　学内ＬＡＮ状況 …… ９４

VII　地域教育研究センター …… ９５

VIII　健康長寿センター …… １０１

IX　健康管理センター …… １０５

X　国際交流
1　正規学生（留学生）数の推移 …… １１０
2　協定校数の推移 …… １１０
3　協定校一覧 …… １１０
4　協定大学への派遣実績 …… １１０
5　協定大学からの受入実績 …… １１１
6　外国人学生に対するプログラム …… １１１
7　海外機関との共同研究・教育事業支援 …… １１１
8　外国人留学生を対象とした交流活動 …… １１１

XI　開かれた大学
1　公開講座等実施状況 …… １１２
2　学会役員等の状況 …… １１５
3　学外提供用刊行物作成状況 …… １２８

XII　財　務
1　はじめに …… １３０
2　貸借対照表 …… １３０
3　損益計算書 …… １３２
4　外部資金導入の状況 …… １３４
5　学長助成事業等の状況 …… １４５

XIII　キャンパス
1　土　地 …… １４６
2　建　物 …… １４６

Ⅰ　理念・使命・方針

1　高知県立大学の理念

本学は、平和な社会の発展及び人々の生活の質向上に向け、知の創造に寄与する学術研究を行うとともに、地域志向の教育研究を通じ、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に貢献することを理念とします。

2　使命

これまで本学は、学生の主体的な学びと他者を尊重する姿勢を育み、地域に開かれた知の拠点として、地域社会の課題解決に貢献する教育研究活動を展開してきました。この歴史を継承し、人口構造の変化、科学技術の発展、グローバル化の進展など、急激な変化の中で社会の要請に常に応えつつ、未来を拓く実践力を育成する大学、知識基盤社会を支えていく新たな知を創出する大学、地域と共に育ち地域に育てられる大学を目指します。

「多様性の尊重」、「連携の強化」、「戦略的な挑戦」を大学運営の基盤とし、恒常的な評価活動を行いながら、教育改革の推進、学術研究の質向上、社会連携活動の強化に取り組みます。

3　基本方針

1．学生受入れの方針を定め、多様な学生を受入れ、豊かな人間性と倫理観を育む教育を行います。
2．本学の伝統を紡ぎつつ、学生中心の教育、自己実現を支える教育を通して、未来社会を生き抜くことができる人材を育成します。
3．最新の学術の動向を踏まえて、学術力・研究力を高め、産学官民との連携を推進し、専門性を追求する研究や実践的研究に挑戦的に取り組み、創出した知を社会に還元します。
4．地域志向の教育研究活動を展開し、地域の人々と協働して、グローバル社会、持続可能な社会、多様で豊かな社会、安全・安心な社会づくりに取り組みます。
5．社会の変化や県民のニーズを踏まえ、社会との接続を常に意識し、社会の期待に応える大学として機能を果たします。
6．学部・大学院・センターの力の結集や教職協働の推進に戦略的に取り組み、知識基盤社会を支える知の拠点としての役割を果たします。

教育の方針

1．幅広い教養と専門的な知識を活用して課題をグローバルで複眼的な観点から分析し探究できる人材を育成します。
2．地域の文化の発展と健康・福祉の向上に向けて活躍できる人材を育成します。
3．地域志向の教育を通して、地域社会や現場の課題を人々と協働して解決できる人材を育成します。
4．大学院においては、専門性に基づいて変革をもたらす実践的な知のプロフェッショナル（高度専門職業人・研究者・教育者）を育成します。

学生支援の方針

1．一人ひとりの学生が自らの専門性を高め、その人らしく自己実現ができるよう、多様な学生のニーズに応える教育支援を行います。
2．学生との対話を重視し、学生が主体的に学ぶことができるよう、教職協働で教育環境を整えます。

3.　心身ともに健康で安心して学業に専念し、豊かな人間性を育むことができるよう、学生生活への支援を行います。

学術研究の方針

1.　専門領域の発展・知の創造に向けて、関連機関と協働して、教員の多様な研究志向を尊重しつつ、専門的研究、学際的研究及び国際的研究を推進し、その成果を社会に発信します。
2.　地域の文化の発展、健康・福祉に関わる課題の解決に向けた実践・地域志向の研究を戦略的に推進し、地域社会の研究拠点としての役割を果たします。

社会連携の方針

1.　知の拠点として、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に向けて、県民の学び直しや専門職者のキャリア向上に取り組みます。
2.　域学共生の理念のもと、地域との協働体制を強化し、課題解決や活性化に地域のみなさまと共に取り組みます。
3.　地域や産学官民との連携を図り、南海トラフ地震などの災害への対応や健康長寿県の実現に向けた健康福祉に関する活動を積極的に行います。

国際交流・連携の方針

1.　海外の提携大学を拡大し、国際交流の活性化、教育・研究の国際化を推進します。
2.　地域社会に根ざした国際交流・国際連携を推進し、地域社会と世界をつなぎ、外国人材の受入れや共生社会づくりを支援する拠点としての役割を果たします。

II　沿革

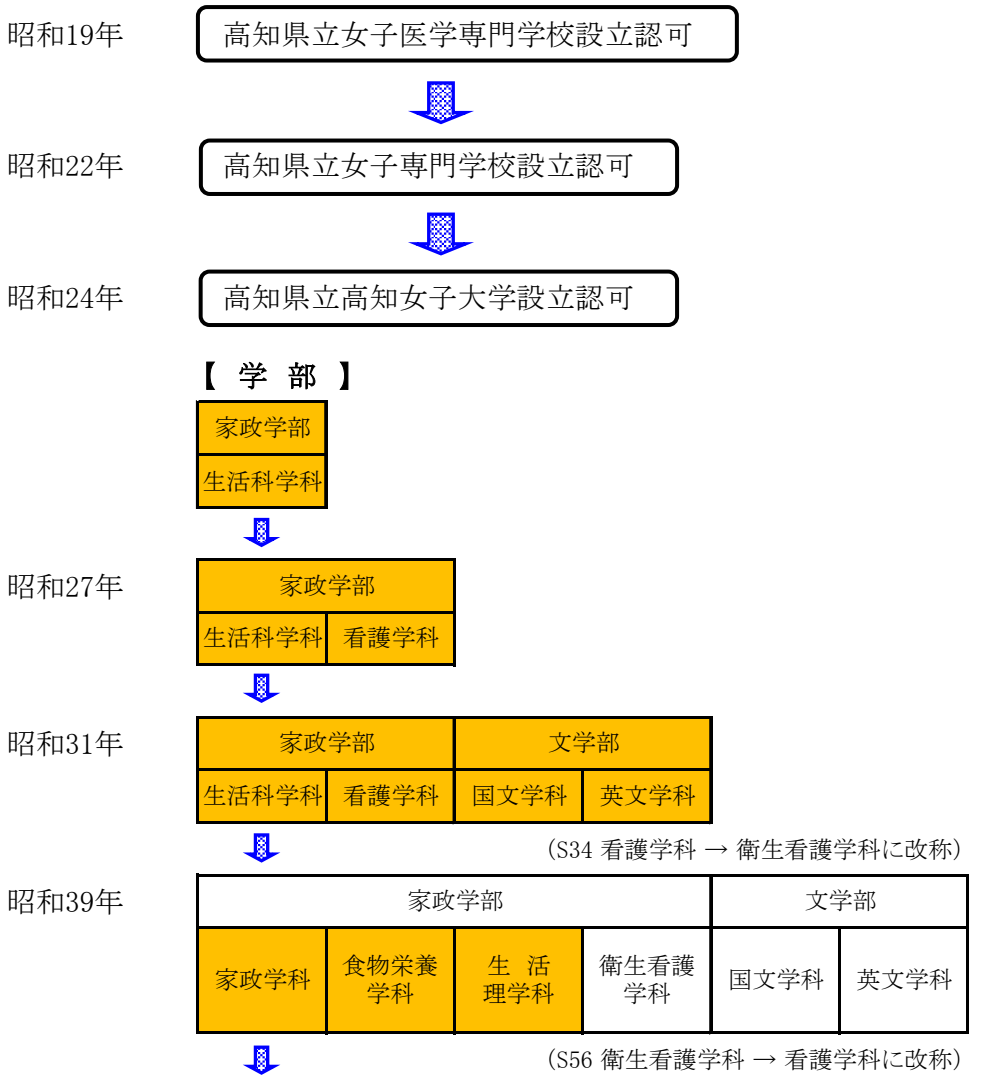
1　概要

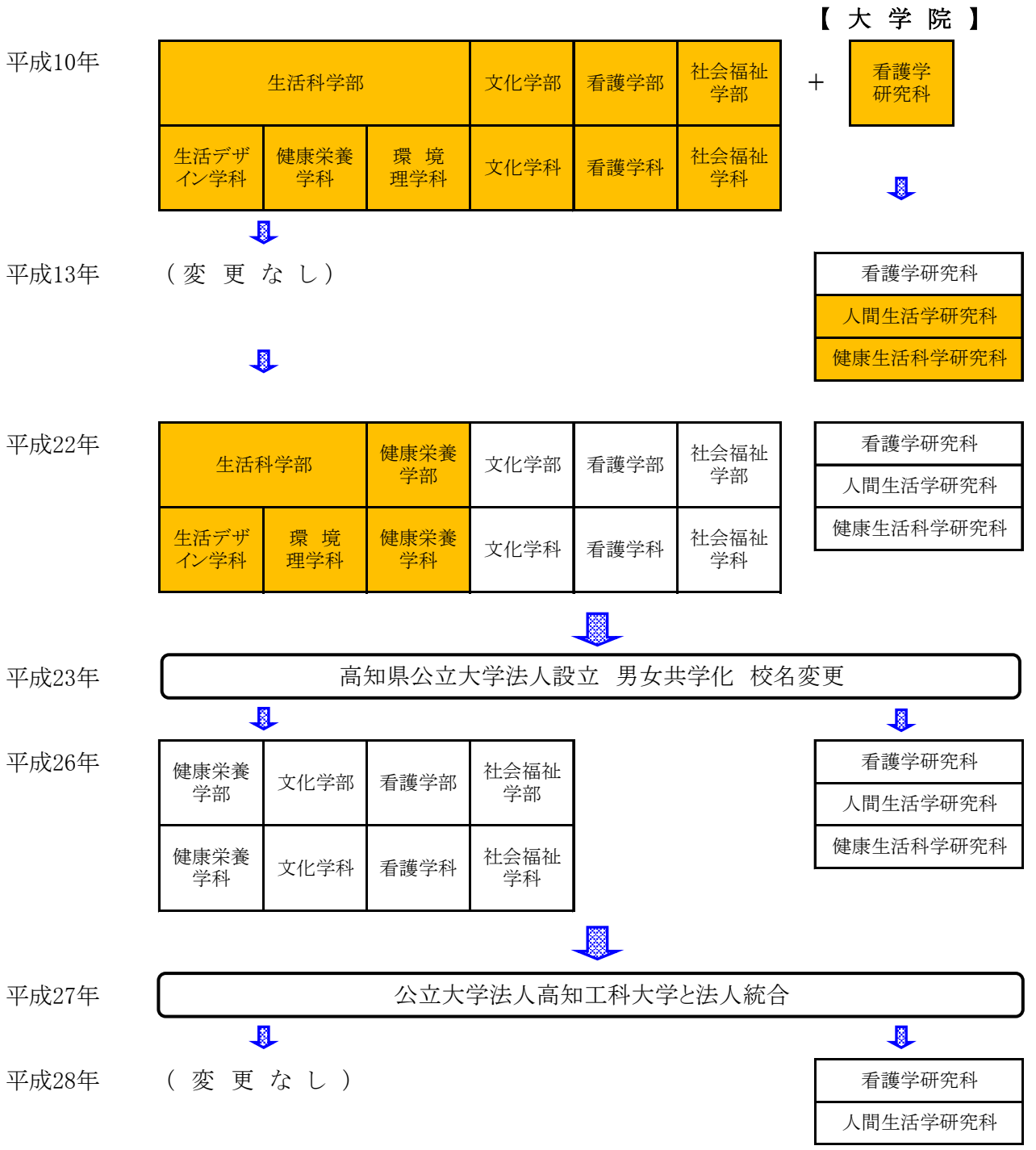
高知県立大学は、高知県立女子専門学校（昭和22年設立認可）を母体とする、家政学部生活科学科の単科大学である高知女子大学（昭和24年設立認可）を前身とする。その後、昭和31年に文学部を新設して2学部体制となった。

平成10年4月には、21世紀を展望し、教育文化の拠点として地域とともに発展する大学を目指して大規模な改組を行い、生活科学部・文化学部・看護学部・社会福祉学部の4学部6学科体制となるとともに、大学院看護学研究科を新設した。平成22年には、生活科学部食物栄養学科が健康栄養学部健康栄養学科へと学部に昇格した。平成26年4月には生活科学部を廃止し、平成28年3月には健康生活科学研究科を廃止し、看護学研究科及び人間生活学研究科をそれぞれ博士前期課程と博士後期課程からなる体制へと変更を行った。

平成23年には公立大学法人化を行い、男女共学化とともに、名称も高知女子大学から高知県公立大学法人高知県立大学へと校名変更を行った。平成27年には公立大学法人高知工科大学と法人統合を行った。

2　沿革図





3 主要年表

昭和19年12月29日	高知県立女子医学専門学校設立認可
昭和20年 8月 8日	高知県立女子医学専門学校開学式及び入学式(同年1月8日学則発表)
昭和22年 3月31日	高知県立女子専門学校(生活科・生物科・英文科)設立認可 (県議会で2月25日女子医学専門学校廃止、女子専門学校設置の決議)
昭和24年 2月21日	昭和22年創立の県立女子専門学校を母体とし、県立高知女子大学(家政学部生活科学科)設立認可
昭和24年 4月 1日	初代学長岡本重雄就任
昭和25年 4月 1日	家政学部生活科学科を栄養士養成施設として指定

昭和26年 3月31日	教職課程を設置、中学校・高等学校教諭（家庭）免許状授与資格を取得させるための課程として認定
昭和27年 2月20日	家政学部に看護学科増設認可
昭和27年 3月18日	学長岡本重雄退職、教授福田俊治学長事務取扱に就任
昭和27年 9月22日	看護婦学校として指定
昭和27年10月 1日	第二代学長志波清時就任
昭和29年 3月21日	学長病気のため教授中村慶三郎学長代理に就任
昭和29年 4月 1日	正規の課程及び聴講生の課程を中学校・高等学校教諭（理科、保健、家庭、英語）・養護教諭の免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和30年 3月29日	保健婦学校として指定
昭和30年 9月10日	第三代学長中村慶三郎就任
昭和31年 3月 1日	文学部（国文学科、英文学科）増設認可
昭和32年 4月 1日	正規の課程を中学校・高等学校教諭（国語）免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和34年 4月 1日	家政学部看護学科を衛生看護学科に改称
昭和34年12月 1日	第四代学長紫藤貞一郎就任
昭和38年 8月 3日	学長紫藤貞一郎退職、教授田中亮学長事務取扱に就任
昭和39年 4月 1日	家政学部生活科学科を家政学科・食物栄養学科・生活理学科に改称
昭和39年 4月10日	第五代学長徳田弥就任
昭和41年 3月31日	附属図書館新館落成
昭和42年12月10日	家政学部実験棟新館落成
昭和43年 4月10日	第六代学長藤本薫喜就任
昭和43年10月15日	管理棟及び講義棟新館落成
昭和44年 9月10日	講堂兼体育館落成
昭和45年 4月 2日	第七代学長安中正哉就任
昭和46年 3月31日	学生寮落成 集団給食実習室落成
昭和46年 4月 1日	正規の課程及び聴講生の課程を高等学校教諭（看護）免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和47年 3月31日	作法室落成
昭和48年11月 7日	運動場完成
昭和50年 1月10日	高知女子大学保育短期大学部認可
昭和50年 4月 1日	高知女子大学保育短期大学部開学
昭和55年 4月 2日	第八代学長岡崎正一就任
昭和55年10月 7日	南学舎改築学生会館新築落成
昭和56年 4月 1日	家政学部衛生看護学科を看護学科に改称
昭和59年 4月 2日	第九代学長木原正雄就任
昭和62年11月15日	情報処理施設設置
昭和63年 6月28日	附属図書館増改築落成
平成 2年 3月26日	聴講生の課程を中学校・高等学校教諭（国語）免許状授与資格を取得させるための課程として認定
平成 2年 3月27日	弓道場落成
平成 2年 4月 2日	第十代学長池川順子就任

平成 8年 4月 2日	第十一代学長成田十次郎就任
平成10年 3月31日	池校舎落成
平成10年 4月 1日	改組 生活科学部(生活デザイン学科・健康栄養学科・環境理学科) 文化学部(文化学科) 看護学部(看護学科) 社会福祉学部(社会福祉学科) 大学院看護学研究科 教員の免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成10年 4月 1日	高知女子大学保育短期大学部廃止
平成12年 4月 1日	教育職員免許法改正による教員の免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成12年 8月29日	社会福祉士国家試験に係る指定科目の読替について認定
平成13年 4月 1日	大学院研究科の増設 人間生活学研究科(修士課程) 健康生活科学研究科(博士課程後期) 二級建築士試験及び木造建築士試験の受験資格として認定
平成14年 9月 5日	精神保健福祉士国家試験に係る指定科目の読替について認定
平成14年10月15日	学長成田十次郎退任、副学長吉野公喜学長事務代理に就任
平成15年 1月22日	第十二代学長吉野公喜就任
平成15年 4月 1日	第十三代学長青山英康就任 生活科学部健康栄養学科を管理栄養士養成施設として認定
平成16年 4月 1日	高等学校教諭(福祉)免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成17年 4月 1日	栄養教諭免許状授与資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成19年 4月 1日	第十四代学長山根洋右就任 看護学部看護学科を助産師学校として指定
平成21年11月30日	看護福祉棟新築落成
平成22年 2月28日	本部・健康栄養学部棟新築落成
平成22年 4月 1日	健康栄養学部健康栄養学科の設置(届出) 本学本部機能を池校舎に移転 社会福祉学部社会福祉学科に介護福祉士養成課程を新設し、介護福祉士養成施設として認定 健康栄養学部健康栄養学科を栄養士養成施設として認定 健康栄養学部健康栄養学科を管理栄養士養成施設として認定
平成22年10月31日	共用棟増改築落成
平成23年 4月 1日	大学の設置者を高知県公立大学法人に変更(許可) 男女共学化により大学名称を高知県立大学に変更(届出) 初代学長南裕子就任
平成24年 4月 1日	学芸員資格取得教育課程の廃止 地域教育研究センターの設置
平成25年 4月 1日	中学校・高等学校教諭(英語)専修免許状及び栄養教諭専修免許状授与資格を取得させるための大学学部等の課程として認定

平成26年 4月 1日	大学院課程の増設 ・看護学研究科看護学専攻（博士後期課程） ・人間生活学研究科人間生活学専攻（博士後期課程） ・看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程） 生活科学部の廃止
平成27年 4月 1日	公立大学法人高知工科大学と法人統合 永国寺キャンパス教育研究棟落成 文化学部を拡充（夜間主の設置）
平成28年 3月31日	健康生活科学研究科健康生活科学専攻（博士後期課程）を廃止
平成29年 3月	永国寺キャンパス体育館・食堂、図書館落成
平成29年 3月17日	池キャンパスさくら寮落成
平成29年 4月 1日	第二代学長野嶋佐由美就任
平成30年 3月23日	永国寺キャンパス整備完了（永国寺キャンパス西側敷地に緑の広場とモニュメント、学生会館の改修完了）。お披露目式を開催。モニュメント「詩の翼」は同窓会しらさぎ会からの寄贈
令和 4年 3月 7日	永国寺キャンパスあふち寮落成
令和 5年 4月 1日	第三代学長甲田茂樹就任

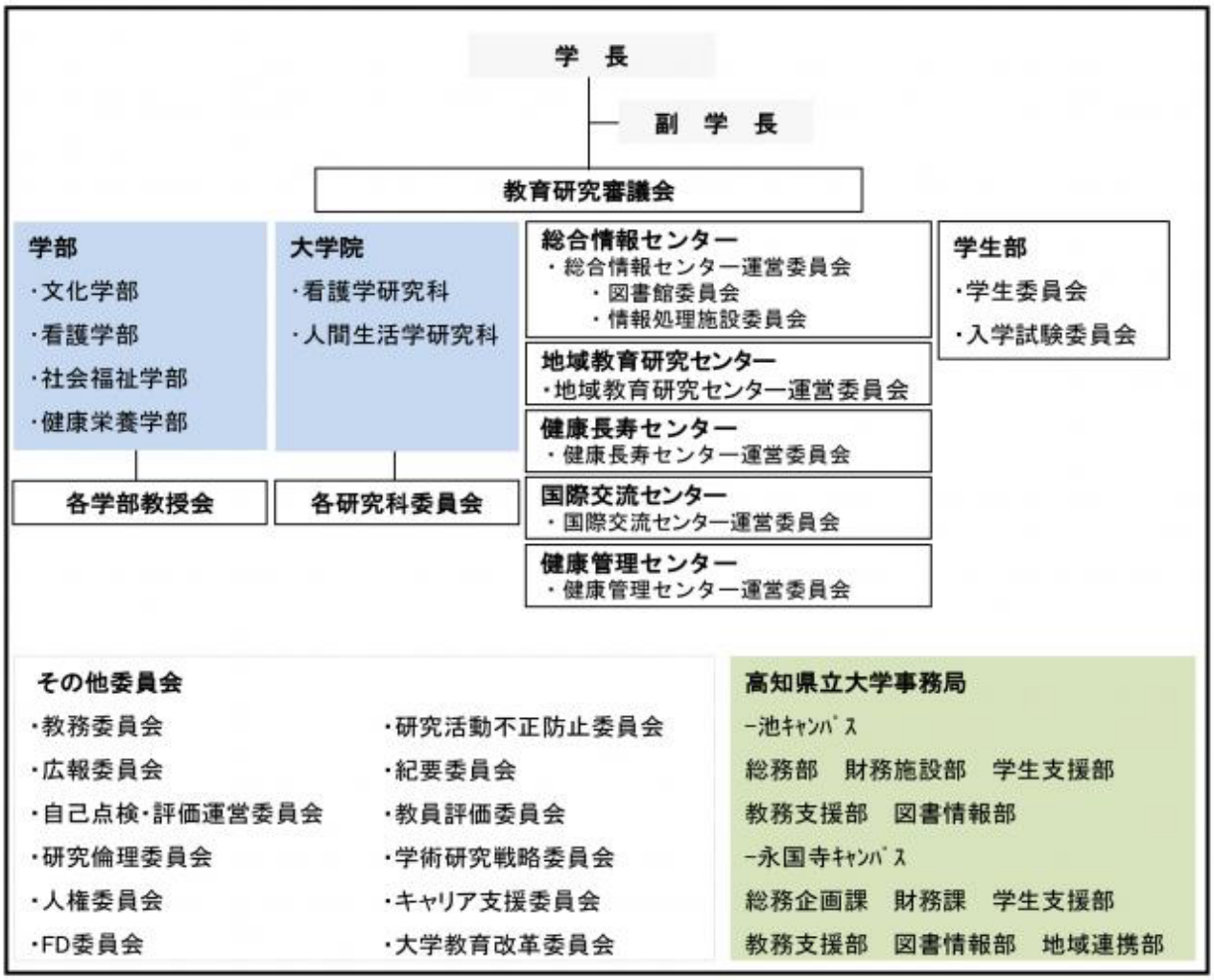
4 名称及び所在地

名　　称		所 在 地	TEL・FAX
池キャンパス	看護学部	〒781-8515 高知市池2751-1	TEL： 088-847-8700 （代表） FAX： 088-847-8670
	社会福祉学部		
	健康栄養学部		
	大学院看護学研究科		
	大学院人間生活学研究科 （栄養・生活学領域、社会福祉学領域）		
	事務局		
	附属図書館		
永国寺キャンパス	文化学部（夜間主含む）	〒780-8515 高知市永国寺2-22	TEL： 088-821-7104 （代表） FAX： 088-821-7103
	大学院人間生活学研究科 （文化学領域）		
	事務局		
	附属図書館		

III　組織及び教職員

1　組織

（1）組織図



（2）教職員構成

（令和5年5月1日現在）
（単位：人）

区分		教員								事務局職員					合計
		学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計	局長	事務職員	司書	保健師	計	
現員		1	2	37	33	13	30	2	118	1	56	1	1	59	177
内訳	学長	1							1						
	副学長		2						2						
	文化学部			11	10	2	0	0	23						
	看護学部			14	12	6	18	1	51						
	社会福祉学部			5	5	4	7	0	21						
	健康栄養学部			4	4	1	4	1	14						
	大学院			0	0	0	0	0	0						
	総合情報センター			0	1	0	1	0	2						
	地域教育研究センター			3	1	0	0	0	4						
	健康長寿センター			0	0	0	0	0	0						

（3）令和5年度新規採用教員数

（単位：人）

	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
学長	1	0						1
文化学部			0	0	1	0	0	1
看護学部			0	4	1	4	0	9
社会福祉学部			0	1	1	2	0	4
健康栄養学部			1	0	0	0	0	1
看護学研究科			0	0	0	0	0	0
人間生活学研究科			0	0	0	0	0	0
総合情報センター			0	0	0	0	0	0
地域教育研究センター			0	0	0	0	0	0
健康長寿センター			0	0	0	0	0	0
合計	1	0	1	5	3	6	0	16

(4)名誉教授

現在までに名誉教授の称号を授与された教授は、73名である。

高知女子大学

(平成23年3月31日現在)

	氏　　名	所属(退職時)	授与年月日		氏　　名	所属(退職時)	授与年月日
1	正 木　　喬	文 学 部	昭和46年7月12日	26	岡 崎 芳 子	家政学部	平成9年4月1日
2	田 中　　亮	家政学部	昭和48年5月7日	27	宇 久 真 雄	文 学 部	平成9年4月1日
3	市 川 一 夫	家政学部	昭和48年5月7日	28	徳 満 澄 雄	文 学 部	平成9年4月1日
4	笹 原 邦 彦	家政学部	昭和50年5月19日	29	中 山 喜代子	家政学部	平成10年4月1日
5	山 崎 良 幸	文 学 部	昭和50年5月19日	30	金 谷 嘉 郎	文化学部	平成11年4月1日
6	丸 山 和 雄	文 学 部	昭和50年5月19日	31	岡 本 健 児	文 学 部	平成12年4月1日
7	和 井 兼 尾	家政学部	昭和51年12月20日	32	橋 本 名 正	文化学部	平成12年4月1日
8	深 瀬 亀 美	家政学部	昭和52年6月27日	33	秋 田 利 彦	生活科学部	平成12年7月7日
9	三 宮 慎 助	文 学 部	昭和54年4月19日	34	濵 田 美 智	社会福祉学部	平成13年4月1日
10	安 中 正 哉	学　　長	昭和55年4月10日	35	藤 田 加 代	文化学部	平成14年4月1日
11	山 本 壽 春	家政学部	昭和55年4月10日	36	坂 本　　肇	文化学部	平成14年4月1日
12	岩 貞　　好	家政学部	昭和55年4月10日	37	寺 内 アヤ子	生活科学部	平成14年4月1日
13	赤 沢 時 之	家政学部	昭和56年4月10日	38	山 﨑 美惠子	看護学部	平成14年4月1日
14	芝 田 不二男	家政学部	昭和59年4月10日	39	津 曲 裕 次	社会福祉学部	平成14年4月1日
15	畠 中　　幸	文 学 部	昭和60年4月10日	40	今 西 一 實	社会福祉学部	平成14年4月1日
16	作 田 芳 次	家政学部	昭和62年4月10日	41	松 本 女 里	看護学部	平成15年4月1日
17	平 見 嘉 彦	家政学部	平成3年5月10日	42	生 田 勝 彦	文化学部	平成15年4月1日
18	児 平 文 雄	家政学部	平成4年4月1日	43	阿 部 捷 男	生活科学部	平成16年4月1日
19	松 﨑 淳 子	家政学部	平成4年4月1日	44	山 口 俊 治	文化学部	平成18年4月1日
20	山 崎 智 子	家政学部	平成6年4月1日	45	原　　絢 子	生活科学部	平成18年4月1日
21	市 村 金次郎	文 学 部	平成7年4月1日	46	松 田 眞 一	社会福祉学部	平成18年4月1日
22	矢 野 昭 典	文 学 部	平成8年4月1日	47	住 友 弘 一	文化学部	平成19年4月1日
23	藤 村 千 賀	家政学部	平成8年4月1日	48	山 根 久之助	文化学部	平成20年4月1日
24	池 川 順 子	学　　長	平成8年4月1日	49	川 﨑 育 郎	社会福祉学部	平成21年4月1日
25	松 崎 沙和子	家政学部	平成9年4月1日				

高知県立大学

（令和6年3月31日現在）

	氏　　名	所属(退職時)	授与年月日		氏　　名	所属(退職時)	授与年月日
1	青　山　英　康	学　　長	平成23年5月19日	13	荻　沼　一　男	健康栄養学部	平成28年4月1日
2	成　田　十次郎	学　　長	平成23年5月19日	14	森　下　利　子	看護学部	平成28年4月1日
3	山　根　洋　右	学　　長	平成23年5月19日	15	南　　裕　子	学　　長	平成29年4月20日
4	北　川　　明	文化学部	平成23年5月19日	16	芋　生　裕　信	文化学部	平成30年4月1日
5	大久保　茂　男	生活科学部	平成24年5月31日	17	宇　野　浩　三	地域教育研究センター	平成30年4月1日
6	青　木　晴　男	文化学部	平成26年4月1日	18	時　長　美　希	看護学部	令和4年10月20日
7	佐　藤　恵　里	文化学部	平成26年4月1日	19	一　色　健　司	地域教育研究センター	令和5年4月1日
8	宮　武　陽　子	看護学部	平成26年4月1日	20	宮　上　多加子	社会福祉学部	令和5年4月1日
9	川　村　美笑子	健康生活科学研究科	平成26年4月1日	21	東　原　伸　明	文化学部	令和5年4月1日
10	前　山　　智	社会福祉学部	平成26年5月1日	22	山　田　　覚	看護学部	令和5年4月1日
11	井　本　正　人	文化学部	平成27年4月1日	23	森　下　安　子	看護学部	令和5年4月1日
12	逸　見　幾　代	健康栄養学部	平成27年4月1日	24	野　嶋　佐由美	学長	令和5年7月22日

２ 教員（令和5年度）

（1）学部

○文化学部 文化学科

職 名	氏 名	最終学歴	学 位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	五百藏 高浩	兵庫教育大学大学院連合博士課程単位取得退学	博士（学校教育学）（兵庫教育大学）	英語音声学、英語科教育法Ⅰ、教職実践演習	英語音声学・音韻論 コーパス言語学的アプローチによる語法研究 第二言語学習者の音声習得
教 授	飯髙 伸五	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得退学	博士（社会人類学）（東京都立大学）	文化人類学、民俗学、観光文化論	ミクロネシア地域における日本統治経験 アジア・太平洋戦争の記憶と戦跡観光 同郷者集団のネットワーク
教 授	井上 次夫	大阪外国語大学大学院外国語学研究科日本語学専攻修士課程修了	修士（言語・文化）（大阪外国語大学）	日本語学専門演習、国語科教育法Ⅰ、日本語教育学概論	国語科教育におけるICT活用法及びオンライン授業教材開発 日本語における様式的位相の研究
教 授	岩倉 秀樹	広島大学大学院社会科学研究科法律学専攻博士課程後期単位取得退学	法学修士（広島大学）	日本国憲法、文化と人権、文化と統治システム、情報化社会と法文化	表現の自由 選挙法
教 授	宇都宮 千穂	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了	博士（経済学）（京都大学）	地域づくり論、地域学概論、文化政策論	近現代における企業城下町形成 都市的生活様式とコミュニティ形成に関する研究 地方移住政策と移住者
教 授	大井 方子	東京大学大学院経済学研究科第2種博士課程単位修得退学	修士（経済学）（東京大学）	経済学、文化と経済、地域産業論、社会調査論	技術革新、教育と労働に関する実証研究
教 授	大村 誠	京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学	博士（理学）（京都大学）	地域防災論、地域文化論、観光と自然環境、自然災害と防災の科学	防災全般（防災教育、地域防災、災害看護支援） 人工衛星／航空機搭載合成開口レーダー（SAR）の応用 理科・科学教育、サイエンスコミュニケーション
教 授	金澤 俊吾	東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了	博士（情報科学）（東北大学）	英語学概論、英語文法論、英語学専門演習	英語における形式と意味との対応関係に関する研究 英語における形容詞が関わる構文の意味的ネットワークに関する研究
教 授	高西 成介	広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学	修士（文学）（広島大学）	中国文学講読（散文）、中国文学史	六朝志怪小説、唐代伝奇小説、六朝詩、唐詩の解読、およびそれらの作品を通して当時の社会・文化、および人々の心性の解明
教 授	橋尾 直和	東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学	教育学修士（鳴門教育大学）	日本語学専門演習、国語科教育法Ⅰ、日本語学概論、日本語音声学・音韻論	東アジアにおける地域言語（日本語諸方言・アイヌ語・琉球語）の文化環境言語学的研究
教 授	三浦 要一	大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程修了	博士（学術）（大阪市立大学）	住文化論、景観文化論	伝統的集落・町並みの保存と生活空間計画 歴史的建造物の復元に関する調査研究 大阪の都市空間に関する住居史的・都市史的研究
教 授	ヨース・ジョエル	ルーヴェンカトリック大学日本学科博士課程修了	博士（日本学）（ルーヴェンカトリック大学[ベルギー]）	国際日本学、日本思想史	自由民権運動、明治時代の思想と文化、日本の歴史と社会を英語で表現する
准教授	オバーグ・アンドリュー	ウェールズ大学文学研究科哲学博士課程修了、レーディング大学文学研究科語学教育課程修士修了	博士（哲学）（ウェールズ大学） 修士（応用哲学）（ウェールズ大学） 修士（英語教育）（レーディング大学）	異文化理解、教育法、英語ライティング、英語スピーキング	宗教の現像学（哲学）、応用哲学
准教授	梶原 太一	同志社大学大学院商学研究科商学専攻博士課程後期課程修了	博士（商学）（同志社大学）	NPO論、キャリアデザイン論、キャリア形成論、ビジネスリテラシー	投資の見返り（ROI）の多様な計算方法 複式簿記情報と資本コスト情報の固有価値 人間の計数能力形成と発達に関する歴史・制度的研究
准教授	菊池 直人	京都産業大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学	修士（法学）（京都産業大学）	文化と権利、生活と法文化、地域社会と法文化	生命保険契約における保険金受取人の法的地位 被保険利益と生命保険契約 消費者教育

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	清水　直樹	立命館大学大学院政策科学研究科政策科学専攻博士課程後期課程修了	博士（政策科学）（立命館大学）	政治学、地域分析論、地方自治論、地域づくりフィールドスタディなど	政治制度が公共政策や社会経済に与える影響
准教授	白岩　英樹	大阪芸術大学大学院芸術文化研究科博士後期課程修了	博士（芸術文化学）（大阪芸術大学）	米文化・文学史、米文化・文学論、国際文化専門演習	比較文学、比較芸術、比較思想
准教授	田中　裕也	同志社大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程後期課程修了	博士（国文学）（同志社大学）	日本文学概論、日本文学史（近代）、近代文学講読、現代文学講読	三島由紀夫文学における思想系テクスト受容の研究 戦後文学における〈人間〉と〈美〉の表象研究 文学の検閲 解釈学と生成論
准教授	友原　嘉彦	広島大学大学院総合科学研究科博士後期課程修了	博士（学術）（広島大学）	観光学総論、観光まちづくり論Ⅰ、観光まちづくりフィールドスタディ、観光産業論Ⅰ	リフレクシブツーリズム（再帰を目的とした旅）やクリエイティブツーリズム（創造性の涵養を目的とした旅）の研究
准教授	鳥飼　真人	関西大学大学院文学研究科英文学専攻後期博士課程修了	博士（文学）（関西大学）	英文化・文学史、英文化・文学論、国際文化専門演習	近現代英文学 現代文学理論 比較文化 East-West Studies
准教授	根岸　　忠	上智大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学	修士（法学）（法政大学）	労働契約と法文化、社会保障と法文化	介護労働者の労働条件保護 ワーク・ライフ・バランスに関する法的研究
准教授	向井　真樹子	ニューカッスル大学大学院 School of English & Linguistics修了	博士（言語学）（ニューカッスル大学）	対照言語学、比較言語研究、言語教育実践論Ⅱ、英語学専門演習、英語コミュニケーションI、日本語II	生成文法における英語 スカンディナビア諸言語族 ロマンス諸語 日本語の複合語の普遍的特徴 外国語学習者の言語特徴と習得理論（特に生成文法）
講 師	田中　康代	関西学院大学院法学研究科後期課程単位取得中退	修士（法学）（甲南大学）	社会秩序と法、文化と裁判、犯罪と法	国際人権法から見た精神障害者の処遇
講 師	中瀬　将志	神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程修了	博士（文学）（神戸大学）	古典文学講読、日本文学史（古典）	平安時代の文学、特に歴史物語に関する研究

○看護学部 看護学科

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	畦地　博子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知女子大学）	行動科学、人間と看護、看護研究方法論、看護セミナーⅠ	精神科看護を中心とした専門職のケア技術に関する研究
教 授	池添　志乃	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知女子大学）	養護概説、学校保健、臨床看護論Ⅱ、家族関係論、教職実践演習、小児看護学の動向と課題、養護実習、看護哲学と倫理、看護研究方法論、人間と看護、看護研究	さまざまな健康レベルにある子どもと家族の生きる力を支えるケアについての研究 家族の生活の再構築に関する研究
教 授	池田　光徳	岡山大学大学院医学研究科博士課程修了	博士（医学）（岡山大学）	医学の世界、診断学、治療学総論、人体のしくみの乱れⅠ・Ⅱ、臨床看護論Ⅴ、医学と看護の統合、看護研究	代謝異常症 角化細胞の生物学 皮膚アレルギー 転写因子 褥瘡 皮膚機能検査
教 授	内田　雅子	日本赤十字看護大学大学院博士課程単位修得満期退学	博士（看護学）（日本赤十字看護大学）	看護学総論、治療援助論、慢性期看護論、慢性期看護援助論、治療と看護、慢性期看護学の動向と課題、総合看護実習（慢性期）、看護と政策、看護実践能力開発実習	高知県血管病ハイリスク者への慢性看護ケアシステム 高知県血管病調整看護師の役割開発と人材育成 慢性病者へのケア・コーディネーション 慢性看護実践における省察的事例研究

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	瓜生　浩子	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	生活援助論、フィジカルアセスメント、看護過程論、看護援助の動向と課題、看護基盤実習、総合看護実習、看護研究、看護実践能力開発実習Ⅰ	高次脳機能障害者とともに生きる家族の体験と支援に関する研究 家族レジリエンスを促す看護に関する研究 家族看護実践力強化のための教育に関する研究
教 授	大川　宣容	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	急性期看護論、急性期看護援助論、総合看護実習、急性期看護の動向と課題、バイオロジカルナーシング、治療援助論Ⅰ、治療援助論、人間と看護、災害と看護	エンドオブライフケアに関する研究 クリティカルケア看護師の緩和ケアコンピテンシーに関する研究 治療期にある患者・家族の体験に関する研究 シミュレーション教育に関する研究
教 授	木下　真里	名古屋大学大学院医学系研究科博士課程修了	博士（医学）（名古屋大学）	災害と看護、看護セミナーⅡ（英語文献による看護の探求）、看護実践能力開発実習、グローバル社会と看護Ⅰ・Ⅱ、災害看護実践論	外国人HIV感染者支援 四国HIV/AIDSケア体制の整備 ミャンマー母子保健支援 災害時被災者安否健康状態把握システムCOACHES開発研究
教 授	久保田　聰美	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知女子大学）	看護サービス論、看護システム論、看護管理の動向と課題、専門職連携論、保健行動論、看護地域フィールドワーク、看護管理実習、健康と看護	災害に強い専門職育成に関する研究 看護職のストレスマネジメントに関する研究 慢性疾患や禁煙支援、学生やスタッフ支援における動機付け面接（MI）の臨床活用
教 授	田井　雅子	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	精神看護学総論、精神の健康と看護、精神看護の動向と課題、総合看護実習、看護と政策、人間と看護、看護研究	精神障害者の地域生活に向けた援助 認知症をもつ方の家族に関する研究 家族のレジリエンスを促進する看護に関する研究
教 授	竹﨑　久美子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知女子大学）	老人看護学総論、老人看護援助論、老人看護の動向と課題、災害と看護、ふれあい看護実習、人間と看護、看護と政策、総合看護実習、看護地域フィールドワーク	高齢者の「居がい」について 小規模デイサービスの場づくりとケア効果 高齢患者の自宅退院支援プログラムの開発 認知症高齢者の術後安静をより安楽に保つためのケア開発 南海トラフ巨大地震準備期における災害看護
教 授	長戸　和子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知女子大学）	生活援助論、生活と看護、看護援助の動向と課題、総合看護実習	病者特に慢性疾患患者とその家族への看護 家族マネジメント力に関する研究
教 授	中野　綾美	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程満期退学	博士（看護学）（日本赤十字看護大学）	人間と看護、小児看護学総論、看護研究方法論、看護と政策	命に向き合う子どもと親のエンドオブライフケアへの看護に関する研究 災害後における家族レジリエンスを促す看護に関する研究 家族との共働方エンドオブライフケア実践能力を高める看護遠隔教育プログラムに関する研究
教 授	藤田　佐和	聖路加看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（聖路加看護大学）	看護学総論、看護哲学と倫理、終末期看護援助論、看護と政策	がんと認知症を併せもつ高齢がん患者の緩和ケアと認知症ケアの統合ケアモデルの開発 外来治療する高齢がん患者を支える協働型包括的機能評価に基づく統合ケアモデルの開発
教 授	渡邊　聡子	兵庫県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（兵庫県立大学）	生命の科学と倫理、災害と看護、母性看護学総論、母性看護援助論、母性看護の動向と課題、助産看護の動向と課題、母性看護実習、助産看護実習Ⅰ、看護研究	妊婦やその家族、および、ケア提供者における災害への備えに関する研究 災害時の安心創造に向けたケア方略の開発 新型コロナウイルス感染症流行下における健康に関する研究
特任教授	森下　安子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程満期退学	博士（看護学）（高知県立大学）	入退院支援事業	在宅生活の継続と自立を支援するケアマネジメント技術に関する研究 在宅移行支援システム構築に関する研究 多職種協働に関する研究 災害看護支援ネットワークに関する研究

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	内川　洋子	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	看護サービス論、看護管理の動向と課題、看護管理実習、チーム医療実習、看護研究、援助関係論、対人関係とメンタルヘルス、看護基盤実習、看護教育論	看護におけるリーダーシップについて（看護師長、中堅看護師、看護師のリーダーシップ） 看護におけるチームワークについて 看護師に対するチームワーク教育プログラムの開発、看護教育に関する研究
准教授	小澤　若菜	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知女子大学）	地域の健康と看護、地域看護援助論、地域看護実習、地域看護の動向と課題、地域看護学総論、人間と看護、看護と政策、総合看護実習、災害と看護、環境と看護、看護研究	生活習慣病の重症化予防、働く人の健康づくりに関する研究
准教授	川上　理子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	健康とヘルスプロモーション、環境と看護、在宅看護援助論、在宅看護実習、在宅看護の動向と課題、在宅介護リエゾン論、治療援助論、在宅看護学総論、看護研究、看護と政策、異文化理解看護フィールドワーク	高齢者の在宅療養における家族介護者の看取り 地域を基盤とした在宅移行支援システムの開発 訪問看護師の質保証のためのプログラム検討
准教授	小林　秀行	一橋大学大学院経済学研究科 博士後期課程 満期退学	博士（経済学）（一橋大学）	保健統計学、疫学、地域保健政策、看護セミナーⅢ、環境と看護、看護研究、看護セミナーⅤ	ケイパビリティを情報的基礎とする健康・厚生・経済評価指標の構築 労働者のウェル・ビーイングの向上と健康経営 個人のウェル・ビーイング向上
准教授	佐東　美緒	広島大学大学院医学系研究科博士前期課程保健学修士課程修了	修士（保健学）（広島大学）	臨床看護論Ⅲ、小児看護実践論、小児の健康と看護（2回生新カリ、3回生旧カリ）、小児看護援助論、小児看護の動向と課題、助産看護診断論、助産看護援助論、助産技術論Ⅱ、総合看護実習、助産看護実習Ⅰ、母性看護実習	NICUを退院したこどもとその家族を支える看護に関する研究 看護基礎教育における遠隔授業に関する研究 エンドオブライフケアに関する研究
准教授	嶋岡　暢希	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	母性看護援助論、母性看護実習、母性看護の動向と課題、助産看護学総論、助産看護診断論、助産看護援助論、助産技術論Ⅰ・Ⅱ、助産看護管理論、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、助産看護の動向と課題、看護実践論、総合看護実習、看護と政策、看護研究、看護セミナーⅤ	乳児期の子どもをもつ親のMastery獲得を促進する看護援助
准教授	髙谷　恭子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知女子大学）	小児の健康と看護（旧カリ、新カリ）、小児看護援助論、看護セミナーⅣ、小児看護実習、総合看護実習（小児）、看護研究	病いとともに生きる子どもと家族が辿る軌跡に関する研究 子どもセルフケアに関する研究 エンドオブライフ期における子どもと家族に関する研究
准教授	立木　隆広	近畿大学大学院医学研究科 疫学・健康科学専攻修了	博士（医学）（近畿大学大学院）	公衆衛生学、健康管理論、疫学、地域保健政策、看護研究、最新実践看護講座Ⅰ、保健行動論	骨粗鬆症、サルコペニア、フレイル、木質住環境と健康
准教授	中井　寿雄	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻博士後期課程修了	博士（保健学）（金沢大学）	在宅看護対象論、在宅看護援助論、在宅看護の動向と課題、在宅看護リエゾン論、在宅看護実習、災害看護実践論、臨床看護論Ⅰ、最新実践看護講座Ⅱ	医療的ケア児・者が専門職と一緒に災害に備えることができるアプリケーションソフトの開発 医療的ケア児・者情報に基づいた備蓄管理システムの開発 GISを用いた被災リスク・避難経路評価

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	藤代　知美	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	精神の健康と看護、精神看護援助論、精神看護の動向と課題、精神看護実践論、精神看護実習、看護研究、援助関係論、看護哲学と倫理	精神障害者の地域生活移行・定着を促進するための交渉スキル 未治療・治療中断の精神疾患をもつ人の受療行動を促すための交渉スキル
准教授	村川　由加理	三重県立看護大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士（看護学）（三重県立看護大学）	クリティカルケア看護方法論Ⅰ、クリティカルケア看護方法論Ⅲ、クリティカルケア看護論Ⅱ、クリティカルケア研究、クリティカルケア看護実践演習Ⅰ	クリティカルケア看護、周手術期看護
准教授	森下　幸子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士（看護学）（高知女子大学）	在宅看護実習、臨床看護論Ⅰ、高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	組織学習を支える訪問看護管理者のコンサルテーション力を高める教育支援の研究 ヤングケアラーとその家族の家族レジリエンスを高める看護ガイドラインの構築
講 師	有田　直子	高知県立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	小児の健康と看護（旧カリ、新カリ）、小児看護援助論、小児看護の動向と課題、総合看護実習、領域実習(小児看護)、看護研究	病気を持つ子どもと家族の意思決定に関する研究
講 師	岩﨑　順子	高知県立大学大学院看護学研究科博士課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	母性看護援助論、助産看護援助論、母性看護実習、助産看護実習Ⅰ、総合看護実習、看護研究、基礎ジェンダー論、臨床看護論Ⅵ、母性・助産看護実践論	Maternal Confidenceについての研究 Family Confidenceに関する研究
講 師	川本　美香	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	地域看護援助論、地域看護実習、総合看護実習、地域看護学総論、地域の健康と看護、地域看護実践論、地域看護の動向と課題、健康とヘルスプロモーション	中山間地域に暮らす高齢期にある住民のPlace Attachmentについて 事例検討を活用した保健師の人材育成について 保健婦駐在制度下での保健婦活動について
講 師	小原　弘子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士（看護学）（高知県立大学）	老人看護援助論、看護過程論、老人看護実践論、老人看護の動向と課題、看護研究、症状と看護、看護基盤実習、ふれあい看護実習、治療援助論	高齢者ケアに関すること 訪問看護師対象のシミュレーション教育に関すること
講 師	山中　福子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士（看護学）（高知女子大学）	健康とヘルスプロモーション、生活援助論、慢性期看護論、慢性期看護援助論、慢性期看護の動向と課題、慢性期看護実習、看護研究、慢性期看護実践論、症状と看護、臨床看護論Ⅳ	慢性心不全をもつ人への看護に関する研究
特任講師	豊田　邦江	高知女子大学大学院看護学研究科 修士課程修了	修士（看護学）（高知女子大学）	終末期看護援助論、がん看護論	がん看護や終末期医療に関すること がん看護やがん看護に従事する看護しへの教育に関すること
助 教	池内　　香	高知女子大学大学院看護学研究科 修士課程修了	修士（看護学）（高知女子大学）	精神看護実習、総合看護実習、精神看護援助論、看護過程論、看護研究	精神疾患をもつ人に対する看護ケア 精神疾患をもつ人と家族の力
助 教	神家　ひとみ	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士（看護学）（高知県立大学）	治療援助論、看護基盤実習、ふれあい看護実習、急性期看護実習、総合看護実習、家族看護実習、急性期看護援助論、バイオロジカルナーシング、急性期看護論	ICUにおける人工呼吸器装着患者の集中治療後症候群に関する研究

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助 教	源田　美香	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士（看護学）（高知県立大学）	家族関係論、臨床看護論Ⅱ（家族と健康）、看護基盤実習、在宅看護実習、総合看護実習、地域学実習Ⅰ、生活援助論、フィジカルアセスメント	先天性の心臓病のある子どもと共に生きる家族の対処行動 発達障害をもつ子どもとその家族の家族ストレングス
助 教	塩見　理香	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士（看護学）（高知県立大学）	看護基盤実習、地域学実習Ⅰ、ふれあい看護実習、能力開発実習、生活援助論、看護過程論	地域で生活する精神障がい者に関する研究
助 教	髙橋　真紀子	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士（看護学）（高知県立大学）	領域別実習（地域）、総合看護実習、看護管理実習、看護地域フィールドワーク、地域看護援助論、保健行動論、地域看護の動向と課題	地域住民のケアリングに関する研究 地域で生活する精神障がい者に関する研究 医療的ケア児と家族を支える看護職のgood practiceに関する研究
助 教	竹中　英利子	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士（看護学）（高知県立大学）	生活援助論、在宅看護援助論、在宅看護実習、看護基盤実習、看護実践能力開発実習Ⅰ	慢性疾患患者の外来看護に関する研究
助 教	田中　雅美	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士（看護学）（高知県立大学）	看護基盤実習、総合看護実習、慢性期看護援助論、看護研究	ICU看護師の成長支援に関する研究
助 教	田之頭　恵里	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士（看護学）（高知県立大学）	小児の健康と看護、フィジカルアセスメント、臨床看護論Ⅲ、看護セミナーⅣ、総合看護実習、小児看護実習、看護研究	臓器移植を受けた子どもや家族に関する研究 手術を受ける子どもや家族に関する研究
助 教	徳岡　麻由	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士（看護学）（高知県立大学）	母性看護実習、助産看護実習、母性看護援助論、助産看護援助論、助産技術論Ⅰ・Ⅱ、助産看護の動向と課題	親となることへの支援 子どもを養育する夫婦、共同養育者のcoparenting
助 教	中井　あい	和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科博士前期課程修了	修士（保健看護学）（和歌山県立医科大学）	総合看護実習、看護基盤実習、慢性看護実習、ふれあい看護実習、老人看護援助論、生活援助論、地域学実習Ⅰ	中山間地域の一人暮らし高齢者の栄養と食環境に関する研究 在外中高年者の健康増進に関する研究
助 教	中井　有里	高知女子大学大学院看護学研究科 修士課程精神看護CNSコース修了	修士（看護学）（高知女子大学）	精神看護実習、総合看護実習、精神看護援助論、援助関係論、看護セミナーⅠ、臨床看護論Ⅵ	一般病床に入院した患者のせん妄ケア
助 教	西内　舞里	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士（看護学）（高知女子大学）	母性看護実習、助産技術論Ⅱ、助産看護援助論、助産看護実習ⅠⅡ、母性看護実習、母性看護の動向と課題、家族関係論	糖尿病合併妊婦と夫の妊娠期の協働に関する研究 助産師の妊娠期ケアにおける臨床判断に関する研究
助 教	廣瀬　未央	高知県立大学大学院看護学研究科修士修了	修士（看護学）（高知県立大学）	看護実践能力開発実習、看護基盤実習、慢性期看護実習、終末期看護援助論、フィジカルアセスメント、がん看護論	分子標的治療薬に伴う皮膚障害のある患者の症状マネジメント
助 教	藤村　眞紀	千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士（看護学）（千葉大学）	総合看護実習(慢性期)、看護基盤実習、慢性期看護実習、慢性期看護援助論、慢性期看護論、臨床看護論Ⅳ、治療援助論	施設に入所している認知症を有する高齢者に関する研究

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助 教	森本　紗磨美	東京医科歯科大学大学院博士前期課程修了	修士（看護学） （東京医科歯科大学）	急性期看護援助論、総合看護実習(急性期)、急性期看護実習、急性期看護論、バイオロジカルナーシング、治療援助論、看護実践能力開発実習Ⅰ、看護基盤実習	消化器がん患者、高齢消化器がん患者の周術期看護に関する研究
特任助教	青木　良枝	高知大学大学院総合人間自然科学研究科修士課程修了	修士（看護学） （高知大学）	助産看護実習、助産看護実習Ⅱ	
特任助教	加藤　昭尚	高知県立大学大学院看護学研究科修了	修士（看護学） （高知県立大学）	看護実践能力開発実習Ⅰ、看護基盤実習、看護実践能力開発実習、看護管理実習	看護師のワークライフバランス 手術室看護師の職務満足
特任助教	山本　かよ	高知県立大学大学院看護学研究科修了	修士（看護学） （高知県立大学）	高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	コロナ禍における ハイフレックス型新任訪問看護師研修
特任助手	横川　奈知	愛媛県立医療技術短期大学 第二看護学科卒業		入退院支援事業	

○社会福祉学部 社会福祉学科

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	杉原　俊二	香川医科大学大学院医学研究科環境生態系専攻博士課程	博士（医学） （香川医科大学）	心理学理論と心理的支援、実践記録法、発達と老化の理解、面接技法	ナラティブアプローチによる対人援助、自分史分析とその応用、児童福祉の現状と発展
教 授	田中　きよむ	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学	経済学修士 （滋賀大学）	社会保障論、地域福祉論Ⅱ、福祉行財政と福祉計画、公的扶助論、権利擁護論	・社会保障制度の公共性と持続可能性の両立モデル ・人間発達理論に基づく社会保障制度の再構築 ・「小さな拠点」を軸とする住民主体の共生型地域づくりの形成要因と持続モデル ・地域福祉計画に基づく住民主体の福祉型地域づくりの形成要因と発展プロセス ・ホームレスの把握・支援方法に関する研究
教 授	長澤　紀美子	新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程修了	博士（学術） （新潟大学）	社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、国際福祉論、女性福祉論、基礎ジェンダー学	欧米（特にイギリスを中心とした）介護政策の動向と国際比較 ケアまたは福祉サービスの行政評価・アウトカム評価 ジェンダー視点での性的少数者の人権擁護と支援
教 授	西内　　章	関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了	博士（臨床福祉学） （関西福祉科学大学）	相談援助の基盤と専門職、事例研究法、相談援助実習指導、ソーシャルワークの基礎盤と専門職Ⅰ	多職種連携を活用したソーシャルワークの展開方法に関する研究 エコシステム視座に基づくソーシャルワーク実践の支援ツールに関する研究
教 授	横井　輝夫	広島大学大学院保健学研究科保健学専攻修了	博士（保健学） （広島大学）	精神科リハビリテーション学、精神保健学、こころとからだのしくみ、発達と老化の理解	言語からみた認知症の人の理解
准教授	河内　康文	高知県立大学大学院人間生活学専攻博士後期課程修了	博士（社会福祉学） （高知県立大学）	介護の基本、コミュニケーション技術、障害の理解Ⅱ	介護人材の育成に関する研究
准教授	遠山　真世	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程修了	博士（社会福祉学） （東京都立大学）	障害者福祉論、社会福祉調査の基礎、相談援助実習指導	障害者の雇用促進・就労支援に関する研究
准教授	西梅　幸治	京都府立大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程修了	博士（福祉社会学） （京都府立大学）	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ・Ⅳ	ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践に関する研究 エコシステム視座に基づく支援ツールの研究
准教授	福間　隆康	広島大学大学院社会科学研究科博士課程後期マネジメント専攻修了	博士（マネジメント） （広島大学）	福祉サービスの組織と経営	障害のある従業員の組織社会化過程における個人の適応行動に関する研究

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	矢吹　知之	東北大学大学院 教育情報学研究部 博士課程後期修了	博士（教育情報学）	認知症の理解Ⅰ・Ⅱ	認知症の診断後支援と社会資源開発
講 師	加藤　由衣	京都府立大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程修了	博士（福祉社会学）（京都府立大学）	児童・家庭福祉論、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワークにおける省察的実践の研究
講 師	田中　眞希	高知県立大学大学院人間生活学専攻博士後期課程修了	博士（社会福祉学）（高知県立大学）	生活支援技術、介護総合演習、介護過程、障害の理解Ⅰ	介護職員の「演じる行為」に関する研究
講 師	辻　　真美	松山大学大学院社会学研究科博士後期課程修了	博士（社会学）（松山大学）	介護の基本、コミュニケーション技術、介護過程	訪問介護における労働特性と専門性に関する研究
講 師	行貞　伸二	大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程単位取得退学	修士（社会福祉学）（大阪府立大学）	社会福祉史、公的扶助論、社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習	町村部における福祉事務所設置の実態
特任講師	大井　美紀	大阪府立看大学大学院看護学研究科博士後期課程	博士（看護学）（大阪府立看護大学）	精神保健福祉援助技術各論、精神保健福祉援助実習指導	精神障害者のリカバリー支援に関する研究 健康関連体力の促進に関する研究
助 教	稲垣　佳代	高知女子大学大学院人間生活学研究科修士課程修了	修士（社会福祉学）（高知女子大学）	精神保健福祉援助技術各論、精神保健福祉援助実習指導	精神障害者の就労支援に関する研究
助 教	上杉　麻理	高知県立大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻博士前期課程	修士（社会福祉学）（高知県立大学）	介護総合演習、介護過程Ⅳ	特別養護老人ホームに勤務する生活相談員に関する研究
助 教	大熊　絵理菜	高知県立大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻博士前期課程	修士（社会福祉学）（高知県立大学）	医療ソーシャルワーク論、相談援助実習指導	医療ソーシャルワーカーのアセスメントに関する研究
助 教	片岡　妙子	高知大学大学院総合人間自然科学研究科看護学専攻修了	修士（看護学）（高知大学）	医療的ケア、生活支援技術、介護技術、介護総合演習、介護過程Ⅳ	介護福祉士による医療的ケア実施に関する研究
助 教	玉利　麻紀	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学	修士（人間科学）（大阪大学）	対人関係とメンタルヘルス、精神保健福祉援助実習指導、心理学と心理的支援、国際福祉論	精神障害者をはじめとする社会的マイノリティへの偏見軽減アプローチに関する研究
助 教	福田　敏秀	鳥取大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程修了	博士（保健学）（鳥取大学）	高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ、対人関係とメンタルヘルス、相談援助実習指導	高齢者とその家族介護者等への支援に関する研究
助 教	湯川　順子	大阪市立大学大学院創造都市研究科博士後期課程修了	博士（創造都市）（大阪市立大学）	ケアマネジメント論、コミュニティソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習指導	エイジング・イン・プレイスに関する研究

○健康栄養学部 健康栄養学科

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	小林　　淳	金沢大学大学院自然科学研究科修了	博士（学術）（金沢大学）	公衆衛生学、生化学、地域健康論、生化学実験、環境衛生学実習	環境汚染化学物質の動態把握 食品添加物の分析
教 授	近藤　美樹	徳島大学大学院栄養学研究科博士後期課程中途退学	博士（栄養学）（徳島大学）	栄養教育論	調理・加工食品における機能性ならびに嗜好性の評価 地域特産物の付加価値化および未利用資源の利活用 学校における食に関する指導について
教 授	村上　　尚	熊本大学大学院医学研究科中途退学	博士（医学）（徳島大学）	人体の構造と機能、疾病論、生体科学実験・実習	生活習慣病の細胞生物学的解析

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	渡邊　浩幸	岩手大学大学院連合農学研究科修了	博士（農学） （岩手大学大学院）	食品学、食品機能学、食品衛生学	食品に含まれる機能成分の探索と機能評価 ①脂質代謝・エネルギー代謝に関する機能成分と評価 ②脳機能に関する機能成分と機能評価 ③食品の保存と加工
准教授	島田　郁子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学) (高知県立大学)	給食経営管理論	地域食材を活かしたレシピ作成・PR方法 災害食の考案 海外における（ラオス・カンボジア）食事と身体状況の関係
准教授	鈴木　麻希子	岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻修了	博士（医学） （岐阜大学）	基礎栄養学、応用栄養学	加工食品中のリンの定量 食物アレルギー エピジェネティクス制御と生活習慣病に関する研究
准教授	竹井　悠一郎	徳島大学大学院栄養生命科学教育部人間栄養科学専攻博士後期課程修了	博士（栄養学） （徳島大学）	臨床栄養学	①動脈瘤の発症予防を目指した医学・栄養学研究 ②炎症性腸疾患の発症機序解明と治療を目指した医学・栄養学研究 ③慢性閉塞性肺疾患（COPD）の発症機序解明と治療を目指した医学・栄養学研究 ④高齢者の健康を守る食事と運動のアプローチ
准教授	西岡　道子	鳥取大学大学院連合農学研究科修了	博士（農学） （鳥取大学）	調理学、調理学実習	加熱調理における魚介類のビタミンB_{12}について 調理における野菜の葉酸含量について
講 師	廣内　智子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学) (高知県立大学)	臨床栄養学実習	災害時の栄養管理について
助 教	小山　智久	城西大学大学院薬学研究科医療栄養学専攻博士前期課程修了	修士（医療栄養学） （城西大学大学院）	給食経営管理臨地実習、栄養教育論実習等	ポリフェノールの添加が小麦粉の加工特性に及ぼす影響
助 教	隅田　有公子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学) (高知県立大学)	臨床栄養学実習、食と介護等	経腸栄養剤の粘性付加に関する検討
助 教	竹本　和仁	武庫川女子大学大学院生活環境学研究科食物栄養学専攻博士後期課程修了	博士（食物栄養学） （武庫川女子大学）	栄養学実験、生化学実験、食品学実験	食物アレルギー 高知県の伝統食品の機能性の検索
助 教	生川　卓弘	名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士前期課程修了	修士（栄養科学） （名古屋学芸大学）	地域公衆栄養学実習、地域公衆栄養学臨地実習、健康情報論実習、公衆栄養学実習、応用栄養学実習、環境衛生学実習	食用カンナ葉部の化学的・栄養学的特性
助 手	彼末　富貴	高知女子大学家政学部食物栄養学科卒業	学士（家政学）	調理学実習、生体科学実験・実習	土佐の伝統食

【 地域教育研究センター 】

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教 授	清原　泰治	筑波大学大学院修士課程体育研究科修了	体育学修士 （筑波大学）	健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ、地域学実習Ⅰ・Ⅱ、健康とヘルスプロモーション	日本のスポーツ産業の発展史 明治期における地域の自主的運動団体に関する研究 1950～1970年代の高知県における市町村民運動会の社会的機能に関する研究 高知県の中山間地域の活性化と大学教育
教 授	石山　貴章	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士（社会福祉学） （高知女子大学）	教育心理学、発達心理学、教育方法論、生徒指導論、教育相談論、特別支援教育概論、教育実習、介護等体験	特別支援教育の授業づくり 障害者の就労支援に関する研究 心理検査/発達検査におけるアセスメントと支援アプローチ 発達障害者における教育支援
教 授	鈴木　康郎	筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得満期退学	教育学修士 （筑波大学）	教育原理、教師論、道徳教育論、人権教育論、地域学実習	多文化社会におけるマイノリティの文化・教育問題とその改善に向けた教育のあり方に関する理論的・実証的研究 アジアにおける小学校英語教育の実施状況や多様な価値の共存に向けた道徳教育に関する国際比較研究 ボーダースタディーズの手法を用いた国境地域における教育交流の実態に関する研究 コロナ禍が日本留学の研究環境と生活実態に与えた影響に関する研究
准教授	秋谷　公博	東洋大学大学院 国際地域学研究科 国際地域学専攻 博士後期課程修了	博士（国際地域学）	地域学実習Ⅰ・Ⅱ、チーム形成論、域学共生実習、地域文化資源論	アジアの都市貧困層によるネットワークを通したまちづくりに関する研究 コンテンツを活用した観光まちづくりに関する研究 TBL及びPBLを活用したアクティブ・ラーニングの教育効果に関する研究

【 総合情報センター 】

職　名	氏　　名	最終学歴	学　位（大学名）	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	風間　　裕	北海道大学大学院理学研究科博士課程修了	理学博士 （北海道大学）	物理学通論、量子物理学、物理と自然法則	コンピュータを用いた物理学の教材開発 軽い核の構造解析
助 教	名和　真一	京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学	理学博士 （京都大学）	情報処理概論、コンピュータリテラシ	核力と量子色力学（QCD） 計算機物理

（2）大学院

○看護学研究科看護学専攻 （博士前期課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
－	教授	畦地 博子	看護理論と実践、看護研究と実践、共創看護学セミナーほか
－	教授	池添 志乃	看護理論と実践、看護学基盤論、学校保健研究ほか
－	教授	池田 光徳	病態生理学、フィジカルアセスメント特論、バイオメトリクス看護学演習ほか
－	教授	内田 雅子	ケア論、慢性看護ケア研究、慢性看護方法論、慢性看護学実践演習ほか
－	教授	瓜生 浩子	家族看護論、家族看護方法論、家族看護学実践演習ほか
－	教授	大川 宣容	クリティカルケア看護方法論、クリティカルケア看護学実践演習ほか
－	教授	木下 真里	グローバルヘルス論、災害看護論、グローバル社会看護論、災害・国際看護方法論ほか
－	教授	久保田 聰美	看護管理論、システム経営管理論、看護管理の動向と展望、看護学基盤論ほか
－	教授	田井 雅子	精神看護方法論、精神看護展開論、精神看護学実践演習ほか
－	教授	竹﨑 久美子	看護倫理、臨床倫理、老人看護ケア研究、老人看護論ほか
－	教授	長戸 和子	家族看護論、家族看護方法論、家族看護学実践演習ほか
－	教授	中野 綾美	看護研究と実践、小児看護論、小児看護方法論ほか
－	教授	藤田 佐和	看護倫理、がん看護論、がん看護方法論ほか
－	教授	渡邊 聡子	女性健康看護論、女性健康支援論、母性・助産看護ケア研究ほか
－	教授	飯髙 伸五	学際的研究方法
－	教授	大村 誠	環境防災学
－	准教授	内川 洋子	看護管理展開論、看護マネジメント論、看護教育学研究方法ほか
－	准教授	川上 理子	在宅看護方法論、在宅看護展開論、在宅看護学実践演習ほか
－	准教授	小林 秀幸	データ分析方法論、地域ケア研究、保健学研究ほか
－	准教授	佐東 美緒	小児看護対象論、小児看護方法論、小児看護ケア研究ほか
－	准教授	嶋岡 暢希	女性健康支援論、子育てケア包括支援論、母性・助産看護ケア研究ほか
－	准教授	高谷 恭子	看護研究と実践、こころの発達、小児看護論ほか
－	准教授	立木 隆広	疫学研究方法論、地域ケア研究、保健学研究ほか
－	准教授	中井 寿雄	在宅看護方法論、在宅看護展開論、在宅ケアシステム論ほか
－	准教授	藤代 知美	看護倫理、精神看護展開論、精神看護学実践演習ほか
－	准教授	村川 由加理	クリティカルケア看護方法論、クリティカルケア看護学実践演習
－	准教授	森下 幸子	在宅リエゾン看護論、在宅リエゾン看護演習
－	講師	有田 直子	看護コンサルテーション論、小児看護方法論、小児看護学実践演習ほか
－	講師	小原 弘子	老人看護対象論、老人看護展開論Ⅱ、老人ケアシステム論ほか
－	特任教授	神原 咲子	災害看護論、環境衛生看護セミナー、災害看護活動論（準備期）ほか
－	特任教授	甲田 茂樹	看護学研究方法Ⅰ・Ⅱ
－	特任教授	山田 覚	災害看護管理セミナー、災害看護活動論（準備期）ほか
－	特任講師	豊田 邦江	緩和ケア特論、がん看護方法論、がん看護学実践演習

○看護学研究科看護学専攻 （博士後期課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
－	教授	畦地 博子	理論看護学Ⅰ、看護学研究方法Ⅰ、共創看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教授	池添 志乃	学校保健学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教授	池田 光徳	医学研究方法論、看護病態生理学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教授	内田 雅子	成人看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教授	瓜生 浩子	看護倫理学、家族看護学Ⅱ
－	教授	大川 宣容	成人看護学Ⅱ
－	教授	木下 真里	プロフェッショナルライティングほか
－	教授	久保田 聰美	看護経営管理学Ⅰ
－	教授	田井 雅子	精神看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教授	竹﨑 久美子	老人看護学Ⅰ・Ⅱ
－	教授	長戸 和子	家族看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教授	中野 綾美	看護学研究方法Ⅰ、小児看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	教授	藤田 佐和	理論看護学Ⅰ、看護倫理学、がん看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	特任教授	甲田 茂樹	看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	特任教授	野嶋 佐由美	理論看護学Ⅰ、看護学研究方法Ⅰ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
－	特任教授	山田 覚	看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

○看護学研究科共同災害看護学専攻 （博士課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
－	教授	木下 真里	災害看護リーダーシップ・管理論、インデペンデントスタディ、インターンシップⅠ・Ⅱ、災害看護ゼミナールAほか
－	教授	大村 誠	環境防災学Ⅰ・Ⅱ
	特任教授	山田 覚	災害看護リーダーシップ・管理論ほか

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士前期課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
基礎	教授	石山 貴章	教育心理学特論
基礎	教授	清原 泰治	地域スポーツ論
基礎	教授	鈴木 康郎	教育学特論
栄養・生活学	教授	小林 淳	研究方法論Ⅰ、栄養生活統計論、環境生態論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教授	近藤 美樹	栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教授	村上 尚	臨床栄養学特論、健康動態論、栄養・生活特論Ⅰ、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教授	渡邊 浩幸	研究方法論Ⅰ、食品製造学特論、食物科学実践演習、栄養・生活特論Ⅱ、栄養・生活学課題研究演習ほか
栄養・生活学	准教授	島田 郁子	災害栄養フード・アセスメント論
栄養・生活学	准教授	鈴木 麻希子	研究方法論Ⅰ、栄養学特論、栄養・生活特論Ⅰ・Ⅱ、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	准教授	竹井 悠一郎	研究方法論Ⅰ、臨床栄養学特論、栄養・生活特論Ⅰ、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	講師	廣内 智子	災害栄養フード・アセスメント論
社会福祉学	教授	杉原 俊二	研究と倫理、児童支援福祉論、家族支援福祉論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	田中 きよむ	社会保障論、福祉行財政論、地域福祉論、地域福祉政策論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	長澤 紀美子	国際福祉論、多文化福祉論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	西内 章	研究方法論Ⅱ、ソーシャルワーク論、高齢者福祉論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	横井 輝夫	健康リハビリテーション論、福祉リハビリテーション論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	河内 康文	介護福祉論
社会福祉学	准教授	遠山 真世	研究方法論Ⅱ、障害者福祉論、データ解析論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	西梅 幸治	研究方法論Ⅱ、社会福祉原論、ソーシャルワーク論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	福間 隆康	研究方法論Ⅱ、福祉マネジメント論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	矢吹 知之	介護福祉論
文化学	教授	飯髙 伸五	観光文化論Ⅰ
文化学	教授	五百藏 高浩	英語文化論Ⅰ、文化学課題研究演習
文化学	教授	岩倉 秀樹	研究方法論Ⅲ、地域文化論Ⅰ・Ⅱ
文化学	教授	宇都宮 千穂	研究方法論Ⅲ、地域文化論Ⅲ
文化学	教授	大村 誠	地域文化論Ⅰ・Ⅲ、文化学課題研究演習
文化学	教授	金澤 俊吾	英語言語文化論特論Ⅰ
文化学	教授	高西 成介	研究方法論Ⅲ、文学Ⅰ・Ⅲ
文化学	教授	橋尾 直和	日本文化論Ⅰ、日本語文化論
文化学	教授	三浦 要一	観光文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、文化学課題研究演習
文化学	教授	ヨース・ジョエル	日本文化論Ⅰ・Ⅱ、国際日本学、文化学課題研究演習
文化学	准教授	菊池 直人	地域文化論Ⅱ
文化学	准教授	白岩 英樹	英語文化論Ⅱ、英語言語文化論特論Ⅱ
文化学	准教授	鳥飼 真人	英語文化論Ⅲ

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士後期課程）

領 域	職 名	氏 名	主たる担当科目
栄養・生活学	教授	大村 誠	研究デザイン、地球環境解析学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	教授	小林 淳	研究デザイン、環境生態学
栄養・生活学	教授	村上 尚	研究倫理、健康動態学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	教授	渡邊 浩幸	研究倫理、食品機能学、栄養・生活学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
栄養・生活学	准教授	竹井 悠一郎	人間栄養学、研究倫理
社会福祉学	教授	杉原 俊二	研究デザイン、研究倫理、障害者福祉学、児童・家族福祉学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教授	長澤 紀美子	研究デザイン、国際福祉政策学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉学	教授	西内 章	研究倫理、地域ソーシャルワーク学
社会福祉学	教授	横井 輝夫	研究デザイン、福祉リハビリテーション学、社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
文化学	教授	五百藏 高浩	研究倫理、言語文化学Ⅰ・Ⅱ、文化学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
文化学	教授	三浦 要一	研究デザイン、地域文化学Ⅰ・Ⅱ、文化学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

（3）非常勤講師・臨床教授・客員教授

	職 名	氏 名	担当科目
文化学部	非常勤講師	安藤 麻貴	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ、異文化理解Ⅰ
		池 純子	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ
		大谷 俊彦	書道
		シュテファン・フーク	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ
		小長谷 悠紀	観光まちづくり論Ⅱ
		佐藤 洋子	男女共同参画社会論
		細居 俊明	国際関係論、国際開発論
		渡部 淳	日本文化論
看護学部	非常勤講師	赤松 正規	心のしくみ
		新 良治	病態と治療Ⅱ
		今井 利	病態と治療Ⅰ
		上野 晃子	助産診断論
		浦田 知之	病態と治療Ⅰ
		戎 正司	心のしくみ
		大上 賢祐	病態と治療Ⅰ
		大西 広志	病態と治療Ⅰ
		岡林 雄大	病態と治療Ⅱ
		岡本 宣人	病態と治療Ⅱ
		岡谷 恵子	看護と政策
		尾崎 和秀	病態と治療Ⅱ
		尾原 義和	病態と治療Ⅰ
		數井 裕光	心のしくみ
		金澤 亜錦	小児と疾患
		川瀬 史愛	病態と治療Ⅲ
		川原 由佳里	医療史
		熊田 孝恒	行動科学
		小松 淳子	病態と治療Ⅲ助産学
		小松 利広	微生物学
		是永 正敬	微生物学
		佐々木 潔	小児と疾患
		澤田 健	心のしくみ
		塩田 さあや	助産診断論
		清水 翔吾	薬理学
		清水 孝洋	薬理学
		十萬 敬子	医療と経営
		高橋 美枝	病態と治療Ⅰ
		田口 崇文	病態と治療Ⅱ
		谷口 睦男	人体の機能Ⅰ人体の機能Ⅱ
		田村 昌也	病態と治療Ⅰ
		土本 啓嗣	小児と疾患
		土山 芳徳	病態と治療Ⅱ
		手島 恵	看護学の動向と課題
		土井 彰	病態と治療Ⅰ
		砥谷 和人	病態と治療Ⅰ
		所谷 知穂	小児と疾患
		中田 裕生	小児と疾患
		永野 志歩	心のしくみ
		西内 律雄	小児と疾患病態と治療Ⅱ
		東 洋一郎	薬理学
		日高 千晴	人体の構造Ⅰ人体の構造Ⅱ
		平野 世紀	病態と治療Ⅱ
		福井 直樹	病態と治療Ⅰ
		藤田 博一	心のしくみ
		藤戸 良子	心のしくみ
		松島 幸生	助産学
		松本 務	在宅医療

	職 名	氏 名	担当科目
看護学部	非常勤講師	三浦 悠作	病態と治療Ⅰ
		南 晋	病態と治療Ⅲ
		宮澤 真理	小児と疾患
		宮本 寛	在宅医療
		山川 泰明	病態と治療Ⅱ
		山本 寄人	病態と治療Ⅲ
		吉岡 遼	病態と治療Ⅱ
	臨床教授	小野 憲昭	医療と経営
		小松 ゆり	臨床講義
		酒井 美枝	臨床講義
		澁谷 祐一	臨床講義
		田上 豊資	臨床講義
		多田 邦子	臨床講義
		田鍋 雅子	医療と経営
		豊田 誠	臨床講義
		西岡 明人	医療と経営
		野中 真澄	臨床講義
		林 和俊	医療と経営
		山本 克人	臨床講義
社会福祉学部	非常勤講師	奥谷 文乃	医学概論
		加藤 誠之	更生保護制度
		関 草路	生活支援技術Ⅳ
		玉里 恵美子	社会学と社会システム
		山﨑 正雄	精神医学
健康栄養学部	非常勤講師	一色 健司	健康栄養学応用
		片山 訓博	運動生理学
		河野 俊夫	フードシステム学
		田中 健二朗	人体の構造と機能
	客員教授	宮澤 公栄	
		山之内 大	
共通教育	非常勤講師	片田 一義	英語コミュニケーション
		北川 泰生	英語コミュニケーション
		サイモン・クインラン	英語コミュニケーション
		宮本 祥子	英語コミュニケーション
		スティーブン・チャー	英語コミュニケーション
		ヘルムリンガー・麻美	英語コミュニケーション
		吉田 祐子	英語コミュニケーション
		松吉 明子	英語コミュニケーション
		ジョナサン・ヘルムリンガー	英語コミュニケーション
		中川 ふさ	英語コミュニケーション
		中嶋 紀子	英語コミュニケーション
		ミケランジェロ・マガシク	英語コミュニケーション
		ショーン・ブルゴワーン	英語コミュニケーション
		李 賢 珠	英語コミュニケーション
		有川 幹彦	基礎生物学
		一色 健司	科学と人間、基礎化学、地球の科学
		駒井 説夫	健康スポーツ科学
		野中 陽一朗	心理学
		原崎 道彦	哲学
		福住 紀明	心理学
		谷地森 秀二	土佐の自然と暮らし
		前田 綾子	土佐の自然と暮らし
		宮本 隆信	健康スポーツ科学
教職課程	非常勤講師	鹿嶋 真弓	特別活動論
		福石 賢一	教育課程論
		山中 孝一	情報通信技術を活用した教育の理論と方法

	職　名	氏　　名	担当科目
看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	常風　興平	臨床薬理学
		森田　靖代	臨床薬理学
		吉岡　三郎	臨床薬理学
		柳林　信彦	看護教育論Ⅰ
		小寺　栄子	看護教育論Ⅱ
		Ngatu Nlandu Roger	疫学研究方法論
		尾形　裕也	保健医療政策と経済Ⅰ
		岡谷　恵子	保健医療政策と経済Ⅱ、看護学の動向と展望
		鈴木　志津枝	看護学の動向と展望
		勝原　裕美子	最新専門看護実践講座Ⅰ
		畠山　卓也	最新専門看護実践講座Ⅰ
		藤田　冬子	最新専門看護実践講座Ⅰ
		亀井　智子	最新専門看護実践講座Ⅱ
		宮野　伊知郎	最新専門看護実践講座Ⅱ
		中井　寿雄	最新専門看護実践講座Ⅱ
		熊田　孝恒	学際的研究方法
		武田　祐子	がん看護論
		高山　良子	緩和ケア特論
		田代　真理	緩和ケア特論
		島田　安博	がん診断治療学
		杉本　健樹	がん診断治療学、がん薬理学
		西岡　明人	がん診断治療学
		根来　裕二	がん診断治療学
		秦　　康博	がん診断治療学
		掛田　恭子	がん薬理学
		北岡　智子	がん薬理学
		宮村　充彦	がん薬理学
		池田　幸雄	慢性疾患診断治療学Ⅰ、家族看護対象論
		浦田　知之	慢性疾患診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ
		高橋　美枝	慢性疾患診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ、家族看護対象論
		岡本　宣人	慢性疾患診断治療学Ⅱ
		尾原　義和	慢性疾患診断治療学Ⅱ
		土山　芳徳	慢性疾患診断治療学Ⅱ
		明石　恵子	クリティカルケア看護論Ⅱ

	職　名	氏　　名	担当科目
看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	常風　興平	臨床薬理学
		柳林　信彦	看護教育論Ⅰ
		Ngatu Nlandu Roger	疫学研究方法論
		尾形　裕也	保健医療政策と経済Ⅰ
		岡谷　恵子	保健医療政策と経済Ⅱ、看護学の動向と展望
		鈴木　志津枝	看護学の動向と展望
		勝原　裕美子	最新専門看護実践講座Ⅰ
		藤田　冬子	最新専門看護実践講座Ⅰ
		畠山　卓也	最新専門看護実践講座Ⅰ
		亀井　智子	最新専門看護実践講座Ⅱ
		宮野　伊知郎	最新専門看護実践講座Ⅱ
		熊田　孝恒	学際的研究方法
		武田　祐子	がん看護論
		島田　安博	がん診断治療学
		杉本　健樹	がん診断治療学
		西岡　明人	がん診断治療学
		根来　裕二	がん診断治療学
		掛田　恭子	がん薬理学
		北岡　智子	がん薬理学
		光岡　妙子	がん薬理学
		宮村　充彦	がん薬理学
		池田　幸雄	慢性疾患診断治療学Ⅰ、家族看護対象論
		浦田　知之	慢性疾患診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ
		高橋　美枝	慢性疾患診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ、家族看護対象論
		岡本　宣人	慢性疾患診断治療学Ⅱ
		尾原　義和	慢性疾患診断治療学Ⅱ
		土山　芳徳	慢性疾患診断治療学Ⅱ
		明石　恵子	クリティカルケア看護論Ⅱ
		濱田　　暁	クリティカルケア診断治療学Ⅰ
		盛實　篤史	クリティカルケア診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		齋坂　雄一	クリティカルケア診断治療学Ⅱ、家族看護対象論
		竹内　慎哉	クリティカルケア診断治療学Ⅱ
		西村　裕之	クリティカルケア診断治療学Ⅱ
		金澤　亜錦	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		佐々木　潔	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		土本　啓嗣	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		所谷　知穂	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		中田　裕生	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		西内　律雄	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		宮澤　真理	小児診断治療学Ⅰ・Ⅱ
		永野　啓輔	老年病診断治療学Ⅰ
		山田　光俊	老年病診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ
		吉本　啓一郎	老年病診断治療学Ⅰ
		谷村　正信	老年病診断治療学Ⅱ、在宅療養診断治療学Ⅱ
		宮本　　寛	老年病診断治療学Ⅱ、在宅療養診断治療学Ⅱ
		戎　　正司	精神診断治療学Ⅰ
		岡田　　俊	精神診断治療学Ⅰ
		須藤　康彦	精神診断治療学Ⅱ
		中垣　真通	家族療法
看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）	非常勤講師	西村　ユミ	理論看護学Ⅱ
		川口　孝泰	イノベーション看護学
		真田　弘美	イノベーション看護学
		須釜　淳子	イノベーション看護学
		峰松　健夫	イノベーション看護学
		仲上　豪二郎	イノベーション看護学
		大田　えりか	国際看護学
		山田　智恵里	国際看護学
看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）	非常勤講師	室﨑　益輝	災害社会福祉学
		李　賢　珠	Professional writing
人間生活学専攻（博士前期課程）	非常勤講師	一色　健司	データ解析論
		小島　優子	ジェンダー論

Ⅳ　教育及び研究

1　学部・大学院の概要（3つの方針）

【 学　部 】

○文化学部

ディプロマ・ポリシー

人文・社会系諸科学の知識を身につけ、多様な社会や文化を理解し、豊かな共生社会の実現、新たな文化の創造及び自律した自己の成長を追求することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1.　幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。

2.　言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。

（汎用的・実践的技能）

3.　社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身につけている。

4.　必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身につけている。

（態度・志向性）

5.　豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。

6.　社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7.　これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

（1）共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

（2）英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

（3） 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

専門教育科目には、学部共通科目と学部専門科目を置く。

（カリキュラムの構造・教育内容）

（1） 学部での学びの基礎的能力及びコミュニケーション能力を身につけるためのリテラシー科目、学部教育の基礎となる知識を身につけるためのエッセンシャル科目、就業力を高めるためのキャリア形成科目から成る学部共通科目を設置する。

（2） 人文・社会系諸科学の専門的知識を幅広くかつ体系的に体得するために、言語文化系（英語学領域、国際文化領域、日本語学領域、日本文学領域）、地域文化創造系（地域文化領域、地域づくり領域、観光文化領域、観光まちづくり領域、現代法文化領域、生活法文化領域）、文化総合系（言語文化系及び地域文化創造系の教育内容を総合的に学ぶ）の3つの系から成る学部専門科目を設置する。

（3） 専門的な知識・理解をより深め、専門的な研究手法を学ぶために各領域に専門演習を設置し、また、学部教育で体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、必要な情報の収集とその的確な整理・分析を通じて、能動的かつ自律的に現代社会の諸問題を発見し、これを解決する能力を養うために課題研究ゼミナールを設置する。

（4） この他、中学校・高等学校（国語、英語）の教職課程を設置する。

（履修方法・順序）

学部共通科目は、主に1、2年次に履修する。学部専門科目は、主に2～4年次に履修する。各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、3、4年次に履修する。

（教育方法）

学部共通科目及び学部専門科目では、学生が能動的に学習するよう多様な教育方法を取り入れる。学部共通科目の基礎演習、各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、少人数による演習形式で行い、課題研究ゼミナールでは学部教育の集大成として卒業研究を仕上げる。

（評価）

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の達成目標を定め、達成目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知し、それに基づいて成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果も踏まえて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

文化学部は、人文・社会系諸科学による多角的な文化研究により人間・社会に対する理解を深め、文化の批判的継承を通して豊かな人間性と主体的に行動し得る能力を培い、地域文化の創造と向上に資するとともに、真に豊かな共生社会の実現に向けて国際的に貢献できる市民を養成します。

したがって、文化学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1.　人文・社会系諸科学を理解する上で必要な基礎的素養、すなわち高等学校等で履修する主要な教科に関する十分な基礎学力を有している人〔知識・理解〕
2.　高等学校等で履修した幅広い基礎的素養を基に、物事を論理的に思考・判断し、これを言語によって適切に表現する能力を備えている人〔思考力・判断力・表現力〕
3.　人間・社会に広く関心を持ち、言語、地域、観光、法学などの視点から人文・社会系諸科学の専門的知識を身につけたいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
4.　人間に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を体得し、現代社会の諸課題を主体的に発見・分析・解決するために必要な学習に意欲のある人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
5.　将来、地域社会・国際社会の幅広い分野で豊かな共生社会の実現に向けて活動したいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

■文化学部［言語文化系／地域文化創造系］が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストと小論文を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、外国語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目（又は4科目）を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力、表現力を総合的に評価します。

・一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストと面接を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、英語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目（又は4科目）を課します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、課題に対する基礎的知識を総合的に評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験と面接を課します。日本留学試験では、文化学部で学ぶ上で必要な基礎的能力を評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容、TOEIC の結果も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

■文化学部［文化総合系（夜間主コース）］が行う入学者の選抜方法には、学校推薦型選抜（県内）、社会人選抜、3年次編入学選抜があります。

・学校推薦型選抜（県内）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、面接を課します。口頭試問を含む面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書・志望動機書も参考にして質問します。

・社会人選抜（A日程・B日程）

社会人経験を有する者又は就業しながら勉学する意思がある者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

○看護学部

ディプロマ・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目指し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1.　専門的知識に基づいて、看護の対象を人間、健康・環境・生活の視点から包括的に理解することができる能力を有している。

（汎用的・実践的技能）

2.　個人−家族−地域社会のダイナミズムのなかで、健康課題の解決に向けて看護を実践することができる能力を有している。

3.　保健・医療・福祉などのあらゆる場で、リーダーシップを発揮して多職種と協働することができる基礎的能力を有している。

（態度・志向性）

4.　人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を擁護して看護の対象となる人々と関係性を築くことができる能力を有している。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

5.　看護専門職者として生涯にわたって研究的視点をもって看護の本質を探究し、専門性を高めることができる基礎的能力を有している。

6.　国際的・学際的見地に立って人々の健康と安全・安心な暮らしを支える看護を創造することができる基礎的能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

（1）共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

（2）英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

（3）可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

（4）共通教養教育科目により、看護の対象である人間を総合的に理解し、グローバルにものごとや社会を捉える能力、豊かな人間性と感受性を培う。

2. 専門教育科目

専門教育科目は、看護を展開する上で必要となる専門的知識、技術、科学的思考、問題解決能力、国際性・学際性を修得するために、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」「総合科目」を置く。

（カリキュラムの構造・教育内容）

（1）専門基礎科目は、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識や、個人・家族・地域の連続性の中で人々の健康を理解するための知識の修得を目指した科目を置く。

（2） 看護基礎科目は、看護学の概念や基礎的な知識を学び、看護の対象理解、看護者としてのものの見方や考え方、看護技術の修得を目指した科目を置く。
（3） 看護臨床科目は、共通教養教育科目、専門基礎科目、看護基礎科目での学びを基盤とする人間の総合的な理解をふまえ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重しながら、科学的思考、問題解決能力を用いて健康問題を解決し、健康的な生活の向上をはかるための看護を展開する能力を養うことを目指した科目を置く。
（4） 総合科目は、看護専門職者としてのアイデンティティを培うとともに、地域の健康課題を予測し、主体的、積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際的・学際的見地に立って、研究的な視点で看護の本質を探究していく基礎的能力を養うための科目を置く。

（履修方法・順序）
（1） 入学後早期より、看護学への関心を高め、専門的知識と技術を修得するための看護基礎科目と、看護の対象である人間を理解する基礎となる知識を修得するための専門基礎科目を平行して学びながら、学年進行に従って基礎から応用へと専門性を深めることができる構成とする。
（2） 看護基礎科目、専門基礎科目を基盤として、人間の発達段階や健康レベル、個と集団など多様な対象への看護を展開する能力を修得するために、看護臨床科目では各専門領域の看護に関する知識と技術を学び、臨地実習科目で応用、統合できる構成とする。
（3） 学内で学んだ知識、技術を体系的に実践に活かすことができるように、臨地実習科目の履修にあたっては、履修要件を設ける。
（4） 看護専門職者として主体的に学ぶ姿勢と倫理観を養うことができるように、4年間を通して、総合科目を配置する。また、4年次には、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得できるように、総合看護実習や看護研究などの総合科目を配置する。

（教育方法）
（1） 本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を、学生が将来を見据えて修得できるように、『看護学部のカリキュラム構成図』『看護学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
（2） 本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、多彩な教育方法を用いる。事前課題、事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。さらに、学生が知識を活用して分析し判断する力、知識と技術を統合し適切な看護ケアを考え実践する能力を高めるために、シミュレーション教育、少人数教育を行う。科学的論理的思考、新たな看護の知を創造する力を養うために、グループで看護研究を行う。また、学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。

（評価）
各講義科目・演習科目・実習科目では、本学部のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標及び成績評価の方法・基準を、授業概要・実習要項により周知し、評価を行う。卒業時には、ディプロマ・ポリシーに基づいて評価を行う。さらに学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒュ

ーマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成します。

したがって、看護学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 幅広い文系・理系の基礎的学力をもつ人〔知識・教養〕
2. 人間、生活、社会を深く理解する力をもつ人〔思考力・判断力〕
3. ものごとを論理的に考える力をもつ人〔思考力・判断力〕
4. 生涯にわたって学び続ける力をもつ人〔関心・意欲〕
5. 自分で課題を発見し、計画を立て積極的に取り組む力をもつ人〔主体性〕
6. 他者を尊重し、協働してものごとに取り組む力をもつ人〔実行力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

看護学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査（小論文、面接）により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査（面接）により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接により看護を学ぶ上で必要な基礎的学力と、人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と、社会的経験を通して培った能力を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験により日本の大学で看護学を学ぶ上で必要な日本語能力と基礎的学力を、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と日本語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

○社会福祉学部

ディプロマ・ポリシー

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
2. 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

（汎用的・実践的技能）

3. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
4. コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

（態度・志向性）

5. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6. ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7. 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8. 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

（1） 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

（2） 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

（3） 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

（カリキュラムの構造・教育内容）

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために 11 科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11 科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだとこころの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

（履修方法・順序）

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

（教育方法）

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

（評価）

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
2. 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
4. 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5. 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

○健康栄養学部

ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と社会の諸問題に取り組む態度を身につけ、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できることを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1.　広範な学問領域における教養を身につけることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域社会の特性を理解することができる。

2.　健康の保持増進、傷病の予防・回復のために必要な栄養学的知識と技術、指導方法を修得している。

（汎用的・実践的技能）

3.　地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、提案することができる。

4.　管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を身につけている。

（態度・志向性）

5.　栄養や食生活の専門家として、知識や技術を高めるよう生涯にわたって努力することができる。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

6.　公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる。

7.　健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養教育、食生活指導を行うことができる。

カリキュラム・ポリシー

健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

（1）共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

（2）英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

（3）可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

国際性及び社会性を持った管理栄養士を養成するために、「基礎科目」「専門基礎分野」「専門分野」の3科目群を置く。それぞれの科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置する。

（カリキュラムの構造・教育内容）

（1）基礎科目の科目については、他の専門教育科目を履修する上で必要な予備知識や基礎学力を向上させるための補完科目として設置する。

（2）専門基礎分野の科目については、専門分野における知識や技術を修得するための基盤を身につけるために設置する。専門基礎分野を3つの科目群に分け、それぞれ「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を教育内容として位置づける。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目群によって、人間や生活についての理解を深めさせ、「社会・環境と健康」の科目群によって、社会や環境、健康と食生活について理解させる。

（3） 専門基礎分野の中に、それぞれの教育内容の理解を深めるとともに必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
（4） 専門分野の科目については、様々な領域において管理栄養士や栄養教諭としての専門性を高めるために設置する。専門分野を主に6つの科目群に分け、それぞれ「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容として位置づけるとともに、専門分野を横断して、栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養うことを目的とした「総合演習」科目を設置する。
（5） 専門分野の中に、管理栄養士として必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
（6） 専門分野の「実験・実習」科目の中に「臨地実習」科目を設置し、実践活動の場で課題を発見し、それを解決することを通して、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるとともに、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
（7） この他、企業や公共団体等において、その事業内容に応じた社会体験を行う「企業実習」と、一連の研究プロセスを経験することで、課題を解決する能力を身につけるための「卒業研究」を設置する。

（履修方法・順序）
（1） 基礎科目は、1年次に履修する。
（2） 専門基礎分野のうち「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目は、主に1、2年次に履修する。「社会・環境と健康」の科目は、主に3年次に履修する。
（3） 専門分野の科目については、主に2、3年次に履修する。
（4） 専門分野の「臨地実習」科目は、3年次に履修する。
（5） 「企業実習」と「卒業研究」は、4年次に履修する。

（教育方法）
（1） 専門教育科目に、共通教養教育科目のうちの必修科目と履修を推奨する選択科目を加えた「健康栄養学部カリキュラム構成図・履修モデル」「健康栄養学部履修モデル（栄養教諭）」を提示し、履修指導を行う。
（2） 「実験・実習」科目以外の基礎科目、専門基礎分野、専門分野の科目は、事前・事後課題を与える他、グループワークや演習等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

（評価）
各授業科目では、達成目標を定め、達成目標並びに成績の評価方法と評価基準を学生に周知し、それに基づき成績を評価する。学生の「授業評価アンケート」による授業評価と、卒業前に行う「管理栄養士専門的能力到達度アンケート」による学生の自己評価の2つの評価に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

健康栄養学部は、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できる栄養や食生活の専門家を養成することを目的としています。
したがって、健康栄養学部では、次のような人を求めています。

求める学生像
1． 地域社会や人間、健康そして「食」に対して興味・関心を持ち、さらにこれらを探求する意欲のある人〔関心・意欲〕
2． 物事に主体的かつ積極的に取り組む姿勢をもつ人〔主体性〕

3.　健康栄養学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理系科目も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人〔知識・教養〕
4.　幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに論理的な思考によって適切に判断できる人〔思考力・判断力〕
5.　社会の一員であることを自覚し、他人の立場にたって考えることができ、コミュニケーション能力がある人〔表現力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

健康栄養学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの国語・数学・理科・外国語を課すとともに、個別学力検査等では、面接を行います。面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表（プレゼンテーション）します。面接者は、調査書も参考にして質問し、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接により健康栄養学部で学ぶ上で必要な知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。なお、面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表（プレゼンテーション）します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、学校推薦型選抜や一般選抜同様、プレゼンテーション形式の面接を行うとともに、高等学校等までの理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うことで、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、大学での学習に必要な基礎的な日本語能力と数学や理科の知識を評価するために日本留学試験を用います。面接では、理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うとともに、日本語によるプレゼンテーション形式の面接を行います。面接者は、日本留学試験の日本語「記述」答案や志望動機書も参考にして質問します。これらにより、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

【 大 学 院 】

○看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うことを目的とする。

1. 個人－家族－地域を多角的、複眼的視点で捉え、看護専門領域に関する理論、関連領域の知識・技術、高い倫理観を基盤として、エビデンスに基づく高度な看護実践ができる能力を有している。
2. 地域社会や生活環境の中で、人々が自立して健康生活を営むことができるように、地域の人々と協働して、健康を促進する地域文化の形成・発展に貢献できる能力を有している。
3. 社会のニーズや健康に関する課題に積極的に関与し、他の職種の専門性を尊重した上で協働しながら社会状況に対応する方略を開発する能力を有している。
4. 学際的視点をふまえて看護実践の場、教育や政策の場で看護現象を研究的視点でとらえ、論理的思考力、リーダーシップとマネジメント力を発揮して変革者として貢献できる能力を有している。
5. 看護実践を支える科学的・哲学的基盤を理解し、看護研究を通して、看護学の体系化とその発展に貢献できる教育・研究能力を有している。
6. 国際的動向や多様な文化に関する幅広い知識や最新の情報を備えて、看護をグローバルな視点から捉え、看護の普遍性の追求と体系化に貢献できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うために、教育理念に基づき、高度実践看護師（以下CNS）コース、研究コース及び実践リーダーコースを設け、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成している。

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目群として「共通科目（大学院共通科目・専攻共通科目）」、「領域専門科目」及び「研究支援科目」の科目群をおく。
2. CNSコースは、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・実践演習・課題研究を含む、専門看護師認定試験受験に必要な科目をおく。
3. 研究コースは、共創看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、災害・国際看護学、看護管理学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
4. 実践リーダーコースは、臨床看護学と地域保健学の2領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
5. 認定看護管理者認定審査受験、養護教諭専修免許、高等学校教諭（看護）専修免許に必要な科目をおく。

（順序性）

6. 1年次は看護学の学術的基盤を形成するためにCNSコース、研究コース、実践リーダーコースともに共通科目、1年次後半から2年次は専門性を高める領域専門科目を選択し、コースワークを踏まえて研究支援科目を履修できるように編成している。
7. 修士論文作成に向けて、2年次に研究計画書の提出、中間報告会の開催、修士論文を提出するように編成している。

（教育方法）

8.　前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来ビジョンに向けて修得できるように、CNSコース、研究コース、実践リーダーコースの履修モデルを提示し、履修指導を行う。

9.　前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、実習、研究指導を行う。事前・事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング、シミュレーション等により、学生が主体的に学ぶ方法、専門性を高める方法を取り入れる。

10.　実践リーダーコースは、大学院設置基準第14条特例に基づくコースで、授業は原則、土曜日・日曜日に開講する。

（評価方法）

11.　各講義科目・演習科目・実習科目では、前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価（論文審査・最終試験）を行う。

12.　修了時には学生によるディプロマ・ポリシーの達成度、修士課程で修得すべき能力の評価、カリキュラム評価を行い、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証を行う。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を有する人材を育成します。

したがって、博士前期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1.　看護理論や看護研究に対する基礎的知識と科学的思考力をもつ人

2.　専門的知識・技術に基づき看護を展開する能力をもつ人

3.　看護学を創造していくために必要な自らの看護観・人間観・倫理観をもつ人

4.　看護現象を多面的に捉え、看護学を探求する力をもつ人

5.　生涯にわたって高度実践看護職者・教育者として、研鑽し続ける力をもつ人

6.　社会の変化や健康課題についての問題意識をもち、保健医療福祉や看護学教育を革新したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学者選抜の出願区分として「一般」及び「学内推薦」をおきます。各出願区分の入学者選抜の基本方針は以下のとおりとします。

・一般（入試）

本区分では、「英語」「小論文」「専門科目」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

英語：英文の読解能力と設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価します。

小論文：看護学の発展に寄与する専門的知識、看護に対する専門職業人としての洞察力、論理性と抽象的に思考する力を評価します。

専門科目：看護の専門的能力（専門的知識、実践能力）、論理的思考力及び社会や健康に関わる課題を分析する能力について評価します。

面接：看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力を点数化して評価しま

す。実践リーダーコースにおいては面接時に研究計画書を活用します。

・学内推薦（入試）

本区分では、「小論文」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

小論文：看護学の発展に寄与する専門的知識、看護に対する専門職業人としての洞察力、論理性と抽象的に思考する力を評価します。

面接：看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力を点数化して評価します。

○看護学研究科　看護学専攻　博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うことを目的とする。

1. 看護の学識者としての責務を果たし、看護学の発展の基盤となる普遍性を有する看護哲学を追求し続ける能力を有している。
2. 看護学の学術的な基盤を発展させるために、グローバルスタンダードで看護学の知識や技術を研究開発し、看護学にイノベーションをもたらす能力を有している。
3. 最新の看護学の知識や技術、看護関連分野の知見等を活用し、倫理的・文化的基盤を持って人や社会に貢献するケアの開発に取り組み、人々の安心な生活の実現やQOLの向上を推進していくことのできる能力を有している。
4. 看護学を発展させ新たな知見を創生する研究活動を行い、社会に向けて提言できる能力を有している。
5. 国内外の専門職と連携して、政策開発や意思決定に参加し、健康医療福祉システムの構築や変革をもたらす能力を有している。
6. 科学的・学際的な基盤を持って人々の健康生活や健康文化を創造することに寄与する、次世代の高度実践看護者を養成する高等教育を担う能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程では、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うために、教育理念に基づき以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成している。

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目群として、専攻共通科目、専攻専門科目および研究支援科目の科目群をおく。
2. 分野として、共創看護学、がん看護学、成人看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学、地域看護学、学校保健学、災害・国際看護学、看護病態生理学、看護経営管理学の分野をおく。
3. 専攻共通科目は、看護学の学術的基盤を発展させ高度な研究能力を育成するためにおく。
4. 専攻専門科目は、新たな専門的知識の蓄積・精選・拡充などをはかり、特定の看護分野の専門性を構築する科目としておく。
5. 研究支援科目は、研究課題を探究し、段階的に博士論文作成のプロセスを支持する科目としておく。

（順序性）

6.　専攻共通科目と専門性に応じて専攻専門科目を選択し、コースワークを踏まえて、３年間にわたり看護学特別研究を履修できるように編成している。

7.　博士論文作成に向けて、1年次には研究計画書の提出、2年次には中間報告会の開催、3年次には一次審査論文の提出を課し、博士論文を提出するように編成している。

（教育方法）

8.　後期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を修得できるように、履修モデルに基づき履修指導を行い、コースワークの推進、博士論文作成指導、学位審査等の教育のプロセスを支援する。

9.　研究能力を高めるために、入学時より主指導教員および副指導教員をおき、複数指導教員体制で博士論文作成指導にあたる。

（評価方法）

10.　後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準を周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士課程で修得すべき能力の評価等（最終試験）を行う。

11.　博士論文は、主指導教員および副指導教員による研究計画書審査、倫理審査、中間報告会、公聴会を経て、博士論文審査基準に基づき学位審査委員会において審査を行う。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を有する人材を育成します。

したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1.　豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康や社会に対して探究する力をもつ人

2.　看護学の専攻分野の深い知識及び柔軟な発想力と創造力をもつ人

3.　看護学に関連する課題に関心をもち、課題解決に向けて研究を遂行する力をもつ人

4.　普遍性を追求し、看護学の発展に寄与する意志をもつ研究者・教育者を目指す人

5.　国際的、学際的見地から看護研究や看護学教育を通して社会に貢献したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程における入学者選抜では、「英語」「小論文」の筆記試験を行い、口述試験と提出された研究計画書をもとに、以下の能力を総合的に評価します。

英語：英文の読解力、設問の内容を的確に把握し解答する能力を点数化して評価します。

小論文：看護学の学術基盤や研究の発展に寄与する能力と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性について評価します。

口述試験：看護学の専門性、研究を進めていくために必要な能力を点数化して評価します。

研究計画書：研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法の記述から研究遂行能力について評価します。

○看護学研究科 博士課程

ディプロマ・ポリシー

修了要件は、履修単位を 50 単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格することを定めています。審査においては、本課程の教育目的に対応した能力について総合的に評価を行い、修了要件を満たす者に博士（看護学）とし、（DNGL：Disaster Nursing Global Leader）を付記した、学位を授与します。

○ 人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。
○ 災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。
○ グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
○ 学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

豊かで高度な看護学専門知識を培い、学際的・国際的でグローバルな見識に基づいた研究を発展させ、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄付する災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的に基づき以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。

○ カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「災害看護学の基盤を支える科目群」、災害看護学を学問として構築する能力を養うための「災害看護学の専門科目群」、災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割を身につけるための「インデペンデント学修科目群」及び「災害看護学研究支援科目群」の4つの科目群によって構成する。
○ 学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学び、グローバルリーダーとしての能力を培うことができるように、「インデペンデント学修科目群」に「インデペンデントスタディ」を科目として置く。
○ 構成大学院（「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研科」）は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
○ 学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualifying Examination を行う。
○ 構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように編成している。

アドミッション・ポリシー

本大学院の理念・目的に基づき、次のような資質をもつ人材を受け入れます。

○ 災害看護グローバルリーダーとしてのビジョンを持っている人材。
○ 災害看護グローバルリーダーとしての活動にコミットメントでき、その能力を伸ばしていける人材。

※令和3（2021）年度から学生募集停止。

○人間生活学研究科　人間生活学専攻　博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。

共通ディプロマ・ポリシー

1.　人間の生活に根ざした学問（栄養・生活学、社会福祉学、文化学）を基盤に、専攻領域及び関連領域における学術的知識を身に付けている。
2.　設定した研究課題を学際的・科学的な視点で捉え、学問の体系化と発展に寄与する研究能力を身に付けている。

領域（学位名称）別ディプロマ・ポリシー

栄養・生活学領域　＜修士（生活科学）＞

1.　栄養・生活に関する分野における専門的な知識と技術を身に付けている。（知識・理解）
2.　地域社会の特性を踏まえ、栄養・生活に関する諸課題を科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。（研究遂行能力）
3.　グローバルな視野を持って、栄養・生活に関する諸課題に取り組み、その過程で得られた技術や知識を世界に向けて発信できる力を身に付けている。（総合的な学修経験と創造的思考力）

社会福祉学領域　＜修士（社会福祉学）＞

1.　社会福祉学の分野における専門的な知識と技術を身に付けている。（知識・理解）
2.　地域社会の特性を踏まえ、社会福祉に関する諸課題を科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。（研究遂行能力）
3.　グローバルな視野を持って、社会福祉学の新たな支援方法や資源の開発等に取り組み、創造的な実践を展開できる力を身に付けている。（総合的な学修経験と創造的思考力）

文化学領域　＜修士（学術）＞

1.　文化研究の分野における専門的な知識と技術を身に付けている。（知識・理解）
2.　文化に関する地域の諸課題を人文科学的または社会科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。（研究遂行能力）
3.　文化に関する諸課題に取り組み、その過程で得られた技術や知識を地域に向けて発信できる力を身に付けている。（総合的な学修経験と創造的思考力）

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。この目的のために、以下の方針に基づき本課程のカリキュラムを編成する。

共通カリキュラム・ポリシー

（構造・内容）

1.　カリキュラムを構成する科目区分として、「共通科目（大学院共通科目、専攻共通科目）」「専門科目（栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目、文化学領域科目）」の科目群をおく。また、研究能力を総合的に養成するための研究指導科目として、領域ごとに「課題研究演習」をおく。

2.　栄養・生活学領域科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
3.　社会福祉学領域科目に「福祉専門基礎分野」「地域社会・多文化分野」「高齢分野」「障害分野」「児童・家庭分野」の科目群をおく。
4.　文化学領域科目に「地域文化」「日本文化」「英語文化」の科目群をおく。

（順序性）
5.　研究の基礎的能力を修得させるため、1年次に共通科目の「研究と倫理」（必修）と「研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（選択必修）を履修させる。

（教育方法）
6.　学生の志望に従い、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行う。
7.　博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、研究指導をバランスよく行う。事前・事後課題、グループ討議、アクティブラーニングなどにより、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

（評価方法）
8.　講義や演習では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標や成績評価の方法・基準を周知し、評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価（論文審査・最終試験）を行う。
9.　学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいてカリキュラムの改善を図る。

<u>領域別カリキュラム・ポリシー</u>

栄養・生活学領域　＜修士（生活科学）＞

栄養・生活学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、栄養・生活学領域を中心として3つの領域科目から 18 単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）
1）複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、栄養・生活学領域科目を中心に、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2）課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「栄養・生活学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）
3）栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

社会福祉学領域　＜修士（社会福祉学）＞

社会福祉学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、社会福祉学領域を中心として3つの領域科目から 18 単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1） 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、社会福祉学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目から履修させる。

2） 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「社会福祉学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3） 社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

文化学領域 ＜修士（学術）＞

文化学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、文化学領域を中心として3つの領域科目から 18 単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1） 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、文化学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目から履修させる。

2） 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「文化学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3） 文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、人間生活学に根ざした教育・研究を基盤とし、総合的な視座から地域社会の生活課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。このために、入学者選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1. 人間生活や地域にかかわる諸課題に関心を持ち、その究明・解決に向けて、強い目的意識や探究心をもって取組もうとする人
2. 課題に対して積極的に取組む熱意と主体的に学ぶ意欲、やり遂げる強い意志をもつ人
3. 専攻する領域に関する基礎となる知識と柔軟な思考力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学者選抜の出願区分として「一般」「社会人」「外国人留学生」及び「学内推薦」をおく。各出願区分の入学者選抜の基本方針は以下のとおりとする。

・一般（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。

筆記試験：小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験：「研究計画書」に基づく発表と質疑応答を行い、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力等について評価する。本研究科への適性は、次のうちいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために活かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容（目的・方法・期待される結果）及び研究の特色（新規性・独創性）を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

研究計画書：研究の内容・方法、志望領域の専門性等について評価する。

・社会人（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。

プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度等について評価する。

面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答を行い、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

なお、本区分での出願にあたっては、大学院入試説明会に出席した上で事前面談を経なければならない。

・外国人留学生（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。

プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度等について評価するとともに、日本語の会話能力について確認をする。

面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答を行い、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

・学内推薦（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。

筆記試験：小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、文章表現力等について評価する。

口述試験：「研究計画書」に基づく発表と質疑応答を行い、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力等について評価する。本研究科への適性は、次のうちいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために活かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容（目的・方法・期待される結果）及び研究の特色（新規性・独創性）を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

研究計画書：研究の内容・方法、志望領域の専門性等について評価する。

○人間生活学研究科 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。

共通ディプロマ・ポリシー

1. 人間の生活に根ざした学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を自立して展開する能力を身に付けている。
2. 研究分野に関する国内外の動向を俯瞰的に把握し、学際的な関連分野の知見をふまえて、自己の研究の位置づけを明確にすることができる。
3. 人間の生活に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて研究を実践する能力を身に付けている。

領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

栄養・生活学領域 ＜博士(生活科学)＞

1. 栄養・生活に関する分野における高度に専門的な知識を持ち、栄養・生活に関する分野を系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 栄養・生活に関する諸課題を総合的・学際的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 栄養・生活に関する分野における研究の発展に寄与する新たな知見を研究成果として公表する能力を身に付けていると同時に、社会に向けて提言することができる。(研究遂行能力)
4. グローバルな視野を持った教授者として、栄養・生活に関する分野における専門職教育を担う能力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

社会福祉学領域 ＜博士(社会福祉学)＞

1. 社会福祉分野における高度に専門的な知識を持ち、社会福祉学を系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 社会福祉学に関する諸課題を総合的・学際的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 社会福祉学の分野における研究の発展に寄与する新たな知見を研究成果として公表する能力を身に付けていると同時に、社会に向けて提言することができる。(研究遂行能力)
4. グローバルな視野を持って、地域共生社会の実現に向けて指導的役割を担うことができる研究者および専門職業人としての能力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

文化学領域 ＜博士(学術)＞

1. 文化研究の分野における高度に専門的な知識と系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 文化に関する事象や課題を人文科学的または社会科学的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 文化に関する研究分野の発展に寄与する新たな知見を提供し、広く社会に発信することができる。(研究遂行能力)

4.　グローバルな視野を持って、文化に関する研究能力を活かし、研究成果を公表することができる。（総合的な学修経験と創造的思考力）

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。本課程は、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

共通カリキュラム・ポリシー

（構造・内容）

1.　カリキュラムを構成する主要科目群として、「専攻共通科目」、「専門科目」及び「研究指導科目」をおく。
2.　専攻共通科目群は、人間生活に係わる諸問題に対し、多角的な視点から接近することのできる能力を涵養することを目的とする。
3.　専門科目群に、「栄養・生活学」、「社会福祉学」、及び「文化学」の3領域をおく。
4.　専門科目群は、学術研究の動向についての理解を深化させることを目的とする。
5.　研究指導科目として、領域ごとに「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をおく。

（評価方法）

6.　博士後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った到達目標並びに成績評価の方法及び基準を周知する。
7.　博士後期課程の修了時には、ディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士後期課程で修得すべき能力の評価等の最終試験を実施する。
8.　学位授与の審査は、主研究指導教員及び副研究指導教員による研究計画書審査、中間報告会、博士論文第一次審査及び公聴会における口頭発表を経た後、博士論文審査基準に準拠し学位審査委員会において審査を行う。

領域別カリキュラム・ポリシー

栄養・生活学領域　＜博士（生活科学）＞

（順序性）

1.　複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に栄養・生活学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2.　分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「栄養・生活学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3.　研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「栄養・生活学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4.　収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「栄養・生活学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

（教育方法）

5.　学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6.　多様な視点から研究指導が得られるように、栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名

のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

社会福祉学領域 ＜博士（社会福祉学）＞

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に社会福祉学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「社会福祉学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「社会福祉学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「社会福祉学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

（教育方法）

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

文化学領域 ＜博士（学術）＞

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に文化学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「文化学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「文化学特別研究Ⅱ」を履修させる。加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「文化学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

（教育方法）

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、人間生活学を基盤とした教育・研究を基盤とし、自立した研究者として知識基盤社会を支える能力と次世代の高等教育を担う人材を養成することを目的としています。したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 社会の生活課題に関心を有し、明確な目的意識、強い探究心、並びに研究的手法をもって課題の解決に取り組もうとする人
2. 課題達成への強い熱意をもち、学術研究に意欲的に取り組む人
3. 専門分野に関する深い知識、柔軟な発想力及び創造力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人であると同時に、人間生活の向上に寄与できる豊かな人間性と研究倫理を有し、研究者及び高等教育を担う教育研究者をめざす人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学者選抜では、「筆記試験」「領域専門」及び「口述試験」を行い、提出された研究計画書と併せて、以下の能力を総合的に評価する。

筆記試験：英文の読解力と設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。

領域専門：社会福祉学領域及び文化学領域では、小論文により、研究を進めるうえでの専門知識と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。栄養・生活学領域では、プレゼンテーションにより、研究を進めるうえでの専門知識、プレゼンテーションに基づく論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、質問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。

口述試験：研究計画についての発表と質疑応答を行い、志願領域の専門性や、研究を進めていくための必要な能力について評価する。

研究計画書：研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価する。

２ 受講者の状況

【 学 部 】

（1）共通教養教育科目

リテラシー科目

○文化学部 文化学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	14
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	128
英語コミュニケーションⅠC	305	ITリテラシー	101
英語コミュニケーションⅠD	181	コンピュータリテラシー	155
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	19	ビジネスリテラシー	37
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	14	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	23		

○看護学部 看護学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	28
英語コミュニケーションⅠC	154	ITリテラシー	21
英語コミュニケーションⅠD	79	コンピュータリテラシー	68
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	1	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	0	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	0		

○社会福祉学部 社会福祉学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	1
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	1
英語コミュニケーションⅠC	137	ITリテラシー	81
英語コミュニケーションⅠD	71	コンピュータリテラシー	71
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	6	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	0	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	5		

○健康栄養学部 健康栄養学科

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	18
英語コミュニケーションⅠC	75	ITリテラシー	30
英語コミュニケーションⅠD	40	コンピュータリテラシー	31
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	1	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	1	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	0		

教養基礎科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
科学と人間	11	法学	48
基礎化学	31	政治学	45
基礎生物学	273	経済学	55
物理と自然法則	7	倫理学	302
地球の科学	24	哲学	156
数学入門	2	文学	85
データサイエンス入門	60	基礎ジェンダー学	188
社会調査基礎論	10	心理学	250
日本国憲法	170		

課題別教養科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
生活と社会福祉	76	労働と人権	未開講
現代生活論	102	地域とグローバリゼーション	未開講
環境と健康と安全	18	家族関係論	130
自然災害と防災の科学	120	異文化理解海外フィールドワーク	25
平和論	未開講	人権教育論	74
現代人権論	64		
ジェンダーとキャリア	未開講		

健康・スポーツ科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
健康スポーツ科学Ⅰ	274	健康とヘルスプロモーション	5
健康スポーツ科学Ⅱ	221	栄養と健康	62
対人関係とメンタルヘルス	151		

域学共生科目

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
地域学概論	332	専門職連携論	113
土佐の歴史と文化	44	チーム形成論	68
土佐の経済とまちづくり	74	地域学実習Ⅰ	350
土佐の自然と暮らし	185	地域学実習Ⅱ	217
土佐の食と健康	216	域学共生実習	15

【 学 部 】

(2)専門教育科目

○文化学部　文化学科

(その1)　　(単位:人)

授業科目				受講者数
文化学部共通科目	リテラシー科目		基礎演習	158
			中国語基礎Ⅰ	99
			中国語基礎Ⅱ	90
			ドイツ語基礎Ⅰ	20
			ドイツ語基礎Ⅱ	20
			フランス語基礎Ⅰ	27
			フランス語基礎Ⅱ	25
			日本語Ⅰ	3
			日本語Ⅱ	3
			情報処理演習	184
			文献調査論	165
			基礎読書法	120
	エッセンシャル科目		文化哲学	186
			文化人類学	194
			文化と権利	137
			文化と裁判	124
			公共哲学	62
			民俗学	86
			文化と経済	59
			日本文学概論	151
			言語学概論	165
			日本語学概論	141
			グローバル平和論	124
			社会調査論	52
			域学共生フィールドワーク	9
			文化学課題研究ゼミナールⅠ	142
			文化学課題研究ゼミナールⅡ	137
			文化学課題研究ゼミナールⅢ	145
			文化学課題研究ゼミナールⅣ	152
	キャリア形成科目		キャリアデザイン論	138
			キャリア形成論	125
			企業実習	34
文化学部専門科目	言語文化系	英語学領域	英語学概論	54
			比較言語研究	24
			対照言語学	11
			言語教育実践論Ⅰ	8
			言語教育実践論Ⅱ	7
			英語文法論	54
			英語ライティングⅠ	8
			英語ライティングⅡ	8
			英語音声学	36
			英語スピーキングⅠ	8
			英語スピーキングⅡ	8
			英語学専門演習Ⅰ	18
			英語学専門演習Ⅱ	26
		国際文化領域	英文化・文学史	96
			英文化・文学論	41
			米文化・文学史	31
			米文化・文学論	31
			異文化理解Ⅰ	20
			異文化理解Ⅱ	21

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	言語文化系	国際文化領域	異文化理解Ⅲ	9
			国際日本学	6
			比較日本学Ⅱ(～2018)	1
			比較日本学	41
			国際関係論	56
			国際開発論	12
			国際文化専門演習Ⅰ	26
			国際文化専門演習Ⅱ	19
		日本語学領域	日本語史	82
			日本語音声学・音韻論	69
			日本語学講読	63
			日本語文章構成論	94
			国語教育学講読Ⅰ	45
			国語教育学講読Ⅱ	15
			日本語教育学概論	14
			日本語教育教材論	12
			日本語学専門演習Ⅰ	38
			日本語学専門演習Ⅱ	30
		日本文学領域	基礎古典	101
			日本文学史(古典)	44
			日本文学史(近代)	31
			古典文学基礎講読Ⅰ	86
			古典文学基礎講読Ⅱ	76
			古典文学講読Ⅰ	2
			古典文学講読Ⅱ	3
			近代文学講読	42
			現代文学講読	81
			中国文学史	48
			中国文学講読(散文)	48
			中国文学講読(韻文)	32
			日本文学専門演習Ⅰ	38
			日本文学専門演習Ⅱ	33
			書道	34
	地域文化創造系	地域文化領域	地域文化論	207
			日本思想史	8
			日本文化論	125
			地域文化資源論Ⅰ	96
			地域文化資源論Ⅱ	82
			文化政策論	96
			男女共同参画社会論	30
			地域防災論	145
			住文化論	119
			地域文化専門演習Ⅰ	25
			地域文化専門演習Ⅱ	19
		地域づくり領域	地域づくり論	170
			地域産業論	61
			地域分析論	53
			地方自治論	121
			NPO論	54
			地域づくりフィールドスタディ	64
			地域づくり専門演習Ⅰ	25
			地域づくり専門演習Ⅱ	21

（その2）　　（単位：人）

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	観光文化領域	観光文化論Ⅰ	60
			観光文化論Ⅱ	77
			景観文化論	133
			観光と自然環境	154
			観光文化フィールドスタディⅠ	19
			観光文化フィールドスタディⅡ	10
			観光フィールド専門演習Ⅰ	30
			観光フィールド専門演習Ⅱ	36
		観光まちづくり領域	観光学総論	64
			観光まちづくり論Ⅰ	58
			観光まちづくり論Ⅱ	8
			観光産業論（～2018）	1
			観光産業論Ⅰ	175
			観光産業論Ⅱ	未開講
			観光企画論	98
			観光まちづくりフィールドスタディⅠ	19
			観光まちづくりフィールドスタディⅡ	11
			観光まちづくり専門演習Ⅰ	28
			観光まちづくり専門演習Ⅱ	35

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	現代法文化領域	文化と人権	158
			文化と統治システム	159
			社会秩序と法	115
			犯罪と法	78
			情報化社会と法文化	70
			地域社会と法文化	161
			現代法文化専門演習Ⅰ	10
			現代法文化専門演習Ⅱ	7
		生活法文化領域	生活と法文化	112
			災害と法	105
			ワーク・ライフ・バランスと法	51
			労働契約と法文化	83
			社会保障と法文化	33
			家族関係と法文化	34
			生活法文化専門演習Ⅰ	10
			生活法文化専門演習Ⅱ	7

○看護学部　看護学科

（その1）　（単位：人）

授業科目			受講者数
専門基礎科目		医学の世界	82
		生化学	82
		栄養学	82
		薬理学	85
		微生物学	83
		人体の構造Ⅰ	82
		人体の構造Ⅱ	81
		人体の機能Ⅰ	104
		人体の機能Ⅱ	90
		人体のしくみの乱れⅠ	87
		人体のしくみの乱れⅡ	92
		心のしくみ	81
		診断学	93
		治療学総論	85
		病態と治療Ⅰ	84
		病態と治療Ⅱ	85
		病態と治療Ⅲ	83
		小児と疾患	83
		公衆衛生学	90
		健康管理論	83
		保健統計学	83
		疫学	82
		地域保健政策	79
		生命の科学と倫理	34
		医療史	31
		社会保障と看護	3
		心理学と心理的支援	30
		行動科学	17
		保健行動論	4
		人間工学	未開講
		在宅医療	5
		医療と経営	7
		助産学	15
		助産診断論	15
看護基礎科目	基礎看護学	看護学総論	82
		人間と看護	82
		健康と看護	82
		環境と看護	81
		看護研究方法論	84
		看護哲学と倫理	78
	看護援助学	生活と看護	82
		生活援助論	81
		看護過程論	84
		援助関係論	81
		フィジカルアセスメント	81
		治療援助論	83

授業科目			受講者数
看護基礎科目	看護援助学	症状と看護	83
		看護援助の動向と課題	未開講
		ふれあい看護実習	81
		看護基盤実習	88
		看護実践能力開発実習Ⅰ	87
	看護管理学	看護システム論	未開講
		看護サービス論	78
		看護教育論	未開講
		看護管理の動向と課題	未開講
		チーム医療実習	83
		看護管理実習	78
看護臨床科目	急性期看護学	急性期看護論	83
		急性期看護援助論	82
		回復期看護援助論	83
		急性期看護の動向と課題	2
		急性期看護実習	83
	慢性期看護学	慢性期看護論	83
		慢性期看護援助論	82
		終末期看護援助論	82
		慢性期看護の動向と課題	未開講
		慢性期看護実習	83
	老人看護学	老人看護学総論	83
		老人の健康と看護	83
		老人看護援助論	84
		老人看護の動向と課題	未開講
	精神看護学	精神看護学総論	83
		精神の健康と看護	83
		精神看護援助論	83
		精神看護の動向と課題	未開講
		精神看護実習	82
	小児看護学	小児看護学総論	84
		小児の健康と看護	83
		小児看護援助論	83
		小児看護の動向と課題	未開講
		小児看護実習	82
	母性看護学	母性看護学総論	84
		母性看護対象論	未開講
		母性の健康と看護	84
		母性看護援助論	83
		母性看護の動向と課題	未開講
		母性看護実習	83
	助産看護学	助産看護学総論	8
		助産看護診断論	8
		助産技術論Ⅰ	8
		助産技術論Ⅱ	8
		助産看護援助論	8
		助産看護管理論	8
		助産看護の動向と課題	8
		助産看護実習Ⅰ	8
		助産看護実習Ⅱ	8

（その2）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
看護臨床科目	在宅看護学	在宅看護学総論	83
		在宅看護対象論	83
		在宅看護援助論	79
		在宅看護リエゾン論	未開講
		在宅看護の動向と課題	3
		在宅看護実習	79
	地域看護学	地域看護学総論	83
		地域の健康と看護	83
		地域看護援助論	83
		地域看護の動向と課題	未開講
		地域看護実習	75
	学校保健	学校保健	11
		養護概説	15
総合科目		看護研究	79
		看護と政策	79
		がん看護論	83
		総合看護実習	78
		総合看護実習Ⅰ	未開講
		総合看護実習Ⅱ	未開講
		家族看護実習	未開講
		看護実践能力開発実習	79
		看護実践能力開発実習Ⅱ	未開講
		バイオロジカルナーシング	10
		治療と看護	1
		災害と看護	56
		災害看護実践論	4

授業科目		受講者数
総合科目	グローバル社会と看護Ⅰ	81
	グローバル社会と看護Ⅱ	3
	異文化理解看護フィールドワーク	3
	看護地域フィールドワーク	43
	看護学の動向と課題	8
	看護セミナーⅠ	82
	看護セミナーⅡ	3
	看護セミナーⅢ	2
	看護セミナーⅣ	82
	看護セミナーⅤ	82
	臨床看護論Ⅰ（人間の自立とQOL）	14
	臨床看護論Ⅱ（家族と健康）	17
	臨床看護論Ⅲ（子どもの発達と健康）	38
	臨床看護論Ⅳ（慢性の病と生活）	未開講
	臨床看護論Ⅴ（健康と病気の探究）	5
	臨床看護論Ⅵ（看護と倫理的課題）	9
	母性・助産看護実践論	8
	精神看護実践論	3
	急性期看護実践論	10
	小児看護実践論	9
	地域看護実践論	4
	老人看護実践論	12
	看護実践論Ⅰ	未開講
	看護実践論Ⅱ	未開講
	看護実践論Ⅲ	未開講
	看護実践論Ⅳ	未開講
	医学と看護の統合	79
	最新実践看護講座Ⅰ	3
	最新実践看護講座Ⅱ	4

○社会福祉学部　社会福祉学科

（単位：人）

授業科目		受講者数
基本科目	福祉対象入門	71
	福祉援助入門	72
	社会福祉入門演習	71
	社会福祉基礎演習	70
	心理学と心理的支援	72
	社会学と社会システム	71
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	71
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	71
	社会福祉史	80
	介護技術	17
社会福祉制度科目	社会保障論Ⅰ	71
	社会保障論Ⅱ	70
	公的扶助論	76
	障害者福祉論	74
	児童・家庭福祉論	71
	高齢者福祉論Ⅰ	70
	高齢者福祉論Ⅱ	75
	精神保健福祉の原理	27
	精神保健福祉制度論	14
	福祉行財政と福祉計画（～2020）	2
	福祉サービスの組織と経営	70
	権利擁護論	78
	更生保護制度	59
	保健医療サービス	75
	女性福祉論	37
	医療福祉論	55
からだとこころの理解科目	医学概論	76
	精神医学Ⅰ	13
	精神医学Ⅱ	13
	精神保健学Ⅰ	13
	精神保健学Ⅱ	20
	発達と老化の理解Ⅰ	16
	発達と老化の理解Ⅱ	22
	認知症の理解Ⅰ	14
	認知症の理解Ⅱ	14
	障害の理解Ⅰ	25
	障害の理解Ⅱ	27
	こころとからだのしくみⅠ	19
	こころとからだのしくみⅡ	17
ソーシャルワーク基礎科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	70
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	70
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	73
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	73
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	73
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	71
	ソーシャルワークの理論と方法（精神）	10
	面接技法	64
	医療ソーシャルワーク論	46
ソーシャルワーク実践科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ	74
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	74
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	69
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	69
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	61
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	72
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	72
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	62
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	41
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	61
	ソーシャルワーク実習Ⅲ	61
	事例研究法	19
	実践記録法	10

授業科目		受講者数
	チームアプローチ	9
	スーパービジョン	10
地域・国際福祉科目	地域福祉論Ⅰ	77
	地域福祉論Ⅱ	78
	地域福祉活動	8
	国際福祉論	60
	コミュニティソーシャルワーク	40
	福祉NPO論	43
	子育て支援論	未開講
	虐待防止論	44
社会復帰支援科目	ケアマネジメント論	41
	ケアマネジメント演習	26
	ケアプラン策定法	11
	就労支援サービス（～2020）	71
	精神障害リハビリテーション論	19
精神保健福祉実践科目	精神保健福祉援助演習（～2020）	22
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	10
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	未開講
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	11
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	22
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	22
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	22
介護福祉理解科目	介護の基本Ⅰ	16
	介護の基本Ⅱ	10
	介護の基本Ⅲ	21
	コミュニケーション技術	15
	生活支援技術Ⅰ	16
	生活支援技術Ⅱ	15
	生活支援技術Ⅲ	10
	生活支援技術Ⅳ	10
	生活支援技術Ⅴ	21
	介護過程Ⅰ	15
	介護過程Ⅱ	10
	介護過程Ⅲ	10
	介護過程Ⅳ	20
介護福祉実践科目	介護総合演習Ⅰ	15
	介護総合演習Ⅱ	10
	介護総合演習Ⅲ	20
	介護総合演習Ⅳ	18
	介護実習Ⅰ	15
	介護実習Ⅱ	10
	介護実習Ⅲ	20
	医療的ケアⅠ	20
	医療的ケアⅡ	18
総合科目	福祉研究法入門	75
	社会福祉調査の基礎	67
	社会福祉専門演習Ⅰ	69
	社会福祉専門演習Ⅱ	70
	社会福祉専門演習Ⅲ	79
	社会福祉専門演習Ⅳ	81

○健康栄養学部　健康栄養学科

（単位：人）

授業科目		受講者数
基礎科目	健康栄養学基礎	41
	健康栄養学応用	41
社会・環境と健康	地域健康論	42
	介護論	42
	食と介護	42
	保健医療福祉論	43
	地域医療論	15
	公衆衛生学	43
	環境衛生学実習	42
	健康情報論実習	41
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	41
	生化学Ⅱ	41
	生化学実験	42
	人体の構造と機能Ⅰ	43
	人体の構造と機能Ⅱ	42
	臨床医科学	12
	疾病論Ⅰ	43
	疾病論Ⅱ	42
	運動生理学	42
	生体科学実験・実習	42
食べ物と健康	食品学	42
	食品学実験Ⅰ	41
	食品学実験Ⅱ	42
	食材学	41
	食品の栄養素と機能	42
	食品衛生学	42
	食品衛生学実験	42
	フードシステム学	1
	調理学	41
	調理学実習Ⅰ	41
	調理学実習Ⅱ	41
	調理学実習Ⅲ	32
	調理科学実験	6
基礎栄養	基礎栄養学	41
	基礎栄養学実験	42
応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	43
	応用栄養学Ⅱ	42
	応用栄養学実習	42
	ライフステージ栄養学	42

授業科目		受講者数
栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	42
	栄養教育論Ⅱ	43
	栄養教育論Ⅲ	42
	栄養教育論実習Ⅰ	43
	栄養教育論実習Ⅱ	42
	学校栄養指導論Ⅰ	10
	学校栄養指導論Ⅱ	9
臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	42
	臨床栄養学Ⅱ	43
	臨床栄養学Ⅲ	43
	臨床実践栄養学	42
	臨床栄養学実習Ⅰ	43
	臨床栄養学実習Ⅱ	42
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	42
	公衆栄養学Ⅱ	43
	地域公衆栄養学実習	43
給食経営管理論	給食経営管理論	42
	給食計画論	42
	給食経営管理実習Ⅰ	43
	給食経営管理実習Ⅱ	43
総合演習	管理栄養士総合演習Ⅰ	43
	管理栄養士総合演習Ⅱ	43
臨地実習	給食経営管理臨地実習	43
	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	42
	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	42
	地域公衆栄養学臨地実習	43
	地域実践栄養学臨地実習	未開講
その他	企業実習	未開講
	健康栄養フィールドワーク	42
	HACCP管理論	42
課題研究	卒業研究	38

【 学 部 】

(3)教職に関する専門教育科目

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
教職に関する専門教育科目	教育原理	36	教職に関する専門教育科目	教育実習Ⅰ	19
	教育基礎理論	23		教育実習Ⅱ	19
	教師論	88		養護実習	12
	教育社会学	59		学校栄養教育実習	15
	発達心理学	33		教職実践演習(中・高)	19
	教育心理学	40		教職実践演習(養護)	12
	特別支援教育概論	59		教職実践演習(栄養)	15
	教育課程論	62		国語科教育法Ⅰ	16
	道徳教育論	63		国語科教育法Ⅱ	15
	特別活動論	36		国語科教育法Ⅲ	10
	教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	54		国語科教育法Ⅳ	10
	情報通信技術を活用した教育の理論と方法	20		英語科教育法Ⅰ	4
	生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	55		英語科教育法Ⅱ	4
	教育相談及びキャリア教育の理論と方法	63		英語科教育法Ⅲ	9
				英語科教育法Ⅳ	9

【 大 学 院 】

○看護学研究科看護学専攻 （博士前期課程）

（その1）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	0
		教育学特論	2
		教育心理学特論	未開講
		ジェンダー論	7
		臨床倫理	3
		グローバルヘルス論	1
		ケア論	未開講
		看護マネジメント論	3
	専攻共通科目	看護理論と実践	7
		看護学基盤論	3
		看護研究と実践	7
		看護倫理	7
		看護サービス管理論	5
		看護コンサルテーション論	4
		フィジカルアセスメント特論	4
		病態生理学	4
		臨床薬理学	4
		こころの発達	3
		データ分析方法論Ⅰ	7
		看護教育論Ⅰ	5
		看護教育論Ⅱ	9
		疫学研究方法論	8
		保健医療政策と経済Ⅰ	8
		保健医療政策と経済Ⅱ	8
		看護学の動向と展望	7
		最新専門看護実践講座Ⅰ	3
		最新専門看護実践講座Ⅱ	6
		インディペンデントスタディ	0
	共創看護学領域	看護理論と研究Ⅰ	3
		看護理論と研究Ⅱ	3
		学際的研究方法	2
		データ分析方法論Ⅱ	2
		看護学英語	2
		共創看護学セミナー	1
		バイオメトリクス看護学演習	0
	がん看護学領域	がん看護論	0
		緩和ケア特論	0
		がん看護方法論Ⅰ	0
		がん看護方法論Ⅱ	2
		がん看護方法論Ⅲ	2
		がん病態生理学	0
		がん診断治療学	未開講
		がん薬理学	2
		がん看護学実践演習Ⅰ	0
		がん看護学実践演習Ⅱ	2
		がん看護学実践演習Ⅲ	3
		がん看護学実践演習Ⅳ	2
		がん看護学実践演習Ⅴ	2

授業科目			受講者数
領域専門科目	慢性看護学領域	慢性看護論	未開講
		慢性看護対象論	未開講
		慢性看護方法論Ⅰ	未開講
		慢性看護方法論Ⅱ	未開講
		慢性疾患診断治療学Ⅰ	未開講
		慢性疾患診断治療学Ⅱ	未開講
		慢性看護学実践演習Ⅰ	未開講
		慢性看護学実践演習Ⅱ	未開講
		慢性看護学実践演習Ⅲ	未開講
		慢性看護学実践演習Ⅳ	未開講
		慢性看護学実践演習Ⅴ	未開講
	クリティカルケア看護学領域	クリティカルケア看護論Ⅰ	未開講
		クリティカルケア看護論Ⅱ	未開講
		クリティカルケア看護方法論Ⅰ	未開講
		クリティカルケア看護方法論Ⅱ	未開講
		クリティカルケア看護方法論Ⅲ	未開講
		クリティカルケア看護方法論Ⅳ	未開講
		クリティカルケア診断治療学Ⅰ	未開講
		クリティカルケア診断治療学Ⅱ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅰ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅱ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅲ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅳ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅴ	未開講
	母性看護学領域	女性健康看護論	未開講
		女性健康支援論	未開講
		子育て包括ケアシステム論	未開講
		女性の健康危機マネジメント論	未開講
		母性看護フィールド演習Ⅰ	未開講
		母性看護フィールド演習Ⅱ	1
	小児看護学領域	小児看護論	2
		小児看護対象論	2
		小児看護方法論Ⅰ	2
		小児看護方法論Ⅱ	1
		小児診断治療学Ⅰ	未開講
		小児診断治療学Ⅱ	3
		小児看護学実践演習Ⅰ	2
		小児看護学実践演習Ⅱ	1
		小児看護学実践演習Ⅲ	1
		小児看護学実践演習Ⅳ	2
		小児看護学実践演習Ⅴ	1

(その2)　　(単位:人)

授業科目			受講者数
領域専門科目	老人看護学領域	老人看護論	未開講
		老人看護対象論	未開講
		老人看護方法論	未開講
		老人ケアシステム論	未開講
		老人看護展開論Ⅰ	未開講
		老人看護展開論Ⅱ	未開講
		老年病診断治療学Ⅰ	未開講
		老年病診断治療学Ⅱ	未開講
		老人看護学実践演習Ⅰ	未開講
		老人看護学実践演習Ⅱ	未開講
		老人看護学実践演習Ⅲ	未開講
		老人看護学実践演習Ⅳ	未開講
		老人看護学実践演習Ⅴ	未開講
	精神看護学領域	精神看護論	未開講
		精神看護対象論	未開講
		精神看護方法論Ⅰ	未開講
		精神看護方法論Ⅱ	1
		精神看護展開論Ⅰ	0
		精神看護展開論Ⅱ	0
		精神看護展開論Ⅲ	未開講
		精神看護展開論Ⅳ	1
		精神診断治療学Ⅰ	1
		精神診断治療学Ⅱ	未開講
		精神看護学実践演習Ⅰ	未開講
		精神看護学実践演習Ⅱ	未開講
		精神看護学実践演習Ⅲ	1
		精神看護学実践演習Ⅳ	1
		精神看護学実践演習Ⅴ	1
	家族看護学領域	家族看護論	1
		家族看護対象論	1
		家族看護方法論Ⅰ	7
		家族看護方法論Ⅱ	4
		家族看護実践論Ⅰ	0
		家族看護実践論Ⅱ	0
		家族療法	未開講
		家族ケアの開発	0
		家族看護学実践演習Ⅰ	1
		家族看護学実践演習Ⅱ	1
		家族看護学実践演習Ⅲ	0
		家族看護学実践演習Ⅳ	0
		家族看護学実践演習Ⅴ	0
	在宅看護学領域	在宅看護論	1
		在宅看護方法論Ⅰ	1
		在宅看護方法論Ⅱ	1
		在宅看護方法論Ⅲ	1
		在宅ケアシステム論	1
		在宅看護展開論Ⅰ	1
		在宅看護展開論Ⅱ	1
		在宅療養診断治療学Ⅰ	未開講
		在宅療養診断治療学Ⅱ	2
		在宅リエゾン看護論	6
		在宅リエゾン看護演習	4
		在宅看護学実践演習Ⅰ	1
		在宅看護学実践演習Ⅱ	1
		在宅看護学実践演習Ⅲ	1
		在宅看護学実践演習Ⅳ	1
		在宅看護学実践演習Ⅴ	1

授業科目			受講者数
領域専門科目	地域看護学領域	地域看護論	未開講
		地域ケアシステム論	未開講
		地域看護展開論	未開講
		地域フィールド演習Ⅰ	未開講
		地域フィールド演習Ⅱ	未開講
	災害・国際看護学領域	災害看護論	1
		グローバル社会看護論	1
		災害・国際看護方法論	1
		感染症看護セミナー	1
		環境衛生看護セミナー	0
		共生社会看護セミナー	未開講
		人道支援看護セミナー	1
		災害看護管理セミナー	1
		災害看護活動論(準備期)	4
		環境防災学	2
	看護管理学領域	看護管理論	1
		システム経営管理論	1
		看護管理展開論	1
		看護管理の動向と展望	1
		看護管理学実践演習Ⅰ	0
		看護管理学実践演習Ⅱ	0
		看護管理学実践演習Ⅲ	0
	臨床看護学領域	精神看護ケア研究	1
		老人看護ケア研究	3
		がん看護ケア研究	0
		小児看護ケア研究	1
		慢性看護ケア研究	3
		クリティカルケア研究	0
		臨床看護管理研究	2
		臨床看護教育研究	0
		母性・助産看護ケア研究	1
	地域保健学領域	地域ケア研究	0
		学校保健研究	1
		家族ケア研究	0
		在宅ケア研究	0
		保健学研究	0
		災害・国際看護ケア研究	0
研究支援科目		看護課題研究	6
		看護学研究方法Ⅰ	3
		看護学研究方法Ⅱ	3
		看護教育学専門演習	0
		看護教育学研究方法Ⅰ	0
		看護教育学研究方法Ⅱ	0
		臨床看護学専門演習	2
		臨床看護学研究方法Ⅰ	2
		臨床看護学研究方法Ⅱ	1
		地域保健学専門演習	1
		地域保健学研究方法Ⅰ	2
		地域保健学研究方法Ⅱ	2

○看護学研究科看護学専攻 （博士後期課程）

（単位：人）

授業科目		受講者数
専攻共通科目	理論看護学Ⅰ	5
	理論看護学Ⅱ	5
	看護学研究方法Ⅰ	5
	看護学研究方法Ⅱ	5
	看護倫理学	5
	イノベーション看護学	5
	国際看護学	4
	医学研究方法論	0
	インディペンデントスタディ	0
	プロフェッショナルライティング	0
専攻専門科目	共創看護学Ⅰ	1
	共創看護学Ⅱ	1
	がん看護学Ⅰ	1
	がん看護学Ⅱ	2
	成人看護学Ⅰ	0
	成人看護学Ⅱ	0
	小児看護学Ⅰ	0
	小児看護学Ⅱ	0
	老人看護学Ⅰ	0
	老人看護学Ⅱ	0

授業科目		受講者数
専攻専門科目	精神看護学Ⅰ	0
	精神看護学Ⅱ	0
	家族看護学Ⅰ	2
	家族看護学Ⅱ	0
	在宅看護学Ⅰ	0
	在宅看護学Ⅱ	0
	地域看護学Ⅰ	0
	地域看護学Ⅱ	0
	学校保健学Ⅰ	1
	学校保健学Ⅱ	0
	災害・国際看護学Ⅰ	0
	災害・国際看護学Ⅱ	0
	看護病態生理学Ⅰ	0
	看護病態生理学Ⅱ	1
	看護経営管理学Ⅰ	0
	看護経営管理学Ⅱ	1
研究支援科目	看護学特別研究Ⅰ	2
	看護学特別研究Ⅱ	10
	看護学特別研究Ⅲ	5

○看護学研究科共同災害看護学専攻 （博士課程）

（単位：人）

授業科目		受講者数
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	未開講
	理論看護学	未開講
	危機管理論	未開講
	環境防災学Ⅰ	未開講
	環境防災学Ⅱ	0
	グローバルヘルス	0
	災害法制度と政策論	未開講
	専門職連携実践論	0
	災害時専門職連携演習（災害IP演習）	0
	災害医療学	未開講
	災害心理学	未開講
	災害と文化	0
	災害社会福祉学	未開講
	Professional writing	0
	Proposal writing (Research proposal writing skill)	未開講
	Program writing (Program Proposal writing skill)	未開講
災害看護学の専門科目群	災害看護学総論	未開講
	災害看護活動論Ⅰ（急性期）	未開講
	災害看護活動論Ⅱ（亜急性期）	未開講
	災害看護活動論Ⅲ（復旧・復興）	未開講
	災害看護活動論Ⅳ（備え）	未開講
	災害看護グローバルコーディネーション論	0
	災害看護リーダーシップ・管理論	0
	災害看護倫理	0
	災害看護理論構築	0
	インターンシップⅠ	2
	インターンシップⅡ	0

授業科目		受講者数
インディペンデント学修科目群	災害看護ゼミナールA	0
	災害看護ゼミナールB	0
	災害看護ゼミナールC	0
	災害看護ゼミナールD	0
	災害看護ゼミナールE	0
	インディペンデントスタディⅠ	0
	インディペンデントスタディⅡ	0
	インディペンデントスタディⅢ	0
	インディペンデントスタディⅣ	0
	インディペンデントスタディⅤ	0
災害看護学研究支援科目群	災害看護研究ゼミナール	未開講
	実践課題研究	0
	災害看護研究デベロップメント	1
	博士論文	11（2）

※カッコ内は本学の受講者数

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士前期課程）

（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	9
		教育学特論	6
		教育心理学特論	未開講
		ジェンダー論	4
		臨床倫理	0
		グローバルヘルス論	3
		ケア論	0
		看護マネジメント論	0
	人間生活学研究科科目	研究方法論Ⅰ	5
		研究方法論Ⅱ	8
		研究方法論Ⅲ	4
		データ解析論	5
		地域スポーツ論	5
		健康リハビリテーション論	未開講
		福祉マネジメント論	2
栄養・生活学領域科目	食物科学	食品生化学特論	未開講
		食品製造学特論	3
		食物科学論	未開講
		食物科学実践演習	3
	人間栄養学	栄養学特論	1
		臨床栄養学特論	未開講
		健康動態論	3
		栄養疫学論	未開講
	栄養・生活学	栄養・生活特論Ⅰ	1
		栄養・生活特論Ⅱ	1
		栄養・生活統計論	1
		環境生態論	未開講
		災害栄養フード・アセスメント論	2
社会福祉学領域科目	福祉専門基礎	社会福祉原論	未開講
		福祉リハビリテーション論	1
		ソーシャルワーク論	5
		社会保障論	未開講
		福祉行財政論	2
	地域社会・多文化	地域福祉論	6
		地域福祉政策論	未開講
		国際福祉論	未開講
		多文化福祉論	4

授業科目			受講者数
社会福祉学領域科目	高齢	介護福祉論	0
		高齢者福祉論	未開講
	障害	障害者福祉論	2
		精神保健福祉論	未開講
	家庭・児童	児童支援福祉論	未開講
		家族支援福祉論	5
文化学領域科目	地域文化	地域文化論Ⅰ	2
		地域文化論Ⅱ	未開講
		地域文化論Ⅲ	3
		観光文化論Ⅰ	2
		観光文化論Ⅱ	未開講
		観光文化論Ⅲ	3
	日本文化	日本文化論Ⅰ	未開講
		日本文化論Ⅱ	4
		日本語文化論	未開講
		文学Ⅰ	1
		文学Ⅱ	未開講
		文学Ⅲ	2
	英語文化	英語文化論Ⅰ	1
		英語文化論Ⅱ	4
		英語文化論Ⅲ	未開講
		英語言語文化論特論Ⅰ	0
		英語言語文化論特論Ⅱ	未開講
		国際日本学	未開講
研究指導科目		栄養・生活学課題研究演習	1
		社会福祉学課題研究演習	4
		文化学課題研究演習	2

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士後期課程）

（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目		研究デザイン	未開講
		研究倫理	0
専門科目	栄養・生活学領域科目	地球環境解析学	0
		環境生態学	0
		人間栄養学	0
		食品機能学	1
		健康動態学	0
	社会福祉学領域科目	介護福祉学	0
		障害者福祉学	0
		児童・家族福祉学	0
		地域ソーシャルワーク学	0
		国際福祉政策学	0
		福祉リハビリテーション学	0

授業科目			受講者数
専門科目	文化学領域科目	地域文化学Ⅰ	1
		地域文化学Ⅱ	0
		言語文化学Ⅰ	0
		言語文化学Ⅱ	0
研究指導科目		栄養・生活学特別研究Ⅰ	1
		栄養・生活学特別研究Ⅱ	0
		栄養・生活学特別研究Ⅲ	2
		社会福祉学特別研究Ⅰ	0
		社会福祉学特別研究Ⅱ	1
		社会福祉学特別研究Ⅲ	0
		文化学特別研究Ⅰ	0
		文化学特別研究Ⅱ	0
		文化学特別研究Ⅲ	0

※「未開講」・・・隔年開講などにより年度当初から未開講科目であったもの

※「0」・・・年度当初開講予定科目で、院生がいないなどの理由で開講されなかったもの

3　科目等履修生・特別聴講学生の状況

（1）科目等履修生

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
教育実習Ⅰ	1	教職実践演習（中・高）	1
教育実習Ⅱ	1	特別支援教育概論	1
英語科教育法Ⅲ	1	観光産業論Ⅰ	1
英語科教育法Ⅳ	1		

（2）特別聴講学生

（単位：人）

授　業　科　目	受講者数	授　業　科　目	受講者数
基礎演習	2	災害と法	2
中国語基礎Ⅰ	2	英語コミュニケーションIC	2
日本語Ⅰ	2	英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	2
英語文法論	2	環境と健康と安全	2
英文化・文学史	2	健康スポーツ科学Ⅰ	2
異文化理解Ⅰ	2	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	2
中国語基礎Ⅱ	2	健康スポーツ科学Ⅱ	2
日本語Ⅱ	2	日本思想史	1
英語学概論	2	英語コミュニケーションID	1
英文化・文学論	2	災害看護活動論（準備期）	1

4 教員免許状取得状況・国家資格等合格状況

(1)教員免許状取得状況(過去3年間分)

(単位:人)

学部・学科	区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度
文化学部 文化学科	免許状取得者数	実人数	14	15	18
		中一種免(英語)	9	5	8
		高一種免(英語)	9	5	10
		中一種免(国語)	5	10	8
		高一種免(国語)	5	10	10
	教員就職者数		7	7	15
看護学部 看護学科	免許状取得者数	実人数	9	13	12
		一種免(養護)	9	13	12
	教員就職者数		5	6	5
健康栄養学部 健康栄養学科	免許状取得者数	実人数	9	4	15
		一種免(栄養)	9	4	15
	教員就職者数		3	0	2
看護学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	1	1	1
		高専修免(看護)	0	0	0
		養教専修免	1	1	1
人間生活学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	1	0	
		中専修免(英語)	1	0	
		高専修免(英語)	1	0	
		栄教専修免	0	0	
合 計	免許状取得者数(実人数)		34	33	46
	教員就職者数		15	13	22

※教員就職者数は正規採用者と臨時的任用者との合計

(2)国家試験合格状況

(単位:人)

国家資格	受 験 日	区 分	受験者数	合格者数	合格率
看 護 師	令和6年2月11日	新 卒	79	79	100.0%
		既 卒	0	0	
保 健 師	令和6年2月9日	新 卒	70	70	100.0%
		既 卒	0	0	
助 産 師	令和6年2月8日	新 卒	8	8	100.0%
		既 卒	0	0	
社会福祉士	令和6年2月4日	新 卒	72	68	94.4%
		既 卒	22	17	77.3%
精神保健福祉士	令和6年2月3日 令和6年2月4日	新 卒	22	22	100.0%
		既 卒	0	0	
介護福祉士	令和6年1月28日	新 卒	19	19	100.0%
		既 卒	0	0	
管理栄養士	令和6年3月3日	新 卒	38	27	71.1%
		既 卒	0	0	

（3）専門看護師・認定看護管理者合格状況

（単位：人）

専門看護分野名	合格者数
がん看護	1
慢性疾患看護	1
急性・重症患者看護	1
小児看護	1
精神看護	3
家族支援看護	2
在宅看護	1
老人看護	1
認定看護管理者	0

5 学位等及び大学賞・学長賞等の授与状況

(1)学位等授与状況

○博 士

(単位:人)

研 究 科 名	博 士	
	令和5年度	累 計
看護学研究科(博士後期課程)	5	43
看護学研究科(博士課程)	0	7
人間生活学研究科(博士後期課程)	2	15
健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)		50
合 計	7	115

○修 士

(単位:人)

研 究 科 名	修 士	
	令和5年度	累 計
看護学研究科(博士前期課程)	13	342
人間生活学研究科(博士前期課程)	6	200
合 計	19	542

【学位授与者一覧】

○博 士

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和5年9月25日	博士(看護学)	竹内 千夏	回復期にある高齢脳血管疾患患者への病棟看護師によるシームレスケアに関する研究
令和5年9月25日	博士(看護学)	葛島 慎吾	精神障害者のセルフコンパッションを高める看護実践
令和6年3月19日	博士(看護学)	染谷 奈々子	医療的ケアを必要とする子どもと家族へのケアとキュアを融合した小児看護専門看護師の実践
令和6年3月19日	博士(看護学)	岡西 幸恵	再発・転移がんサバイバーの療養生活における調和に関する研究
令和6年3月19日	博士(看護学)	松本 祐佳里	小児がんの子どもへの看護師によるトラウマインフォームドケア
令和6年3月19日	博士(生活科学)	井治 賢希	Acylated steryl-β-glucosideの高脂肪高ショ糖食投与肥満マウスにおける体脂肪量、及び脂質代謝に及ぼす影響とメカニズムの解明
令和6年3月19日	博士(生活科学)	生川 卓弘	食用カンナ葉含有成分の化学的・栄養学的特性 ―発酵処理に伴う変化に着目して―

○修 士

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和6年3月19日	修士(看護学)	田邉 佳香	災害により避難した人の避難先地域における生活の再構築
令和6年3月19日	修士(看護学)	村岡 千紘	壮年期にある終末期がん患者の希望を支える看護ケア
令和6年3月19日	修士(看護学)	井東 恵	災害時避難行動の意思決定と高齢者の健康状態ー南海トラフ地震・津波災害によって孤立が想定される地域に居住する高齢者に焦点をあててー
令和6年3月19日	修士(看護学)	信吉 香織	災害時における糖尿病患者のセルフケア

○修　士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　　文　　名
令和6年3月19日	修士(看護学)	坂口　結映	育児期における母親の孤独感の経験
令和6年3月19日	修士(看護学)	扇谷　静香	治療抵抗性心不全をもつ後期高齢者への訪問看護師による緩和ケア
令和6年3月19日	修士(看護学)	阪本　祐子	ACPにおけるがん患者の対処
令和6年3月19日	修士(看護学)	西嶋　恭子	医療的ケアが必要となった重症心身障害児の両親が行う意思決定
令和6年3月19日	修士(看護学)	福添　純子	地域移行期の精神障害をもつ患者に対するShared decision making
令和6年3月19日	修士(看護学)	古田　さより	看護管理者の異動経験におけるトランジション
令和6年3月19日	修士(看護学)	三賀山　美紀子	がん患者の高次脳機能障害への看護師の気づきと実践
令和6年3月19日	修士(看護学)	宮地　佐和子	入院前における看護師の働きかけが患者参加に及ぼす影響に関する研究ー医療安全をSafety-Ⅱの視点で捉えてー
令和6年3月19日	修士(看護学)	森岡　理恵	不登校状態にある青年期中期の子をもつ親のHelp-seeking behavior
令和5年9月25日	修士(社会福祉学)	吉良　正輝	脳卒中の後遺症である記憶障害を有する者の生活の不自由を改善させるreminder
令和6年3月19日	修士(社会福祉学)	澤田　日登美	里親家庭で育つ子どもの自立支援についての研究－18歳前後の社会的養護のありかたー
令和6年3月19日	修士(社会福祉学)	内田　智子	地域の実情に応じた介護予防事業の実施状況についてー高知県内7市町村のインタビュー調査からみえる介護予防およびフレイル予防の取り組みー
令和6年3月19日	修士(学術)	浦尻　紗希	土佐における民俗語彙の翻訳　民俗語彙を異言語に翻訳する際の工夫に関する研究
令和6年3月19日	修士(社会福祉学)	加村　健太	MSWが業務上で意識していることは何かー経験5年以上の10名のインタビュー調査よりー
令和6年3月19日	修士(生活科学)	別役　由香	大学生・専門学校生を対象とした食塩・栄養素摂取量の把握のための食事調査票の作成

(2)「地域共生推進士」認定書授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)	部　局　内　訳
令和6年3月19日	地域共生推進士	22	文化学部4名、看護学部14名、社会福祉学部4名

(3)日本語教員授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)
令和6年3月19日	日本語教員	6

(4)履修証明書授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)	
-	履修証明書	―	※令和6年度は開講せず

(5)大学賞・学長賞授与状況

【大学賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功績
文化学部	文化学科	4	1	本学および台湾文藻外語大学において優れた学業成績を収めた。
人間生活学研究科	人間生活学専攻 博士後期課程	3	1	研究に真摯に取り組み、新たな知識の発見と社会への貢献があった。

【学長奨励賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	内田　実里 川原　千怜 松田　萌日	各学部から、大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる学生を推薦いただき、学生のみなさんにはそれぞれの学業への取組姿勢や大学の学びを通じて描く将来像などを改めて聞き取りし、選考を行った。 令和2年度に創設された賞で今年度は、文化学部9名、看護学部6名、社会福祉学部6名、健康栄養学部3名、計24名の学生が受賞した。
		3	石川　桃帆 芝　杏奈 西尾　帆乃夏	
		2	空岡　真理奈 松田　鈴 千頭　紗綾	
看護学部	看護学科	4	多田　帆乃夏 中塔　乙紀	
		3	繁田　佳奈 三原　千廣	
		2	秋山　優香 遠藤　菜央	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	大熨　真 名賀石　真衣	
		3	小笠原　杏樹 東谷　柚香	
		2	植田　愛唯 森岡　ふみ	
健康栄養学部	健康栄養学科	4	伊藤　志音里	
		3	橋本　紗希	
		2	宇野　奈津子	

【学長賞】

団体名（人数）	功績	学部	氏名
オーテピアンズ （2名）	本学生たちは、オーテピア高知図書館と協働し、高知県の地域の人々の本への関心の向上を図る学生グループとして活動した。 近年では、通常活動に加え、読み聞かせを収録した動画の作成や他団体と共同でイベントを開催、そして全国高等学校ビブリオバトル高知県大会の運営に関わってきた。その結果、書籍の貸出増加やオーテピア図書館が管理するSNSのフォロワー数増加に寄与した。	文化学部	岡田　美月 河本　碧
健援隊 （2名）	本学生たちは、本学が行っている立志社中の事業において、看護学の専門知識を分かりやすく地域の方に伝え、知識の普及と健康文化を醸成することを目的とした団体である『健援隊』の活動を4年間継続して行った。 特筆すべき活動は、コロナ感染症拡大下においても、活動に様々な工夫を凝らし、健康管理ツールや災害時の生活マップ、子ども向けの教育活動などを行った。チーム運営を退いた現在も、後輩の相談役として、また学術集会等における活動紹介などで団体の活動を支えた。	看護学部	三好　実玖 武井　琉宇
UOK手話サークル （4名）	本学生たちは、1回生時に「UOK手話サークル」を立ち上げ、コロナ感染症拡大に伴って活動に制限を受ける中、手話を起点とした幅広い活動を展開した。 特筆すべき活動として、「手話」を基盤にした聴覚障がい者への理解をつなぐ活動と「手話×災害」があげられ、その活動の拡がりは、看護学部だけでなく新たに立志社中として学内外に活動を拡げ、映画上映会及びトークショーやイベント・学術集会等において発信を行った。	看護学部	徳永　旭 萩野　遥 福田　菜々子 藤原　萌衣
イケあい地域災害学生ボランティアセンター （3名）	本学生たちは、1回生時に「UOK手話サークル」を立ち上げ、コロナ感染症拡大に伴って活動に制限を受ける中、手話を起点とした幅広い活動を展開した。 特筆すべき活動として、「手話」を基盤にした聴覚障がい者への理解をつなぐ活動と「手話×災害」があげられ、その活動の拡がりは、看護学部だけでなく新たに立志社中として学内外に活動を拡げ、映画上映会及びトークショーやイベント・学術集会等において発信を行った。	看護学部	福田　菜々子
		社会福祉学部	木村　愛海 中川　怜奈

団体名（人数）	功績	学部	氏名
高知県立大学 災害看護学生チーム SIT （3名）	本学生たちは、学生が主体となって災害医療を学ぶことを目的に結成された学生団体『高知県立大学災害看護学生チームSIT』の幹部として、精力的に活動に取り組んできた。 特筆すべき活動として、災害医療訓練への模擬患者としての参加、大学祭の災害謎解きゲームのコーナー主催、四国の学生対象の災害医療のワークショップ企画運営、第24回日本災害看護学会での「学生が取り組む防災啓発活動」の発表が挙げられる。なお、代表の石津は、これまで医学部の学生が歴任していた日本災害医学会学生部会DMASの代表も務め、SITの活動を本学だけでなく、全国の学生をつなぐ役割へと拡げてきた。	看護学部	石津　舞桜 岡　瑞恵 徳永　旭
Pシスターズ （7名）	本学生は、持続可能な地域づくりを目指した活動を行う学生団体「Pシスターズ」において、地域の課題解決に向けて住民と共に考え、若い世代の感性と行動力を生かして、提案、実践してきた。 特筆すべき活動として、三原村では学生オリジナルの健康体操の普及やPR動画の作成、防災クイズゲームを実施、安芸市東川地区では、担い手不足で文化の継承が危ぶまれていた獅子舞獅子や手飼いの役を担い、高知市三里地区では、高齢者の生活状況や生活課題などについて訪問聞き取り調査をおこない、コロナ禍の下での孤立化に対応する交流活動に取り組んだ。	社会福祉学部	氏部　陽 川上　遼子 花岡　咲良 松木　優斗 森澤　はるの 山川　葵 山口　愛海
個人による顕著な表彰	本学生は、介護福祉士をめざして介護コースに所属し、高齢者の介護や家族の支援等について知識や技術を身に着けるとともに、高齢者の施設で実習を行い、介護やコミュニケーションについて実践を積んでいる。 特筆すべき活動として、本学生はアルバイト先である書店において、これまで学んだ知識を活かし、9月の世界アルツハイマーデイに合わせ、「認知症本フェア」を企画・実施、その結果、認知症にかんする書籍の売り上げが伸び、この取り組みは令和5年9月21日の高知新聞にも掲載された。	社会福祉学部	小笠原　杏樹
室戸ボランティアリーダー	本学生は、学生団体『室戸ボランティアリーダー』のメンバーとして、4年間小学生の自然体験活動のサポートや各種講習、自主企画を行った。 特筆すべき活動として、3回生時、サークル代表を担い、教育事業においては、AD(アシスタントディレクター)として職員とサークルメンバーの間の連携を取る役を引き受け、職員に代わって事業を運営を行った。また、4回生時には、教員採用試験で忙しい中、時間をやりくりして「くろしお祭り」という国立室戸青少年自然の家で行われるお祭りでのブースの企画運営を行った。1～2回生時においても、コロナ禍で活動がままならない中、リーダートレーニングで所属メンバーの技量を上げるための活動を積極的に行った。	健康栄養学部	矢野　花音

団体名（人数）	功績	学部	氏名
水泳部	本学生は、学生団体『水泳部』のメンバーとして、4年間活動を行った。 特筆すべきこととしては、大会における高い成績と3回生より担った代表者としての活動があげられる。西日本コメディカル学生水泳競技大会では、200m個人メドレーにて優勝を果たすなど、その他大会でも高い実績をあげた。また、代表者としての活動としては、1～3回生時、コロナウイルス感染症の影響によって大会が開催されない中、部員の指導や練習メニューの考案など、部の活動を活発化させるための活動を積極的に行った。	健康栄養学部	奥田　友菜

（6）サーティフィケーション授与状況

協定校	氏名	内容	招聘者
エルムズカレッジ	Charlotte Michaud Hailey Gudrian Natalie Pasko Ruth Tucker	2023年度エルムズカレッジ短期プログラム 2023年5月27日～6月9日	高知県立大学 （国際交流センター）
木浦大学校	Yun Hye Yeon Kim Mae Hyun Kim Tae Hee Lim Ye Won Hong Ji Sung	2023年度冬期日本語・日本文化プログラム 2024年1月24日～2月1日	高知県立大学 （国際交流センター）
文藻外語大学	曾晨瑄 洪嘉均	2023年度交換留学生	高知県立大学 （国際交流センター）
文藻外語大学	賴柏霖 吳珮辰	中国語教育実習 2023年10月2日～2024年3月8日	高知県立大学 （文化学部）

6 SD・FD活動実施状況

（1）全学SD・FD

区 分	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
SD	高知県立大学連続講座 地域共生社会を支援する 第1回 基調講演「自然に健康になれるまちづくり」 シンポジウム「産官学民連携による健康まちづくり」	千葉大学予防医学センター 社会予防医学研究部門 教授 近藤 克則	令和5年12月15日	101	高知県立大学	
	高知県立大学連続講座 地域共生社会を支援する 第2回 基調講演「社会的処方：全人的ケアを進めるための地域連携の仕組みづくりの現状と展望」	京都大学大学院医学研究科・社会健康医学系専攻・国際保健学講座・社会疫学・教授 近藤 尚己	令和6年1月23日	103	高知県立大学	
	高知県立大学連続講座 地域共生社会を支援する 第3回 基調講演「社会的処方：まちとのつながりで人が元気になる方法」 シンポジウム「市民がつながる地域共生社会」	川崎市立立井田病院・医師 一般社団法人プラスケア代表理事 西 智弘	令和6年3月16日	144	高知県立大学	
FD	学生のメンタルヘルスケアと修学支援	①荻 林太郎（教務課 課長） ②漆畑 愛弓 （学生・就職支援課 主幹） ③保志場 由紀子 （学生・就職支援課 主任） ④野瀬 貞曉 （健康管理センター 契約職員）	令和5年12月25日	60	高知県立大学 FD委員会	学生委員会
	大学における学修ポートフォリオの考え方とその運用のあり方	新目 真紀（職業能力開発総合大学校 能力開発院 教授）	令和6年3月6日	76	高知県立大学 FD委員会	

（2）部局別SD・FD

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
文化学部	「基礎演習」および新1回生の状況	「基礎演習」担当教員9名	令和5年7月24日	21	学部FD委員会	
看護学部	専門領域における教育内容の実際 ～教育評価や高次リテラシーを中心に～	慢性期看護学 在宅看護学	令和5年6月21日	34	看護学部FD委員会	
	お互いを尊重したアサーティブなコミュニケーション	ハラスメント防止コンサルタント 今岡 まゆみ 先生	令和5年7月1日	5	高知看護教育研究会	
	国際学会での研究発表	立木 隆広（看護学部 准教授）	令和5年8月30日	14	看護学部FD委員会	
	専門領域における教育内容の実際 ～教育評価や高次リテラシーを中心に～	母性看護学領域 小児看護学領域	令和5年9月27日	33	看護学部FD委員会	
	専門領域における教育内容の実際 ～教育評価や高次リテラシーを中心に～	総合看護学領域 看護管理看護学領域	令和5年10月25日	38	看護学部FD委員会	
	臨床判断モデルを活用した臨床判断能力の育成	聖路加国際大学 看護学部 三浦 友里子 先生	令和5年12月17日	6	高知看護教育研究会	
	学生のメンタルヘルスケアと修学支援	学生・就職支援課、教務課、 健康管理センター職員	令和5年12月25日	22	全学FD委員会	
	看護を語る会	看護学部教員	令和6年3月5日	32	看護学部FD委員会	
	教育評価（ルーブリックの洗練化）とカリキュラムマップに沿った科目間の連携について	看護学部教員	令和6年3月5日	26	看護学部FD委員会	

部　署	内　容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主　催	共　催
社会福祉学部	認知症の私から見える社会	丹野　智文　氏	令和5年5月10日	230	社会福祉学部FD委員会	
	研究の姿勢を育む、成果を共に作っていく	矢吹　知之 （社会福祉学部　准教授）	令和5年5月22日	18	社会福祉学部FD委員会	
	日本の精神医療は特殊である	野田　正彰　氏 （精神病理学者・作家）	令和5年6月12日	235	社会福祉学部キャリア支援委員会	社会福祉学部FD委員会
	精神障碍者の社会的入院から社会正義を問う	古屋　龍太 （日本社会事業大学　名誉教授）	令和5年6月16日	50	社会福祉学部FD委員会	
	英文レビュー論文の作成の仕方	横井　輝夫（社会福祉学部　教授）	令和5年8月2日	16	社会福祉学部FD委員会	
	研究倫理を学ぶ－発表倫理を中心に－	山崎　茂明（愛知淑徳大学　教授）	令和6年2月5日	15	社会福祉学部FD委員会	
健康栄養学部	テーマ1：本学の防災体制と事務局の取組み テーマ2：健康栄養学部の防災活動	テーマ1） 宮脇　広道（総務部長）、 塩田　敬之（財務施設課） テーマ2） 廣内　智子（健康栄養学部　講師）	令和5年11月27日	23	健康栄養学部FD委員会主催	
	令和5年度医療センターとの合同災害訓練の振返り（救護所の活動について）	木下　真理（看護学部　教授）	令和5年12月18日	12	健康栄養学部FD委員会主催	
	令和5年度 健康栄養フィールドワークの活動報告	島田　郁子 （健康栄養学部　准教授） 廣内　智子 （健康栄養学部　講師）	令和6年2月15日	18	健康栄養学部FD委員会主催	
地域教育研究センター	「清原の遺言」	清原　泰治 （地域教育研究センター　教授）	令和6年2月16日	4	地域教育研究センター	
	地域学実習の省察と改善計画	秋谷　公博 （地域教育研究センター　准教授）	令和6年3月22日	4	地域教育研究センター	

（3）全学人権研修会

部　署	内　容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主　催	共　催
全学	大学・研究機関におけるハラスメントの事例とその対応	株式会社フォーブレーン	令和5年11月6日～令和6年1月5日	99	高知県立大学人権委員会	

（4）部局別人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
文化学部	学術研究分野における個人情報保護の規律の考え方	菊池　直人（文化学部　准教授）	令和6年2月13日	24	人権委員会	学部FD委員会
	「労働事件からみる大学におけるハラスメントー近時のハラスメントに関する裁判例の検討をとおして」	根岸　忠（文化学部　准教授）	令和6年2月19日	22	人権委員会	
看護学研究科・看護学部	「高知県立大学ハラスメントの防止等に関する規程」および「高知県立大学ハラスメント防止のためのガイドライン」について読みあわせ	人権委員会	令和5年5月17日	39	人権委員会	
	「みんなでNoハラスメントオンライン研修講座」	あかるい職場応援団（厚生労働省委託事業）	令和5年2月7日～2月29日	38	人権委員会	
社会福祉学部	パワーハラスメント　今こそ被害根絶へ～パワーハラ防止法で義務付けられたこと～	株式会社　映学社	令和6年3月4日	21	人権委員会	
健康栄養学部	パワハラ研修	法務省等オンデマンド視聴	令和6年1月16日～2月13日	11	人権委員会	
地域教育研究センター	「視覚障害の理解と支援」	石山　貴章 （地域教育研究センター　教授）	令和6年1月14日	4	人権委員会	
事務局	令和5年度事務職員向け人権研修会	株式会社フォーブレーン	令和5年10月5日～12月16日	55	高知県立大学人権委員会	

（5）学外研修

部 署	内 容	期 間	参加者数（人）	主 催
文化学部	高知大学FD研修 講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン-考え方と進め方-	令和5年6月9日	1	四国地区教職員能力開発ネットワーク
看護学部	令和5年度公立大学の研究活動促進に資するための勉強会	令和5年6月9日	11	一般社団法人公立大学協会
社会福祉学部	令和5年度公立大学の研究活動促進に資するための勉強会	令和5年6月9日	3	一般社団法人公立大学協会
健康栄養学部	令和5年度公立大学の研究活動促進に資するための勉強会	令和5年6月9日	4	一般社団法人公立大学協会
地域教育研究センター	授業について考えるランチセミナー テーマ：合理的配慮の必要な学生に対する授業実践	令和5年4月13日・20日	1	四国地区教職員能力開発ネットワーク
事務局	初任者研修①	令和5年4月1日	2	高知県公立大学法人
	初任者研修②	令和5年4月7日	2	高知県公立大学法人
	初任者研修③	令和5年4月10日	2	高知県公立大学法人
	新規採用職員研修（基礎①）	令和5年4月18日	2	高知県
	新規採用職員研修（基礎①） （受講方法：オンライン）	令和5年4月20日～5月19日	2	高知県
	公立大学に関する基礎研修 （受講方法：オンライン）	令和5年4月20日	4	一般社団法人公立大学協会

部 署	内 容	期 間	参加者数（人）	主 催
事務局	新規採用職員研修（基礎②）	令和5年5月31日	2	高知県
	新規採用職員研修（基礎②） （受講方法：オンライン）	令和5年5月15日～6月15日	2	高知県
	新規採用職員研修（基礎③）	令和5年6月22日・23日	2	高知県
	新規採用職員研修（現場の声から学ぶ県民本位）	令和5年11月27日	2	高知県
	令和5年度公立大学職員セミナー	令和5年8月28日・29日	2	一般社団法人公立大学協会
	令和5年度公立大学法人会計セミナー （受講方法：オンライン）	令和5年9月11日～1月15日	1	一般社団法人公立大学協会
	次世代リーダー養成ゼミナール　第1回	令和5年5月24日・25日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール　第2回	令和5年7月13日・14日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール　第3回	令和5年10月19日・20日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール　第4回	令和5年11月29日・30日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール　第5回	令和6年1月18日・19日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（新任職員）	令和5年5月10日・11日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	令和5年9月25日	3	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）	令和5年11月29日・30日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	避難所運営研修（第1回）	令和5年5月31日（池キャンパス） 令和5年6月1日（永国寺キャンパス）	49	高知県立大学
	避難所運営研修（第2回）	令和5年7月24日	49	高知県立大学
	避難所運営研修（第3回）	令和5年8月22日・23日	45	高知県立大学
	避難所運営研修（第4回）	令和5年10月31日	32	高知県立大学
	MOS研修	令和5年7月28日～10月26日	13	高知県立大学

Ⅴ　学生

1　行事実績

令和5年

4月　5日(水)	新入生ガイダンス・在学生ガイダンス・健康診断
4月　6日(木)	入学式
4月　7日(金)	新入生ガイダンス・在学生ガイダンス・健康診断
4月10日(月)	前期授業開始
4月17日(月)	履修登録締切
4月21日(金)	創立記念日
4月24日(月) ～　5月　1日(月)	前期履修登録変更期間
4月24日(月)	金曜日授業
5月　9日(火)	定例学生大会(午後)
5月25日(木) ～　5月31日(水)	前期履修中止届出期間
7月　7日(金) ～　7月27日(木)	後期英語コミュニケーション科目履修希望調査
7月29日(土) ～　7月30日(日)	オープンキャンパス
8月　1日(火) ～　8月　8日(火)	補講・試験期間
8月26日(土) ～　8月27日(日)	大学院第一次学生募集選抜
8月　9日(水) ～　9月10日(日)	夏季休業期間
8月31日(木)	前期成績提出締切
9月　7日(木)	前期成績開示日
9月11日(月) ～　9月29日(金)	集中講義期間
9月25日(月)	9月卒業式・修了式
9月26日(火)	前期成績判定日
10月　2日(月)	後期授業開始
10月10日(火) ～　10月17日(火)	後期履修登録変更期間
11月　4日(土) ～　11月　5日(日)	大学祭(紅葉祭)
11月18日(土) ～　11月19日(日)	学校推薦型選抜・社会人選抜・3年次編入学選抜
11月24日(金) ～　11月30日(木)	後期履修中止届出期間
12月19日(火) ～　12月25日(月)	集中講義期間
12月26日(火) ～　1月　8日(月)	冬季休業期間

令和6年

1月　9日(火)		授業開始
1月12日(金)		休講（大学入学共通テスト準備のため）
1月13日(土) ～	1月14日(日)	大学入学共通テスト
1月20日(土)		大学院第二次学生募集選抜
1月21日(日)		私費外国人留学生選抜
2月　1日(木) ～	2月21日(水)	次年度前期英語コミュニケーション科目履修希望調査
2月13日(火) ～	2月20日(火)	補講・試験期間
2月21日(水) ～	3月19日(火)	集中講義期間
2月25日(日) ～	2月26日(月)	一般選抜（前期日程）
2月26日(月)		後期成績提出締切(4回生)
2月27日(火)		後期成績開示日(4回生)
3月　1日(金)		後期成績提出締切(1～3回生)
3月　4日(月)		卒業判定会議
3月　8日(金)		成績開示日(1～3回生)
3月12日(火) ～	3月13日(水)	一般選抜（後期日程）・社会人選抜
3月19日(火)		卒業式・修了式
3月20日(水) ～	3月31日(日)	春季休業期間
3月26日(火)		後期成績判定日(1～3回生)

2 入学の状況

（1）令和6年度入学者選抜結果（令和5年度実施）

（単位：人）

学部・学科名		区分		募集人員 a	志願者数b 全体	志願者数b (県内)	志願倍率 b/a	受験者数c 全体	受験者数c (県内)	受験倍率 c/a	合格者数d 全体	合格者数d (県内)	合格倍率 c/d	追加合格者数 全体	追加合格者数 (県内)	入学者数 全体	入学者数 (県内)
文化学部	文化学科［言語文化系／地域文化創造系］	推薦	県内	30	44	(44)	1.5	44	(44)	1.5	30	(30)	1.5			30	(30)
			全国	8	21	(0)	2.6	21	(0)	2.6	15	(0)	1.4			15	(0)
		個別	前期	72	111	(42)	1.5	104	(40)	1.4	88	(27)	1.2	0	(0)	75	(23)
			後期	10	107	(40)	10.7	14	(5)	1.4	10	(1)	1.4	0	(0)	10	(1)
		社会人		若干名	0	(0)	–	0	(0)	–	0	(0)	–			0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	7		–	6		–	3		2.0			0	
		1年次計		120	290	(126)	2.4	189	(89)	1.6	146	(58)	1.3	0	(0)	130	(54)
		3年次編入		5	2	(0)	0.4	2	(0)	0.4	2	(0)	1.0	0	(0)	1	(0)
		合計		125	292	(126)	2.3	191	(89)	1.5	148	(58)	1.3	0	(0)	131	(54)
	文化学科［文化総合系（夜間主コース）］	推薦	県内	10	3	(3)	0.3	3	(3)	0.3	3	(3)	1.0			3	(3)
		社会人A		10	12	(5)	1.2	12	(5)	1.2	9	(3)	1.3	0	(0)	8	(3)
		社会人B		10	18	(11)	1.8	10	(8)	1.0	10	(8)	1.0	0	(0)	9	(8)
		1年次計		30	33	(19)	1.1	25	(16)	0.8	22	(14)	1.1	0	(0)	20	(14)
		3年次編入		3	1	(0)	0.3	0	(0)	–	0	(0)	–	0	(0)	0	(0)
		合計		33	34	(19)	1.0	25	(16)	0.8	22	(14)	1.1	0	(0)	20	(14)
看護学部	看護学科	推薦	県内	25	47	(47)	1.9	47	(47)	1.9	25	(25)	1.9			25	(25)
			全国	5	26	(1)	5.2	26	(1)	5.2	5	(0)	5.2			5	(0)
		個別	前期	45	131	(28)	2.9	116	(26)	2.6	47	(10)	2.5	0	(0)	41	(9)
			後期	5	142	(30)	28.4	61	(16)	12.2	10	(1)	6.1	0	(0)	10	(1)
		社会人		若干名	0	(0)	–	0	(0)	–	0	(0)	–			0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	1		–	1		–	1		1.0			1	
		合計（1年次計）		80	347	(106)	4.3	251	(90)	3.1	88	(36)	2.9	0	(0)	82	(35)
社会福祉学部	社会福祉学科	推薦	県内	20	26	(26)	1.3	26	(26)	1.3	20	(20)	1.3			20	(20)
			全国	10	15	(0)	1.5	15	(0)	1.5	10	(0)	1.5			10	(0)
		個別	前期	35	139	(26)	4.0	125	(23)	3.6	41	(8)	3.0	0	(0)	33	(8)
			後期	5	75	(18)	15.0	29	(9)	5.8	10	(6)	2.9	0	(0)	10	(6)
		社会人		若干名	1	(0)	–	1	(0)	–	1	(0)	1.0			1	(0)
		私費外国人留学生		若干名	6		–	5		–	2		2.5			2	
		合計（1年次計）		70	262	(70)	3.7	201	(58)	2.9	84	(34)	2.4	0	(0)	76	(34)
健康栄養学部	健康栄養学科	推薦	県内	12	15	(15)	1.3	15	(15)	1.3	12	(12)	1.3			12	(12)
			全国	5	19	(0)	3.8	19	(0)	3.8	5	(0)	3.8			5	(0)
		個別	前期	23	49	(3)	2.1	46	(2)	2.0	28	(0)	1.6	0	(0)	24	(0)
		社会人		若干名	1	(0)	–	1	(0)	–	1	(0)	1.0			0	(0)
		私費外国人留学生		若干名	0		–	0		–	0		–			0	
		合計（1年次計）		40	84	(18)	2.1	81	(17)	2.0	46	(12)	1.8	0	(0)	41	(12)
学部計（夜間主を除く）		推薦	県内	87	132	(132)	1.5	132	(132)	1.5	87	(87)	1.5			87	(87)
			全国	28	81	(1)	2.9	81	(1)	2.9	35	(0)	2.3			35	(0)
		個別	前期	175	430	(99)	2.5	391	(91)	2.2	204	(45)	1.9	0	(0)	173	(40)
			後期	20	324	(88)	16.2	104	(30)	5.2	30	(8)	3.5	0	(0)	30	(8)
		社会人		若干名	2	(0)	–	2	(0)	–	2	(0)	1.0			1	(0)
		私費外国人留学生		若干名	14		–	12		–	6		2.0			3	
		1年次計		310	983	(320)	3.2	722	(254)	2.3	364	(140)	2.0	0	(0)	329	(135)
		3年次編入計		5	2	(0)	0.4	2	(0)	0.4	2	(0)	1.0	0	(0)	1	(0)
		総合計		315	985	(320)	3.1	724	(254)	2.3	366	(140)	2.0	0	(0)	330	(135)
学部総合計（夜間主も含む）		1年次総合計		340	1,016	(339)	3.0	747	(270)	2.2	386	(154)	1.9	0	(0)	349	(149)
		3年次編入総合計		8	3	(0)	0.4	2	(0)	0.3	2	(0)	1.0	0	(0)	1	(0)
		総合計		348	1,019	(339)	2.9	749	(270)	2.2	388	(154)	1.9	0	(0)	350	(149)
看護学研究科				26	19	(6)	0.7	19	(6)	0.7	16	(5)	1.2	0	(0)	16	(5)
人間生活学研究科				21	12	(10)	0.6	12	(10)	0.6	10	(9)	1.2	0	(0)	10	(9)
研究科計				47	31	(16)	0.7	31	(16)	0.7	26	(14)	1.2	0	(0)	26	(14)

(2)出身地別入学状況

【 学 部 】

○一般選抜

（単位:人）

学部	文化学部		看護学部		社会福祉学部		健康栄養学部	合　計			
学科	文 化		看 護		社会福祉		健康栄養				
区分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	後期	計	割合
北海道	1	0	0	0	1	0	0	2	0	2	1.0%
青森	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
岩手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
宮城	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
秋田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
山形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
福島	1	0	0	0	1	0	0	2	0	2	1.0%
茨城	1	0	1	0	0	0	0	2	0	2	1.0%
栃木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
群馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
埼玉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
千葉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東京	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
神奈川	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.5%
新潟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
富山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
石川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
福井	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0.5%
山梨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
長野	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1.0%
岐阜	3	0	0	0	1	0	0	4	0	4	2.0%
静岡	0	0	0	0	1	0	1	2	0	2	1.0%
愛知	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	1.0%
三重	1	0	0	1	1	0	1	3	1	4	2.0%
滋賀	0	0	0	0	3	0	0	3	0	3	1.5%
京都	2	0	0	0	0	0	2	4	0	4	2.0%
大阪	1	1	2	0	0	0	1	4	1	5	2.5%
兵庫	8	0	12	1	5	2	6	31	3	34	16.7%
奈良	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.5%
和歌山	2	0	1	1	0	0	1	4	1	5	2.5%
鳥取	1	0	1	1	0	0	1	3	1	4	2.0%
島根	0	1	1	0	0	0	0	1	1	2	1.0%
岡山	1	0	3	0	0	0	1	5	0	5	2.5%
広島	3	1	2	0	1	1	1	7	2	9	4.4%
山口	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
徳島	8	2	3	0	3	0	0	14	2	16	7.9%
香川	3	0	2	1	2	0	2	9	1	10	4.9%
愛媛	5	2	2	2	0	0	1	8	4	12	5.9%
高知	23	1	9	1	8	6	0	40	8	48	23.6%
福岡	0	1	0	1	1	0	1	2	2	4	2.0%
佐賀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
長崎	3	1	0	0	0	0	0	3	1	4	2.0%
熊本	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0.5%
大分	0	0	0	0	3	0	0	3	0	3	1.5%
宮崎	0	0	2	1	0	0	0	2	1	3	1.5%
鹿児島	3	0	0	0	1	0	0	4	0	4	2.0%
沖縄	1	0	0	0	0	0	1	2	0	2	1.0%
合計	75	10	41	10	33	10	24	173	30	203	100%

○学校推薦型選抜

（単位：人）

学部	文　化		看　護	社会福祉	健康栄養	合　計	割合
学科	文化学科 言語文化系／地域文化創造系	文化学科 文化総合系 （夜間主コース）	看　護	社会福祉	健康栄養		
山梨県	0	0	0	0	1	1	0.8%
大阪府	0	0	1	0	0	1	0.8%
兵庫県	4	0	1	1	1	7	5.6%
岡山県	3	0	0	0	0	3	2.4%
広島県	1	0	0	0	0	1	0.8%
徳島県	3	0	1	2	0	6	4.8%
香川県	0	0	0	0	1	1	0.8%
愛媛県	4	0	1	7	2	14	11.2%
高知県	30	3	25	20	12	90	72.0%
長崎県	0	0	1	0	0	1	0.8%
合計	**45**	**3**	**30**	**30**	**17**	**125**	**100%**

【大　学　院】

（単位：人）

研究科	看護学研究科		人間生活学研究科		合　計	割合
専攻	看護学専攻		人間生活学専攻			
課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程		
東京都	0	1	0	0	1	3.8%
神奈川県	2	0	0	0	2	7.7%
兵庫県	2	0	0	0	2	7.7%
広島県	0	0	1	0	1	3.8%
香川県	1	0	0	0	1	3.8%
愛媛県	1	0	0	0	1	3.8%
高知県	4	1	9	0	14	53.8%
福岡県	1	0	0	0	1	3.8%
熊本県	1	0	0	0	1	3.8%
鹿児島県	1	0	0	0	1	3.8%
外国	0	1	0	0	1	3.8%
合計	**13**	**3**	**10**	**0**	**26**	**100%**

3 学生数（令和5年5月1日現在）

（単位：人）

学部・学科・専攻		1回生			2回生			3回生			4回生			5回生以上			合計		
		県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計
文化学部（昼）	文化学科	52	77	129	57	75	132	64	60	124	63	79	142				236	291	527
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1				1	1	2
	小　計	52	77	129	57	75	132	64	61	125	64	79	143				237	292	529
文化学部（夜間主）	文化学科	14	8	22	16	14	30	16	7	23	22	17	39				68	46	114
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2				1	2	3
	小　計	14	8	22	16	14	30	16	8	24	23	18	41				69	48	117
看護学部	看護学科	36	46	82	46	37	83	34	51	85	32	50	82				148	184	332
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	小　計	36	46	82	46	37	83	34	51	85	32	50	82				148	184	332
社会福祉学部	社会福祉学科	27	45	72	30	45	75	27	43	70	32	51	83				116	184	300
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	小　計	27	45	72	30	45	75	27	43	70	32	51	83				116	184	300
健康栄養学部	健康栄養学科	19	22	41	15	27	42	14	29	43	18	23	41				66	101	167
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	小　計	19	22	41	15	27	42	14	29	43	18	23	41				66	101	167
学部合計	学部合計	148	198	346	164	198	362	155	190	345	167	220	387				634	806	1,440
	編入生合計	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	1	3				2	3	5
	合　計	148	198	346	164	198	362	155	192	347	169	221	390				636	809	1,445
大学院	看護学研究科看護学専攻（博士前期）	7	3	10	10	6	16										17	9	26
	看護学研究科看護学専攻（博士後期）	4	1	5	1	6	7	7	13	20							12	20	32
	看護学研究科共同災害看護学専攻（博士）													1	2	3	1	2	3
	人間生活学研究科（博士前期）	5	2	7	7	1	8										12	3	15
	人間生活学研究科（博士後期）	1	0	1	0	0	0	6	0	6							7	0	7
大学院合計	合　計	17	6	23	18	13	31	13	13	26	0	0	0	1	2	3	49	34	83
総計		165	204	369	182	211	393	168	205	373	169	221	390	1	2	3	685	843	1,528

4 休学・退学・修業年限を超えて在籍する学生数及び単位互換の状況

(1)年次別休学者数

(単位:人)

区分			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
文化学部	文化学科		24	20	24	19	20
看護学部	看護学科		4	4	4	5	3
社会福祉学部	社会福祉学科		3	5	5	4	5
健康栄養学部	健康栄養学科		2	2	4	1	3
学部合計			33	31	37	29	31
大学院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	2	3	3	3	2
		看護学専攻(博士後期)	2	6	7	5	4
		共同災害看護学専攻(博士)	1	1	0	1	2
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	0	1	1	0	1
		人間生活学専攻(博士後期)	0	0	1	1	3
大学院合計			5	11	12	10	12
合計			38	42	49	39	43

(2)年次別退学者数

(単位:人)

区分			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
文化学部	文化学科		13	13	19	16	15
看護学部	看護学科		1	2	3	2	1
社会福祉学部	社会福祉学科		1	1	4	4	1
健康栄養学部	健康栄養学科		2	1	2	0	3
学部合計			17	17	28	22	20
大学院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	1	0	1	1	0
		看護学専攻(博士後期)	0	1	0	1	0
		共同災害看護学専攻(博士)	0	1	0	0	0
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	0	0	0	2	0
		人間生活学専攻(博士後期)	0	0	0	2	0
大学院合計			1	2	1	6	0
合計			18	19	29	28	20

(3)修業年限を超えて在籍する学生数(令和5年4月1日現在)

(単位:人)

区分		5年	6年	7年	8年以上	計
文化学部	文化学科	17	6	5	2	30
看護学部	看護学科	2	0	1	0	3
社会福祉学部	社会福祉学科	2	1	0	1	4
健康栄養学部	健康栄養学科	1	0	0	0	1
学部合計		22	7	6	3	38

(単位:人)

区分			3年	4年	5年	6年以上	計
大学院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	1	0	1	0	2
		看護学専攻(博士後期)		3	2	4	9
		共同災害看護学専攻(博士)				1	1
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	1	1	0	0	2
		人間生活学専攻(博士後期)		0	0	0	0
大学院合計			2	4	3	5	14

(4)単位互換の状況

(単位:人)

大学名	派遣		受入	
	人数	科目数(延べ)	人数	科目数(延べ)
高知大学	1	2	0	0
高知短期大学	0	0	0	0
高知学園短期大学	0	0	0	0
高知工科大学	3	7	0	0
名古屋市立大学	0	0	0	0
名桜大学	0	0	0	0
合計	4	9	0	0

5 課外活動

（単位：人）

文化系　（令和6年3月31日現在）		体育系　（令和6年3月31日現在）	
団　体　名	部員数	団　体　名	部員数
3大学合同地域活性化団体Sun-fes	13	FC.SOPHIA	26
Bonito ST	8	高知県立大学合氣道部	8
COME☆RISH	33	池バスケットボールサークル	5
LGBTQ支援部	3	弓道部	8
Society For Everyone	3	高知県立大学準硬式野球部	16
編み物サークル	3	女子ソフトボール部	3
イケあい地域災害学生ボランティアセンター	14	水泳部	4
いけいけサロン活動	14	スポーツサークル	14
池キャンパス茶道部	3	バスケットボール部	20
裏千家茶道部	4	バドミントンサークル	24
映画鑑賞サークル	11	バレーボール部	18
エスコーターズ	8	高知県立大学陸上競技部	3
おおとよ探検隊	10	高知県立大学剣道部	4
オーテピアンズ	8	少林寺拳法部	6
活輝創生実行委員会	19	高知県立大学卓球サークル	15
カフェサークルcaféier	10	学生団体コンパスよさこいチーム叢雲	20
かんきもん	57	学生よさこいチーム粋恋	4
競技かるた部	7	ダンスサークル	9
グローカルクラブ	12		
軽音楽部RiOT	49		
国際交流クラブ	14		
ことば研究会	7		
☆こどもみらい塾☆	40		
高知県立大学災害看護学生チーム(SIT)	16		
高知県立大学写真部	13		
手話サークル	9		
池キャンパス吹奏楽部	7		
永国寺キャンパス吹奏楽団	5		
高知県公立大学生活協同組合学生委員会	5		
箏曲部	3		
図書館サークルLibe	8		
NAKAMA ZONE	9		
なないろクレヨンUoK!サークル	6		
ハモ☆イケ	6		
Pシスターズ	39		
漫画研究部	4		
マンドリンクラブ	3		
室戸ボランティアリーダー	24		
YAMATON PRODUCTION	3		
UOK手話サークル	54		
40団体	564	18団体	207
58団体		771人	

6 授業料等の納入状況

(1)入学料・授業料

(単位:円)

区分		入学検定料の額	入学料の額		授業料の額	
			県内生	県外生		
学生	学部	17,000 夜間主コース:10,000	141,000 夜間主コース:70,500	282,000 夜間主コース:141,000	年額	535,800 夜間主コース:267,900
		編入:30,000 編入夜間主コース:18,000				
	大学院	30,000				
科目等履修生		4,900	14,100 夜間主コース:7,500	28,200 夜間主コース:14,100	1単位	14,800 夜間主コース:7,400
研究生		4,900	42,300	84,600	月額	29,700

(2)授業料免除状況①(経済的理由による免除、家計急変等特別な事情による免除)

区分		学部			大学院			合計		
		半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計
令和元(2019)年度	免除者(人)	75	89	164	7	4	11	82	93	175
	免除額(円)	20,047,850	46,569,950	66,617,800	1,875,300	1,964,600	3,839,900	21,923,150	48,534,550	70,457,700
令和2(2020)年度	免除者(人)	53	74	127	8	6	14	61	80	141
	免除額(円)	12,680,600	22,771,500	35,452,100	2,143,200	3,214,800	5,358,000	14,823,800	25,986,300	40,810,100
令和3(2021)年度	免除者(人)	38	43	81	8	6	14	46	49	95
	免除額(円)	9,733,700	18,217,200	27,950,900	2,143,200	3,214,800	5,358,000	11,876,900	21,432,000	33,308,900
令和4(2022)年度	免除者(人)	23	41	64	3	6	9	26	47	73
	免除額(円)	6,072,400	16,699,100	22,771,500	803,700	3,214,800	4,018,500	6,876,100	19,913,900	26,790,000
令和5(2023)年度	免除者(人)	28	33	61	2	6	8	30	39	69
	免除額(円)	7,054,700	12,635,950	19,690,650	535,800	3,036,200	3,572,000	7,590,500	15,672,150	23,262,650

(3)授業料免除状況②(成績優秀者に対する免除)

区分		学部			大学院			合計		
		半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計
平成28(2016)年度	免除者(人)	10	12	22	−	−	0	10	12	22
	免除額(円)	2,679,000	6,161,700	8,840,700	−	−	0	2,679,000	6,161,700	8,840,700
平成29(2017)年度	免除者(人)	11	12	23	−	−	0	11	12	23
	免除額(円)	2,946,900	5,893,800	8,840,700	−	−	0	2,946,900	5,893,800	8,840,700
平成30(2018)年度	免除者(人)	12	12	24	−	−	0	12	12	24
	免除額(円)	3,036,200	5,893,800	8,930,000	−	−	0	3,036,200	5,893,800	8,930,000
令和元(2019)年度	免除者(人)	12	12	24	−	−	0	12	12	24
	免除額(円)	2,812,950	6,429,600	9,242,550	−	−	0	2,812,950	6,429,600	9,242,550

※平成28年度に制度開始、成績優秀による免除は令和元年度まで

(令和2年度以降は、制度変更により、学長奨励賞 受賞者への副賞として奨励金支給開始)

7　日本学生支援機構奨学金受給状況（令和6年3月1日現在）

【学　部】

（単位：人、%）

区分			文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部	合計
全学年	給付		116	63	58	25	262
	給付率(%)		17.7	19.0	19.3	15.0	18.0
	貸与	1種	170	67	78	52	367
		2種	123	68	53	27	271
		合計	293	135	131	79	638
		併用	44	16	19	11	90
		貸与率(%)※	37.9	35.8	37.3	40.7	37.6
	学生数		657	332	300	167	1,456
1回生	給付		29	13	13	6	61
	貸与	1種	35	16	25	9	85
		2種	29	19	14	3	65
		合計	64	35	39	12	150
		併用	9	4	6	0	19
2回生	給付		33	16	16	7	72
	貸与	1種	51	23	21	11	106
		2種	24	19	9	7	59
		合計	75	42	30	18	165
		併用	9	4	2	2	17
3回生	給付		26	11	17	7	61
	貸与	1種	46	13	18	12	89
		2種	32	19	19	8	78
		合計	78	32	37	20	167
		併用	14	4	6	3	27
4回生	給付		28	23	12	5	68
	貸与	1種	38	15	14	20	87
		2種	38	11	11	9	69
		貸与合計	76	26	25	29	156
		併用	12	4	5	6	27

※　貸与率(%)＝〔(合計-併用)〕/学生数*100

【大学院】

（単位：人、%）

区分		看護学研究科	人間生活学研究科	合計
全学年	1種	6	2	8
	2種	1	2	3
	合計	7	4	11
	併用	0	0	0
	学生数	70	25	95
	貸与率(%)※	10.0	16.0	11.6

※　貸与率(%)＝〔(合計-併用)〕/学生数*100

8 卒業(修了)者状況

(1)年次別卒業(修了)者数

(単位:人)

区分		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学部	文化学部	文化学科	138	135	160	139	141
	看護学部	看護学科	82	82	81	80	79
	社会福祉学部	社会福祉学科	71	73	74	68	79
	健康栄養学部	健康栄養学部	41	40	41	41	38
	学部計		332	330	356	328	337
大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期)		11	17	18	21	13
	看護学研究科看護学専攻(博士後期)		6	3	1	1	5
	看護学研究科共同災害看護学専攻(博士)		2	1	3	0	0
	人間生活学研究科人間生活学専攻(博士前期)		7	6	10	6	6
	人間生活学研究科人間生活学専攻(博士後期)		2	1	1	2	2
	大学院計		28	28	33	30	26
合計			360	358	389	358	363

（2）令和5年度卒業者 就職状況

学科別産業別就職状況（令和6年5月1日現在）

（単位：人）

区　　分		文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部	合計
		文化	看護	社会福祉	健康栄養	
卒業者数		141	79	79	38	337
進学・留学決定者数		3	4		5	12
就職希望なし		13	1	4	1	19
就職希望者数(A)		125	74	75	32	306
就職決定者数(B)		119	74	75	32	300
就職決定率(B)/(A)%		95.2%	100.0%	100.0%	100.0%	98.0%
農林水産業・鉱業						0　(0)
建設業		3				3　(0)
製造業		9　(1)		1	1	11　(1)
電気・ガス・水道業		1				1　(0)
情報通信業		9　(2)		1	1	11　(2)
運輸業、郵便業		4　(1)				4　(1)
卸売業、小売業		10　(4)		1	6　(1)	17　(5)
金融業、保険業		20　(13)		2　(1)		22　(14)
不動産業、物品賃貸業				1		1　(0)
学術研究、専門・技術サービス業		3　(1)				3　(1)
宿泊業、飲食サービス業		8			3	11　(0)
生活関連サービス業、娯楽業		3			1	4　(0)
教育、学習支援業	学校教育	20　(10)	5　(3)		2　(2)	27　(15)
	学習支援	1　(1)				1　(1)
医療・福祉	医療・保健	2　(1)	60　(20)	18　(8)	15　(5)	95　(34)
	福祉・介護	3　(2)		38　(13)		41　(15)
複合サービス事業		8　(4)			1	9　(4)
サービス業（他に分類されないもの）		8　(1)		1		9　(1)
公務		7　(4)	9　(3)	12　(1)	2　(1)	30　(9)
上記以外						0　(0)
合　　計		119　(45)	74　(26)	75　(23)	32　(9)	300　(103)

注　（ ）内の数値は高知県内に就職した者

分類は日本標準産業分類による分類

VI　総合情報センター

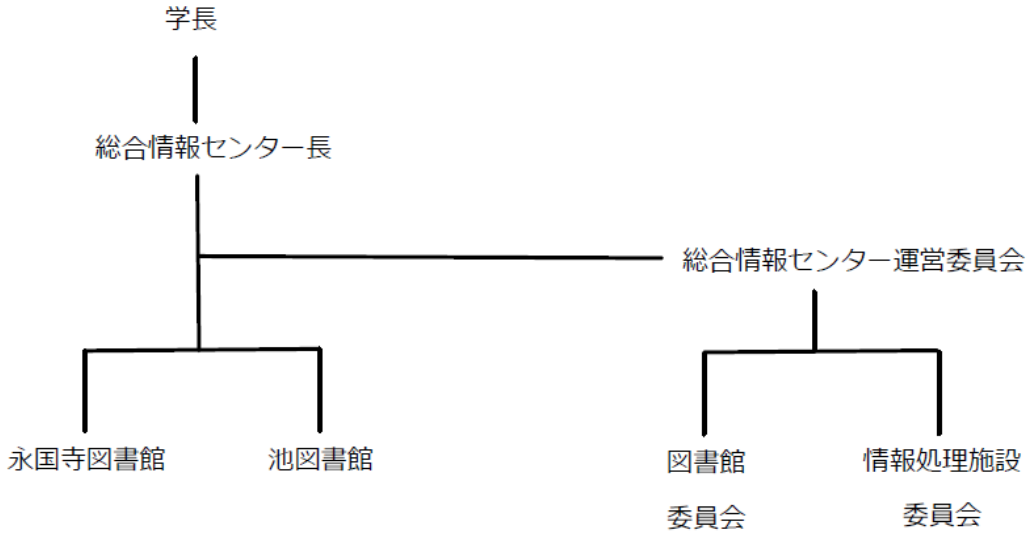
1　概要

総合情報センターのめざすもの

高知県立大学学則第60条に定める図書館及び情報処理施設の管理及び運営を行い、教職員及び学生の教育、研究の支援を行うとともに、地域社会における図書館活動の促進及び地域社会の情報システムとの連携等に取り組み、地域の発展に寄与することを目的とする。

2　組織・委員会

(1) 組織



(2) 委員会

ア　図書館委員会

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。(図書館委員会細則第2条:審議事項)

1. 図書館の整備計画及び維持管理に関すること。
2. 図書館の図書館資料の収集、利用、管理及び調査等に関すること。
3. 学術情報の電子化及び情報発信等に関すること。
4. 図書館の利用者教育に関すること。
5. 図書館所蔵の特別資料の指定に関すること。
6. 他の図書館等との連携に関すること。
7. その他図書館の運営に関し必要な事項

イ　情報処理施設委員会

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。(情報処理施設委員会細則第2条:審議事項)

1. 情報処理施設及び設備(以下「情報処理施設等」という。)の整備計画及び維持管理に関すること。
2. 情報処理施設等の利用及び運用等に関すること。
3. 情報処理施設等の利用者教育に関すること。
4. 他の情報システムとの連携に関すること。
5. その他情報処理施設等の運営に関し必要な事項

3 図書等受入状況

（単位：冊）

図　書		永国寺	池	合　計
和漢書	令和5年度 受入数	777	1,215	1,992
	令和5年度 除籍等	−19	−763	−782
	蔵書数 （令和6年3月31日現在）	133,215	88,007	221,222
洋書	令和5年度 受入数	5	121	126
	令和5年度 除籍等	−1	−3	−4
	蔵書数 （令和6年3月31日現在）	20,374	13,768	34,142
合計	令和5年度 受入数	782	1,336	2,118
	令和5年度 除籍等	−20	−766	−786
	蔵書数 （令和6年3月31日現在）	153,589	101,775	255,364

（単位：タイトル）

雑　誌		永国寺	池	合　計
和雑誌	令和5年度 受入数	88	143	231
	令和5年度 受入開始数	0	0	0
	令和5年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 （令和6年3月31日現在）	940	975	1,915
洋雑誌	令和5年度 受入数	8	44	52
	令和5年度 受入開始数	0	0	0
	令和5年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 （令和6年3月31日現在）	235	203	438
合計	令和5年度 受入数	96	187	283
	令和5年度 受入開始数	0	0	0
	令和5年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 （令和6年3月31日現在）	1,175	1,178	2,353

4　図書館利用状況

＜図書館利用状況＞　（単位：人、冊）

	永国寺	池	合計
入館者数（人）	48,771	42,223	90,994
貸出人数（人）	3,814	3,301	7,115
貸出冊数（冊）	6,121	7,979	14,100

新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、令和5年9月より学外利用者の入館を再開している。令和5年度末の学外登録者数は、両図書館合わせて105名である。学外利用者の入館を再開したことにより、新規登録者数は回復傾向にある。

＜文献複写＞　（令和6年3月31日現在）　（単位：件）

	依　頼			受　付
	公費	私費	合計	計
永国寺	131	69	200	62
池	284	55	339	295
合計	415	124	539	357

5　学内 LAN 状況

（1）サーバ、ネットワークシステムの概要

ア　サーバ

重要サーバ群（教務システム、財務システム等の業務用サーバ）は、高知工科大学と共同利用しているデータセンターに構築している仮想基盤上に配置している。情報演習室のシステムのサーバは永国寺キャンパスに配置している。

イ　ネットワークシステム

両キャンパスともに有線・無線LAN環境が整備されている。令和3年8月に池・永国寺無線ネットワーク更改を行った。池キャンパスにおいてはアクセスポイントを倍増（50台→100台）し接続環境が改善された。

（2）登録ID（教職員、学生、大学院生ごとの内訳）及び接続端末の総数

ア　登録ID総数　1,746 名　　教職員218名（教員　121 名、事務職員 97名）

学生1,528名（学部 1,445 名、大学院　83名）

イ　接続端末総数　約690台　　永国寺キャンパス　約320台

池キャンパス　約370台

（3）情報演習室

ア　池情報演習室　2室（利用者用端末　各49台）

イ　池大学院生研究室　3室（利用者用端末　各14台）

ウ　永国寺情報演習室　2室（利用者用端末　130台、48台）

※永国寺情報演習室は高知工科大学と共用している。

VII　地域教育研究センター

地域教育研究センターは、本学が、社会に貢献する大学として、地域コミュニティに根ざし、また、未来を拓く「知の拠点」としての役割の強化並びに本学の教育理念である「地域社会志向教育」を実現するために、平成24年4月に活動を開始した。令和4年には設立10年を迎えた。

1. 地域教育研究センターは、中山間対策など高知県や地域が抱える現状や課題、ニーズを把握し、県・市町村や地域の諸組織 、本学卒業生などとともに本学との協働体制を構築し、機能させる仕組みづくりを行い、全学体制で課題解決に取り組む。

2. 地域課題に関する情報を入手できる環境を整備し、学生が主体的に行動できるよう、プログラムや支援体制を充実させる。

3. 公開講座、県民開放授業、履修証明プログラム、科目等履修生制度等を活用し、県民が学び続けることのできる生涯学習プログラムを構築し、実施する。

4. 専門職者を対象とする研修会やリカレント教育を実施し、最新の知識や高度な技術を伝え、専門職者の力量アップを支援する。

5. 地域の教育機関や行政等との連携を図り、共同事業等を通じて、児童や生徒の学問に対する興味や関心を高めるための公開講座や出前講座等の学習支援活動を実施する。

＜事業実施状況＞

【履修証明プログラム】

平成26年度から「履修証明プログラム」を開始している。
昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募集中止となった。

【高知県立大学県民開放授業】

県民開放授業は、平成14年度後期から、文化学部の公開講座の一つとして始まった。平成25年度には、地域教育研究センターが「AERU県民公開授業」を開始した。平成26年度からは、上記2つの事業を統合し、「高知県立大学県民開放授業」を実施している。
昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募集中止となった。

【高大連携事業】

（1）小・中・高等学校への出前講座

学問に対する興味・関心を高め、大学で学ぶことの魅力や楽しさについて知っていただくことを目的に、高知県内の小・中・高等学校の児童、生徒を対象に、出前講座を実施し ている。15校から要請を受け、派遣した教員数は23人、延べ受講者数1902人であった。

No.	学校名	実施日	対象者	テーマ	受講者数（人）
1	仁淀川町立仁淀中学校	令和5年5月22日	中学2～3年	地域福祉のおもしろさ：住民主体の幸せおまち・むらづくり	22
2	高知県立室戸高等学校	令和5年6月19日	高校2～3年	漢詩・漢文全般について	21
3	高知県立高知追手前高等学校	令和5年6月24日	高校生	貧困と病気の関係	43
4	四万十町立興津小学校	令和5年6月30日	小学3～4年	漢字のしくみ、漢字の面白さ	4
5	仁淀川町立仁淀中学校	令和5年7月11日	中学生	マイノリティって何？	29
6	宿毛市立平田小学校	令和5年7月18日	小学6年	心理学ワールド	12
7	土佐中・高等学校	令和5年7月18日	中学1年	アニメ、漫画等のポップカルチャーがまちを救う？	253
				地域作りを考える	
				ことばの楽しさ、面白さ－日本語から見た英語、英語から見た日本語－	
				われわれはなぜ「読む」のか「学ぶ」のか？	
				生活の中の法律	

No.	学校名	実施日	対象者	テーマ	受講者数（人）
8	高知市立十津小学校	令和5年10月14日	小学4年、保護者	巨大地震に備え今すべき食料備蓄	106
9	高知県立高知小津高等学校	令和5年10月17日	高校生、教職員	自然災害、地域防災、地球科学	883
10	高知学芸中学・高等学校	令和5年10月20日	中学3年、高校1年ほか	看護学を学ぶ意義や魅力について	46
11	高知県立安芸高等学校	令和5年11月20日	高校1～2年	異文化理解の面白さ	167
				看護の仕組みを考える	
				少子高齢化って何が問題なの？	
				土佐の伝統食について	
12	高知県立国際高等学校	令和5年11月24日	高校生	災害看護に関する講義と演習	243
13	高知県立春野高等学校	令和5年12月14日	高校2年	日本語と他の言語との比較から見える世界	33
14	高知県立宿毛高等学校	令和5年12月18日	高校2年	看護を学ぶということ/看護の専門性	29
				障がい入門	
15	宿毛市立平田小学校	令和6年2月9日	小学6年	楽しく学ぶ異文化理解　こんなに違う世界や地域の常識	11

（2）高校生のための公開講座

高校生が、大学の教育・研究に触れ、学問に対する興味・関心を深め、学びの楽しさについて知っていただくことを目的に実施している。全4回開催し、延べ受講者数191人であった。

	実施日	テーマ	対象者	受講者数（人）
県大立志塾2023	令和5年6月3日	高知県の地域課題に向けての住民と学生の取り組み	高校生	81
	令和5年9月30日	地域の資源を見つける力、とは？～なんでもないものに価値がある～	高校生	31
	令和5年12月9日	南海トラフ地震、発生後の食生活はどうなる？	高校生	36
	令和6年2月10日	未来の地域をデザインする ―住民・学生・関わる人々が共創する健康な地域づくり―	高校生	43

【「知の拠点」としての多様な生涯学習の機会の提供】

地域の人々の知の探究を支援する事業の展開及び地域の教育力向上のための活動を行っている。

1．公開講座

（1）県民大学公開講座

「知の拠点」として、県民を対象とした公開講座を随時開催している。YouTubeを利用したオンラインで開催した。延べ受講者数515人。

テーマ		実施日	対象者	受講者数（人）
豊かな暮らしにつながる学び	① シン・オリンピック考	令和5年7月11日～7月17日	県民他	43
	②こころの病をもつ人と共に	令和5年7月18日～7月24日	県民他	70
	③東日本大震災リフレクション～認知症の人と家族はその時どうなった？～	令和5年7月25日～7月31日	県民他	104
	④ 口から生命を紡ぐ	令和5年8月1日～8月7日	県民他	54
	⑤ 英国の文化と出会った高知―聖公会との歩みから考える高知の文化―	令和6年1月16日～1月22日	県民他	47
	⑥ 私たちだって働きたい～障害者雇用の現場から～	令和6年1月23日～1月29日	県民他	61
	⑦「住み慣れた地域で最期まで」を実現するしくみについて考える	令和5年1月30日～2月5日	県民他	67
	⑧ 健康寿命を延ばそう-糖尿病について-	令和6年2月6日～2月12日	県民他	69

（2）第40回本山町・高知県立大学公開講座「夜學」

本山町と本山町老人クラブ連合会、本学の3者で公開講座協定書を締結し、10回の公開講座を行った。受講者延べ143人、7講座以上受講した方に、修了証書を発行した。

No.	公開講座「夜學」講座内容	実施日	対象者	受講者数（人）
1	土佐の伝統食について	令和5年5月12日	本山町民他	17
2	出産・子育てと健康	令和5年6月1日	本山町民他	11
3	災害時の食事	令和5年7月26日	本山町民他	13
4	心の健康	令和5年8月24日	本山町民他	14
5	健康体操	令和5年9月5日	本山町民他	12
6	それってほんとに「できない」の？　発達障がい者支援が教えるヒント	令和5年9月13日	本山町民他	23
7	からだに働く食品成分	令和5年10月5日	本山町民他	11
8	翻訳の悦び、注釈の楽しみ　ーいま改めて、世界文学を読む	令和5年11月23日	本山町民他	7
9	こんなに違う世界の学校	令和5年11月29日	本山町民他	14
10	人間はなぜ生きるのか	令和5年12月19日	本山町民他	21

（3）安芸市シルバー短期大学

安芸市と本学との包括連携協定に基づく連携事業の一つとして、安芸市社会福祉協議会が開催している「安芸シルバー短期大学」に本学教員が講師として登壇した。

No.	テーマ	実施日	対象者	受講者数（人）
1	高知にある良いコト・モノ	令和5年6月23日	安芸市民他	29
2	知ってびっくり！意外に知らない土佐の食材にまつわる雑学	令和5年7月28日	安芸市民他	27
3	明治期の高知の新聞ー自由民権と文化	令和5年9月22日	安芸市民他	32
4	高齢者が元気になる介護予防	令和5年11月24日	安芸市民他	29

（4）文化学部主催・地域教育研究センター共催公開講座

第一部では、中国古典文学の中でも、名前だけは有名な一方で、難解なことで知られる「金瓶梅」の新訳を現在精力的に進められている田中智行先生に「翻訳・注釈」を切り口にご講演をいただいた。

第二部では、高知県立大学文学部の教員を中心に、日本文学、アメリカ文学、中国文学の立場から個別発表とパネル討議を行った。

テーマ：「翻訳の悦び、注釈の楽しみ　ーいま改めて、世界文学を読むー
日　時：令和5年11月23日（木・祝）13:00～16:40
場　所：永国寺キャンパスA101講義室
開催方法：対面、Zoomによるオンラインライブ配信のハイブリッド開催
参加者数：89人

第一部　基調講演
「古典翻訳という冒険－中国四大奇書『金瓶梅』新訳に挑む」
大阪大学大学院人文学研究科准教授
田中 智行 氏

第二部　個別発表
①「中国怪奇小説集「聊斎志異」の翻訳世界」
高西 成介（高知県立大学文化学部教授）

②「明治文学への注釈と読解－注釈の正しさ読解の力学」
田中 裕也（高知県立大学文化学部准教授）

③「もうひとつの声－テクストとしての注釈」
山口 善成（金沢大学国際学系教授）

パネル討議
パネリスト：田中 智行、山口 善成、田中 裕也
司会進行：高西 成介

【「県民大学」学生プロジェクト　立志社中】

平成25年度から、地域の課題解決に主体的に取り組む学生を大学として支援する「立志社中」をスタートさせた。11年目となる令和5年度は、8プロジェクト、188人の学生が地域活動に参画した。

（1）令和5年度採択プロジェクト「立志社中」

No.	プロジェクト名	チーム名	活動エリア	参加学生数（人）	交付額(利息含)［執行額］
1	Revive～地域を知り、繋がりを取り戻す～	活輝創生実行委員会	佐川町	19	269,404円［50,754円］
2	住民と学生による持続可能な地域づくり	Pシスターズ	高知市、安芸市、三原村、仁淀川町	38	179,677円［128,141円］
3	池地域まるごとサロン活動「池ステップアップ活動」	いけいけサロン活動	高知市	14	115,000円［2,674円］
4	健援隊Welfareプロジェクト	健援隊	高知市、香美市	27	144,900円［116,059円］
5	～誰一人取り残さない街づくり～	UOK手話サークル	高知市	46	183,350円［132,052円］

No.	プロジェクト名	チーム名	活動エリア	参加学生数（人）	交付額(利息含)［執行額］
6	魅せよう！立川プロジェクト～立川の魅力を伝え隊～	おおとよ探検隊	大豊町	9	299,386円［182,153円］
7	～次世代へ伝えよう～奈比賀地区いいとこプロジェクト	奈比賀応援団	安芸市	6	149,952円［92,276円］
8	学生と地域をつなぐ架け橋づくり	かんきもん援農部門	安芸市、四万十市	29	134,045円［110,351円］

（2）その他の活動

No.	事業名等	テーマ等	概要
1	プレゼンテーション及び審査会	【立志社中】プレゼンテーション及び審査会 日時：令和5年5月28日	応募のあった8件のプロジェクトについて、プレゼンテーション及び審査会を実施し、採択プロジェクトを決定した。
2	第1回スキルアップセミナー	テーマ：「地域活動ことはじめ」 日　時：令和5年6月10日 講　師：津野町まちづくり推進課 小笠原　知美 氏	地域の方の視点、行政職員の視点で、地域活動の留意点や学生に期待することを自身の立志社中の活動経験を踏まえ、お話しいただいた。
3	第2回スキルアップセミナー	テーマ：「伝わる企画」 日　時：令和5年9月22日 講　師：佐川町産業振興課　森　稚奈 氏	実際の企画書作成・発表などをとおして、チームの活動が”伝わる”手法を学ぶことで、その後の地域活動に自信をもって取り組んでもらう。
4	中間報告会	【立志社中】中間報告会 日時：令和5年11月12日	各プロジェクトの半年間の活動を振り返り、プロジェクトの進捗状況及び後半の活動予定の報告を行った。
5	第3回スキルアップセミナー	テーマ：「ファシリテーション研修」 日　時：令和6年1月12日 講　師：株式会社 わらびの 代表取締役 畠中 智子 氏	地域の方等とのグループワークにおけるファシリテーションはもとより、意見のまとめ方、見える化などの手法を学ぶことで、自身のグループ内での話し合いなどにも活かしてもらう。
6	活動成果報告会	【立志社中】活動成果報告会 日　時：令和6年3月3日	各プロジェクトの活動を報告・評価し、成果や課題を共有することを目的として開催した。

【令和5年度全国公立大学学生大会 LINKtopos2023への参加】

11回目を迎える本大会は、昨年に引き続き、対面開催となった。全国23の公立大学から96人の学生が参加した。本学からは立志社中グループから学生1人、職員1人が参加し、全国の公立大学の学生・教職員と交流した。

テーマ　：　「彩（いろどり）」
日　時　：　令和5年9月4日（月）～9月6日（水）
場　所　：　沖縄県立芸術大学、沖縄県立看護大学

【コミュニティサービスラーニング(CSL)サポートデスク】

地域の抱える課題を認識し、課題解決への関心を高めた学生が、専門的な知識や技術など大学での学びの成果を活かして、域学共生の理念に基づき、ボランティア活動を行うコミュニティサービスラーニングを支援するための窓口として、平成28年5月から地域教育研究センターに設置している。

（1）ボランティア情報受付実績

延べ参加者数：240人

No.	概要	団体名	件数	参加者数
1	小1サポーター	高知市教育委員会	1	延べ83人
2	小・中学校での学習支援	高知市教育委員会	1	延べ69人
3	小津高校SSH事業課題研究TA	高知県立高知小津高等学校	1	11人

No.	概要	団体名	件数	参加者数
4	生徒の学びサポート事業(学習支援員事業)学習支援員	高知県立高知丸の内高等学校	1	延べ41人
5	小・中学校での学習支援(夏季)	三原村教育委員会	1	5人
6	盆行事「うぐるファミリーフェスティバル」の運営支援	高知県集落活動センター連絡協議会	1	3人
7	鵜来島の秋祭り(春日神社大祭)の運営支援	高知県集落活動センター連絡協議会	1	6人
8	下川口家みそづくり体験及び直販所運営支援等	高知県集落活動センター連絡協議会	1	6人
9	地域での餅つき行事支援等	高知県集落活動センター連絡協議会	1	5人
10	ボランティアガイダンス2023の運営業務	NPO高知市民会議	1	7人
11	久重小学校区運動会の運営業務	久重体育会(本学専任教員企画)	1	4人

【包括連携協定】

本協定は、各市町村や企業・NPO法人等の団体と本学が多様な分野で緊密な協力関係を築き、持続・発展的に連携を深めることにより、未来を担う人材の育成や活力ある地域社会の形成・発展に寄与することを目的とする。

協定締結団体との連携

No.	団体名	事業名	期間等	概要	参加者等
1	高知市	小1サポーター	入学当初から11月までの月曜日から金曜日	高知市立小学校第1学年の学習や生活支援への学生ボランティアの募集、取りまとめと高知市との調整を行った。	本学学生延べ83人
2	高知市	学習支援ボランティア	月曜から金曜、夏期・冬期の休業中	高知市の小・中学校へ学習支援への学生ボランティアの募集、取りまとめと高知市との調整を行った。	本学学生延べ69人
3	三原村	学習支援ボランティア	令和5年8月28日～9月1日	三原村の小・中学校へ学習支援への学生ボランティアの募集、取りまとめと三原村との調整を行った。	本学学生5人
4	NPO高知市民会議	ボランティアガイダンス2023	令和5年11月18日	ボランティアガイダンス当日の会場設営や受付、司会などの運営業務を行った。	本学学生7人

【協力団体との連携強化に向けた取り組み】

さらなる連携の強化に向けて、高知県や市町村、学生受入団体等との情報交換を定期的に行っている。

(1)開催実績

No.	会議名	実施日	概要	対象	出席者数(人)
1	連携推進会議(ZOOM開催)	令和5年6月29日	地域教育研究センター及び健康長寿センターと自治体との連携事例について当該連携団体と共に報告を行い、出席者との情報共有や意見交換を行った。	包括連携協定を締結している県内8市町村	46
2	域学共生連連携拡大会議(ZOOM開催)	令和5年9月19日	大学との連携事例を知っていただく機会として、全体報告会と「地域に向けた健康長寿研究の情報発信」「地域に学ぶ、学生が学ぶ」「ポストコロナの国際交流」の3つのテーマに分かれ、本学の教職員による事例発表と併せて、参加者との情報共有や意見交換を行い、諸組織との連携推進に向けた協働体制の構築、強化に繋げた。	高知県及び県内市町村をはじめとして広く一般の方	86

VIII　健康長寿センター

健康長寿センターは、本学の学部が連携して、地域の人々の健康長寿の推進および健康長寿社会の構築に貢献する専門職者の最新の知識や技術の向上に努めることを目的として、平成22年4月に設置された。
センターは、平成30年度に改めて活動ポリシー(次表)をまとめ、5つの活動を行っている。

【活動状況】

活動ポリシー	内　　容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
Ⅰ 高知県民の皆様に対し健康長寿を啓発する活動 (域学共生)	1. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(YouTube配信) ①認知症予防に効果的な食事のとり方	1	令和6年3月8日～公開	公開後の閲覧回数131回(令和6年3月11日時点)	在宅高齢者、一般県民、医療・介護・福祉従事者
	2. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(対面講座) ①健康長寿体験型セミナーin土佐清水「皆で運動！ 地域でアクティブ！！ 栄養でもう一押し☆」	1	令和5年9月20日	55人	土佐清水市各地区の運動教室リーダー・ボランティア・地域住民、土佐清水市役所健康推進課職員
	2. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(対面講座) ②健康長寿体験型セミナーin三里「地域で取り組む健康づくりと楽しみづくり」	1	令和5年10月4日	128人	三里地区　地域住民
	2. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(対面講座) ③第40回本山町公開講座夜學(お昼の特別講座)(健康長寿センター枠)「健康体操」～体操を日常に取りいれて、転びにくくなる身体を作っていきましょう！～	1	令和5年9月5日	18人	本山町、本山町老人クラブ連合会
	2. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(対面講座) ④令和5年度安芸シルバー短期大学(公開講座)(健康長寿センター枠)「高齢者が元気になる介護予防」～体操を日常に取りいれて、転びにくくなる身体を作っていきましょう！～	1	令和5年11月24日	35人	安芸市シルバー短期大学受講者
	2. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(対面講座) ⑤いき百応援プロジェクト～いきいき百歳体操×県立大学～(高知市三里地区)	4	令和5年6月22日	20人	三里地区「晴海会館」「船倉津波避難タワー」会場で活動しているいきいき百歳体操の参加者の方
			令和5年7月6日	20人	
			令和5年11月10日	4人	
			令和5年12月7日	17人	
	2. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(対面講座) ⑥高齢者対象健康教育「自分らしい暮らし」(津野町)	10	令和5年7月25日	延べ200人	高齢者サロン・あったかふれあいセンターに参加する近隣住民
			令和5年8月21日		
			令和5年8月25日		
			令和5年9月6日		
			令和5年9月7日		
			令和5年10月24日		
			令和5年11月20日		
			令和5年12月7日		
			令和6年2月2日		
			令和6年2月14日		
	2. おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター(対面講座) ⑦健康長寿体験型セミナーin土佐町「介護予防～体操を日常に！転びにくい身体づくり～」	1	令和6年1月12日	21人	とんからりんの家参加者

活動ポリシー	内　　容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
Ⅰ 高知県民の皆様に対し健康長寿を啓発する活動 （域学共生）	3.高知県在住高齢者を対象とした熱中症予防教育の実施とその評価	5	令和5年6月30日	23人	高知市なごやか宅老事業宅老所施設(5か所)
			令和5年7月4日	8人	
			令和5年7月7日	12人	
			令和5年7月11日	16人	
			令和5年7月18日	8人	
		4	令和5年7月8日	18人	老人クラブ・高齢者サロン・いきいき百歳体操に通われている高齢者
			令和5年7月13日	17人	
			令和5年7月15日	13人	
			令和5年8月11日	10人	
	4. 土佐市連携事業 ①とさっ子健診プロジェクト	2	令和5年8月27日	169人	小学5年生 中学2年生
			令和5年8月28日		
	4. 土佐市連携事業 ②土佐市地域ケア会議推進プロジェクト	－	通年	－	土佐市地域包括支援センター
	4. 土佐市連携事業 ③両親学級	1	令和5年8月6日	22人	土佐市在住の初産婦とご家族
	4. 健康長寿文庫（令和5年度87冊収蔵）	－	通年	－	

活動ポリシー	内　　容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
Ⅱ 高知県の医療・健康・福祉政策課題を解決する活動	1. 高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	4	令和5年7月25日～26日	41人	介護福祉士、介護職員、特別支援学校教員、保育士等、特定の者に対してたんの吸引等の行為を行う必要がある者
			令和5年10月14日～15日		
			令和5年12月2日～3日		
			令和6年2月17日～18日		
	2. 高知県中山間地域等訪問看護師育成講座 ～令和5年度訪問看護スタートアップ研修～	－	通年	18人	訪問看護ステーションに勤務する新任・新卒訪問看護師及び病院などに勤務する看護師
	3. 入退院支援事業	－	通年	1,167人	県内病院・施設・福祉保健所・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等
	4. 高知県キャリア教育推進事業 ①集合型研修　高校生のためのEvent講座1 社会福祉を分かりやすく学ぶ	1	令和5年7月29日	221人	高校生と保護者
	4. 高知県キャリア教育推進事業 ②集合型研修　高校生のためのEvent講座2 県大生と行く職場見学ツアー	1	令和5年9月23日	40人	高校生と保護者
	4. 高知県キャリア教育推進事業 ③集合型研修　高校生のためのEvent講座3 県大生と行く最新の福祉体験ツアー	1	令和5年10月22日	24人	高校生と保護者
	4. 高知県キャリア教育推進事業 ④集合型研修　高校生のためのEvent講座4 新2・3年生のための入門講座	1	令和6年3月21日	66人	高校生と保護者

活動ポリシー	内　　容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
Ⅱ 高知県の医療・健康・福祉政策課題を解決する活動	4. 高知県キャリア教育推進事業 ⑤訪問講座（計10校）	10	令和5年8月23日 令和5年9月6日 令和5年9月8日 令和5年9月11日 令和5年9月22日 令和5年9月25日 令和5年9月26日 令和5年9月28日 令和5年10月6日 令和5年10月20日	248人	高校生・高校教員
	5. 糖尿病保健指導連携体制構築事業	－	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	472人	モデル基幹病院の看護師

活動ポリシー	内　　容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
Ⅲ 高知医療センターとの包括的連携を推進する活動	1. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	－	－	－	－
	2. 高知医療センター地域医療連携研修会の合同開催「まさかに備える　予防する」～自分らしい最期を迎えるために～	1	令和6年2月3日	73人	医療関係者、県民の方
	3. 医療コンフリクト・マネジメント研修	1	令和5年12月16日	35人	高知医療センター職員、高知県立大学教職員・大学院生・学部生
	4. スキルズラボ	1	令和5年10月25日	－	スキルズラボ運営委員会
	5. 令和5年度高知医療センターとの包括的連携事業　集団栄養指導「みんなで学ぼう高血圧」	1	令和5年11月20日	24人	血圧が高めの方とその家族
	6. 専門職者のキャリアサポート「シミュレーション教育学習会：教育実践に活用する振り返りの技」	1	令和5年12月17日	23人	高知県立大学教員および医療専門職者、医療者教育に従事する方
	7. 病院前妊産婦救護に関するシミュレーションコース BLSO in 高知	1	令和6年3月16日	31人	高知県の救急医療にかかわる医師、看護師、救急隊員

活動ポリシー	内　　容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
Ⅳ 高知県内の医療・健康・福祉専門職者のスキルアップに資する活動	1. リカレント教育講座 ①看護相談室（リカレント教育等）の広報活動	1	令和5年5月17日	723人	高知県内の看護職
	1. リカレント教育講座 ②社会福祉学部リカレント教育講座 －ようこそ！知のフィールドへ－	1	令和5年10月14日	71人	保健・医療・福祉従事者・一般県民・高校生・養成校教員
	2. 看護学部公開講座 フィジカルアセスメント研修	1	令和5年8月19日	18人	県内の卒後3年目までの看護師で初心に戻ってフィジカルアセスメントをやり直したい看護師

活動ポリシー	内　　容		回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
Ⅳ 高知県内の医療・健康・福祉専門職者のスキルアップに資する活動	4. 新任期保健師研修会	プリセプター能力育成研修	2	令和5年5月12日	延335人	高知県・高知県内の市町村に所属する1年目～4年目の保健師
				令和6年3月5日		
		1年目研修・個別支援	2	令和5年8月1日		
				令和5年11月2日		
		2年目研修・地区診断	2	令和5年6月9日		
				令和5年12月15日		
		3年目研修・PDCAサイクル①	1	令和5年7月28日		
				令和5年12月19日		
		4年目研修・PDCAサイクル②	2	令和5年6月16日		
				令和6年2月9日		

活動ポリシー	内　　容	回数	実施時期	参加数	対象者・参加者
Ⅴ 高知県の健康長寿を研究する活動	1. 研究から得られた知見を高知県内に発信する ①非都市部在住高齢者の熱中症予防行動の実施状況	－	－	－	－
	1. 研究から得られた知見を高知県内に発信する ②健康長寿研究のためのロジスティクス	－	－	－	－
	1. 研究から得られた知見を高知県内に発信する ③健康長寿に係る研究等一覧	－	－	－	－

IX　健康管理センター

【健康管理センター利用状況】

（単位：件、人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス	内　科	8	16	14	18	6	3	17	22	10	21	9		144
	外　科	9	6	12	10	2	4	9	5	2	7	3		69
	婦人科		1	7	5	1	1	1	4	2	1	1		24
	メンタルヘルス	67	75	112	91	69	68	97	94	143	140	123	91	1,170
	健診フォロー	40	82	13	76	4	1	19	1	4				240
	その他	182	72	80	164	59	35	61	39	40	74	67	18	891
	合 計 件 数	306	252	238	364	141	112	204	165	201	243	203	109	2,538
	合 計 人 数	286	240	234	352	119	107	190	154	177	210	167	88	2,324
永国寺キャンパス	内　科	8	12	12	42	17		4	8	20	30	5	1	159
	外　科	4	4	7	2			5			2	2		26
	婦人科	2	5	7	2	1	1		1	1	5	3		28
	メンタルヘルス	56	44	42	62	38	40	28	50	38	22	48	11	479
	健診フォロー	31	22	13	49	17		12	3	8	2	1		158
	その他	70	45	25	49	15	8	12	25	14	12	9	9	293
	合 計 件 数	171	132	106	206	88	49	61	87	81	73	68	21	1,143
	合 計 人 数	140	98	80	143	67	36	56	82	58	61	55	19	895
総計	合 計 件 数	477	384	344	570	229	161	265	252	282	316	271	130	3,681
	合 計 人 数	426	338	314	495	186	143	246	236	235	271	222	107	3,219

【精神科医師によるメンタルヘルス相談】

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス	4	4	4	4	8	2	4	4	5	4	4	3	50
永国寺キャンパス	2	2	2	2		2	1	1	2	1	1		16
合 計 件 数	6	6	6	6	8	4	5	5	7	5	5	3	66

【カウンセラーによるメンタルヘルス相談】

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス	5	4	10	6	3	9	8	4	6	11	6	3	75
永国寺キャンパス	4	8	9	6	7	5	6	5	3	5	6	2	66
合 計 件 数	9	12	19	12	10	14	14	9	9	16	12	5	141

【産婦人科医師及び助産師による婦人科相談】

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス			3	3				2					8
永国寺キャンパス			2										2
合 計 件 数			5	3				2					10

【定期健康診断】

①実施内容一覧

月日	4月16日（日）
場所 （時間）	永国寺キャンパス 8時50分～16時00分
対象者	文化学部1～4回生（夜間主を含む） 研究科（希望者）
健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体測定 貧血検査 医師の診察 ＜感染症血液検査（一部学生）＞ ※4種感染症抗体検査 ・文化学部3回生の一部学生

月日	4月22日（土）	月日	4月23日（日）
場所 （時間）	池キャンパス 8時50分～16時00分	場所 （時間）	池キャンパス 8時50分～16時00分
対象者	看護学部1回生・2回生 健康栄養学部1回生・2回生 社会福祉学部1回生・2回生 研究科（希望者）	対象者	看護学部3回生・4回生 健康栄養学部3回生・4回生 社会福祉学部3回生・4回生 研究科（希望者）
健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体測定 貧血検査 医師の診察 **＜感染症血液検査（一部学生）＞** ※B型肝炎抗原抗体検査 ・4種感染症抗体検査 ・看護学部1回生 ・健康栄養学部1回生 ・社会福祉学部1回生 ・看護学研究科（希望者）1回生 ※B型肝炎抗体検査 ・看護学部2回生の一部学生	健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体測定 貧血検査 医師の診察 ＜感染症血液検査（一部学生）＞ ※B型肝炎抗体検査 ・看護学部3回生の一部学生 ・健康栄養学部3回生・4回生の一部学生

※印の内容は、施設実習のために必要な項目であり、定期健康診断時に併せて実施した。

4種感染症：麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎

特記：上記実施日に健康診断できなかった学生に対しては、委託施設にて個別に実施した。

②学年・学科別学部生　健康診断受診状況

学年	学　科	対象者数	胸部間接撮影		内科診察		尿検査		貧血検査	
			受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
1	文化(昼)	131	129	98.5%	129	98.5%	129	98.5%	129	98.5%
	文化(夜)	19	19	100.0%	19	100.0%	19	100.0%	19	100.0%
	看　護	81	81	100.0%	81	100.0%	81	100.0%	81	100.0%
	社会福祉	71	71	100.0%	71	100.0%	71	100.0%	71	100.0%
	健康栄養	41	41	100.0%	41	100.0%	41	100.0%	41	100.0%
2	文化(昼)	132	125	94.7%	125	94.7%	125	94.7%	124	93.9%
	文化(夜)	29	28	96.6%	28	96.6%	28	96.6%	27	93.1%
	看　護	83	82	98.8%	82	98.8%	82	98.8%	82	98.8%
	社会福祉	75	75	100.0%	75	100.0%	75	100.0%	75	100.0%
	健康栄養	42	42	100.0%	42	100.0%	42	100.0%	42	100.0%
3	文化(昼)	121	116	95.9%	116	95.9%	116	95.9%	116	95.9%
	文化(夜)	24	20	83.3%	20	83.3%	20	83.3%	20	83.3%
	看　護	83	83	100.0%	83	100.0%	83	100.0%	83	100.0%
	社会福祉	69	69	100.0%	69	100.0%	69	100.0%	69	100.0%
	健康栄養	43	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%
4	文化(昼)	130	117	90.0%	117	90.0%	117	90.0%	117	90.0%
	文化(夜)	36	27	75.0%	27	75.0%	27	75.0%	27	75.0%
	看　護	79	78	98.7%	78	98.7%	78	98.7%	78	98.7%
	社会福祉	81	80	98.8%	80	98.8%	80	98.8%	79	97.5%
	健康栄養	39	39	100.0%	39	100.0%	38	97.4%	39	100.0%
合　計		1,409	1,365	96.9%	1,365	96.9%	1,364	96.8%	1,362	96.7%
前年度		1,417	1,369	96.6%	1,370	96.7%	1,369	96.6%		

※受検率は、在籍数から休学者・留学中・中途退学者および健診免除者を除いた人数(対象者)を分母としたものである。

※3か月以内に医療機関等で胸部レントゲン撮影をしている学生は、撮影済みとみなした。

③大学院生　健康診断受診状況

年次	研究科		学生数	対象者数	胸部デジタル撮影		内科診察		尿検査	
					受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
1	看護学		15	6	5	83.3%	5	83.3%	5	83.3%
		博士前期課程	10	5	5	100.0%	5	100.0%	5	100.0%
		博士後期課程	5	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	人間生活学		9	7	5	71.4%	5	71.4%	5	71.4%
		博士前期課程	8	6	5	83.3%	5	83.3%	5	83.3%
		博士後期課程	1	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	看護学		23	16	10	62.5%	11	68.8%	11	68.8%
		博士前期課程	16	13	10	76.9%	11	84.6%	11	84.6%
		博士後期課程	7	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	人間生活学		8	6	1	16.7%	1	16.7%	1	16.7%
		博士前期課程	8	6	1	16.7%	1	16.7%	1	16.7%
		博士後期課程	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	看護学 博士後期課程		20	14	1	7.1%	1	7.1%	1	7.1%
	人間生活学 博士後期課程		6	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4・5	看護学 博士後期課程		3	2	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%
合　計			84	54	23	42.6%	24	44.4%	24	44.4%
前年度			95	61	24	39.3%	24	39.3%	24	39.3%

※受検率は、在籍数から休学者および健診免除者を除いた人数(対象者)を分母としたものである。

【学生精神的健康調査（UPI調査）】

・対　象　者：全学部生

・調査実施期間：令和5年4月16日～8月末まで

・実施方法：4月16日・22日・23日の定期健康診断時。
　未受診者は健康管理センターで個別受診の説明をうける際に実施（8月末まで）

年次	学部	対象者数	実施者数	実施率
1	文化(昼)	131	129	98.5%
	文化(夜)	19	19	100.0%
	看護	81	81	100.0%
	社会福祉	71	71	100.0%
	健康栄養	41	41	100.0%
2	文化(昼)	132	125	94.7%
	文化(夜)	29	28	96.6%
	看護	83	82	98.8%
	社会福祉	75	75	100.0%
	健康栄養	42	42	100.0%
3	文化(昼)	121	116	95.9%
	文化(夜)	24	20	83.3%
	看護	83	83	100.0%
	社会福祉	69	69	100.0%
	健康栄養	43	43	100.0%
4	文化(昼)	130	117	90.0%
	文化(夜)	36	27	75.0%
	看護	79	78	98.7%
	社会福祉	81	79	97.5%
	健康栄養	39	39	100.0%
合　計		1,409	1,364	96.8%
前年度		1,417	1,369	96.6%

X　国際交流

1　正規学生（留学生）数の推移

区分	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
大学院	7	5	7	5	3
学部	9	9	12	11	13
計	16	14	19	16	16

2　協定校数の推移

年	2109 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
協定校数	16	15	16	15	16

3　協定校一覧

大学名	国名	締結年月
イーストアングリア大学	イギリス	2023年7月
ゲント大学	ベルギー	2021年10月
慶尙國立大学校	韓国	2021年 6月
開南大學	台湾	2019年11月
弘光科技大學	台湾	2019年 4月
ワシントン大学継続教育部	アメリカ	2018年10月
インドネシア大学	インドネシア	2018年 9月
アンダラス大学	インドネシア	2017年 2月
ウボンラーチャタニ大学	タイ	2016年12月
木浦大學校	韓国	2016年10月
ガジャマダ大学	インドネシア	2013年11月
サバ大学	マレーシア	2012年11月
ヴェネチア　カ・フォスカリ大学	イタリア	2011年12月
文藻外語大學	台湾	2007年 1月
北京聯合大学旅游学院	中国	2006年11月
エルムズカレッジ	アメリカ	1998年10月

4　協定大学への派遣実績

協定大学	2020（令和2）年度			2021（令和3）年度			2022（令和4）年度			2023（令和5）年度		
	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員
エルムズカレッジ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1	1
北京聯合大学旅游学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
文藻外語大學	0	0	0	0	1	0	0	3	0	2	1	1
ヴェネチア　カ・フォスカリ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1
ガジャマダ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
インドネシア大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サバ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
慶尚国立大學校	0	0	0	0	1	0	0	1	0	8	1	2
木浦大學校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
弘光科技大學	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
アンダラス大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウボンラーチャタニ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	2	0	0	4	0	29	3	5

5 協定大学からの受入実績

協定大学	2020(令和2)年度			2021(令和3)年度			2022(令和4)年度			2023(令和5)年度		
	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員
エルムズカレッジ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	2
北京聯合大学旅游学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
文藻外語大學	0	0	0	0	1	0	0	2	0	2	2	0
ヴェネチア　カ・フォスカリ大学	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0
ガジャマダ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
インドネシア大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サバ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
慶尚国立大學校	0	0	0	0	0	0	28	0	2	0	0	0
木浦大學校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0
弘光科技大學	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アンダラス大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	1	0	36	2	2	11	2	2

6 外国人学生に対するプログラム

(1)協定校からの受入

プログラム名	対象大学	受入数(人)
エルムズカレッジ短期研修	エルムズカレッジ	4
冬期日本語・日本文化プログラム	木浦大学校	5
インターシッププログラム	文藻外語大学	2

(2)協定校以外からの受入

事業名	機関	実施期間	受入数(人)
実績なし			

7 海外機関との共同研究・教育事業支援

講義名	主催者	実施日	対象者	参加数(人)
中国、淮北師範大学とのオンライン交流会	淮北師範大学	令和6年3月6日	淮北師範大学の学生	6
			高知県立大学の学生	3

8 外国人留学生を対象とした交流活動

活動名	実施日	参加者
高知県立大学秋のバスハイク 伊尾木洞、田野町完全天日塩製塩体験	令和5年11月19日	留学生8名(イタリア1，韓国1，中国2、台湾4)と本学国際交流クラブ学生9名
土佐山学舎の児童との交流	令和5年12月5日	台湾からのインターシップ生2名
高知北高校の生徒との交流	令和5年12月11日	留学生8名(イタリア1，韓国2，中国1、台湾4)と高知北高校の生徒9名
土佐女子中高等学校との交流	令和6年1月27日	日本語・日本文化研修参加者(木浦大学校学生5名)

XI　開かれた大学

1　公開講座等実施状況

○公開講座等

区分	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者
文化学部	＜国際日本学レクチャーシリーズ第61号＞ 西洋思想の根源をたどる―聖書の創生ものがたりを哲学する―	1	令和5年5月29日	51	学生・教職員・一般
	＜国際日本学レクチャーシリーズ第62号＞ ルワンダの悲劇から学んだこと―命の尊さ、教育と平和の大切さ―	1	令和5年6月23日	60	学生・教職員・一般
	＜国際日本学レクチャーシリーズ第63号＞ アルベール・カミュの文学とアンジェリア	1	令和5年7月28日	37	学生・教職員・一般
	＜国際日本学レクチャーシリーズ第64号＞ ウズベキスタン―その歴史と21世紀の課題	1	令和5年10月27日	34	学生・教職員・一般
	＜国際日本学レクチャーシリーズ第65号＞ タジキスタンの文化・歴史・農業開発―ソ連時代とその後	1	令和5年11月24日	31	学生・教職員・一般
	＜国際日本学レクチャーシリーズ第66号＞ バリ島の布と社会～伝統染織を織ること・使うこと	1	令和5年12月15日	32	学生・教職員・一般
	高校生のための文化学講座 「光源氏と藤原道長」 「講義の中で考える制度の効果と課題」	1	令和5年6月24日	72	高校生
	＜刊行記念シンポジウム＞ 山間から「未来」を考える	1	令和5年7月9日	122	学生・教職員・一般
	翻訳の悦び、注釈の楽しみ－いま改めて、世界文学を読む	1	令和5年11月23日	89	学生・教職員・一般
看護学部	高校生のための看護学を学ぶ公開講座 「看護倫理ってなんだろう～身近な日常にある『倫理』について考えてみよう」	2	令和5年7月29日 午前・午後	80	高校生
	看護学部公開講座「フィジカルアセスメント」	1	令和5年8月19日	15	看護師・教員
	第93回高知市民の大学　金曜日総合コース 「人生100年時代を生きる知慧　未来を支える看護」 （高知市文化振興事業団）	15	令和5年4月7日 令和5年4月14日 令和5年4月21日 令和5年4月28日 令和5年5月12日 令和5年5月19日 令和5年5月26日 令和5年6月2日 令和5年6月9日 令和5年6月16日 令和5年6月23日 令和5年6月30日 令和5年7月7日 令和5年7月14日 令和5年7月21日	51	一般

区分	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者
社会福祉学部	リカバリーカレッジ高知　体験会「元気回復行動プラン（WRAP）」	1	令和5年7月8日	33	学生・教職員・一般
	リカバリーカレッジ高知　秋講座	4	令和5年8月5日 令和5年8月12日 令和5年8月27日 令和5年9月2日	76	学生・教職員・一般
	秋季特別講座「ピアサポーターを学ぶ 経験が力になる」	1	令和5年10月15日	15	学生・教職員・一般
	リカバリーカレッジ高知　冬講座	4	令和5年12月2日 令和5年12月10日 令和5年12月17日 令和5年12月23日	81	学生・教職員・一般
	冬季特別講座　リカバリーカレッジ高知 in 中土佐町	1	令和6年2月18日	8	学生・教職員・一般

○リカレント講座

区分	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者
看護学部	**＜がん看護学領域＞リカレント教育** 第1回「医師の治療方針により患者・家族の移行に添えない看護師の葛藤に関わった事例」 第2回「治療意欲の低い重複がん患者と治療に積極的な家庭への関わりについて」	2	令和5年9月2日 令和5年12月2日	28	専門職者
	＜がん看護学領域＞ケア検討会 第1回「認知症をもつがん患者の症状マネジメント」 第2回「認知症をもつがん患者の希望を把握し、支える看護ケア」	2	令和5年11月3日 令和6年2月10日	57	専門職者
	＜慢性期看護学領域＞ケア検討会・リカレント教育 「脳出血後のADL低下から糖尿病悪化をきたした壮年期女性」	1	令和5年7月14日	11	専門職者
	＜急性期看護学領域＞リカレント教育 第1回「事例検討会」 第2回「事例検討会」 第3回「事例検討会」 第4回「事例検討会」	4	令5年5月20日 令和5年6月17日 令和5年7月15日 令和5年8月19日	20	専門職者
	＜急性期看護学領域＞ケア検討会(看護相談室) 第1回「気管支喘息の重責発作を繰り返す成人期男性の事例について」 第2回「間質性肺炎の急性憎悪の高齢独居男性患者の事例について」	2	令和5年6月13日 令和6年2月13日	23	専門職者
	＜小児看護学領域＞リカレント教育 「大学院在学生・修了生の交流会」	1	令和5年7月23日	12	専門職者
	＜母性・助産看護学領域＞ ケア検討会 「分娩介助場面における学生への指導について」	1	令和5年12月15日	12	専門職者
	＜老人看護学領域＞ケア検討会 第1回「改めて考えよう看・看連携」 第2回「終末期の高齢者の自宅への退院支援における課題」	2	令和5年6月13日 令和5年11月14日	19	修了生・在学生
	＜老人看護学領域＞リカレント教育 「最近の活動状況や課題について」	1	令和5年12月1日	7	大学院生・修了生・地域の看護師
	＜精神看護学領域＞ケア検討会（精神看護専門看護師 実践事例検討会） 第1回「精神科領域における人生最終段階の意思決定支援」 第2回「若年層の自殺企図者への介入と看護師への支援」 第3回「治療方針をめぐる倫理的葛藤への倫理調整」 第4回「CNSとしての役割開拓と実践力を高めていく方法」	4	令和5年6月22日 令和5年9月21日 令和5年12月21日 令和6年3月21日	53	本学大学院生・本学修了生・他大学修了生・教員

区分	内　　容	回数	実施時期	参加数（人）	対象者
看護学部	**＜家族看護学領域＞ リカレント教育** 第1回「ポストコロナの家族看護実践」 第2回「家族ケアの浸透における臨床での課題」 第3回「小児科病棟における母親同士の相互作用の理解とアプローチ法」 第4回「エンドオブライフ期にあるがん患者とその家族の事例」 第5回「臨床における家族看護実践課題共有」 第6回「家族看護実践における記録」 第7回「小児科病棟において対応困難だった家族の事例」 第8回「家族看護実践を豊かにするカンファレンス」	8	令和5年5月19日 令和5年6月16日 令和5年7月14日 令和5年8月18日 令和5年10月20日 令和5年11月17日 令和5年12月15日 令和6年1月19日	65	修了生・大学院在学生・教員
	＜家族看護学領域＞ ケア検討会 「非代償性アルコール性肝硬変・肝不全の患者の家族の在宅移行支援」	1	令和6年2月16日	16	修了生・大学院在学生・教員
	＜在宅看護学領域＞ケア検討会 第1回「がん性疼痛を抱える療養者を地域でどう支えるか」 第2回「終末期を過ごす在宅療養者の倫理的課題」 第3回「がん終末期療養者の生活の場を整える支援を考える」	3	令和5年6月22日 令和5年10月19日 令和6年2月22日	56	専門職者
	＜看護管理学領域＞ リカレント教育 「私と研究」	1	令和6年2月12日	9	専門職者
	＜看護管理学領域＞ ケア検討会 第1回「ジェネラリスト？スペシャリスト？人材育成のベストバランスを探る」 第2回「臨床実習における学生指導の在り方」	2	令和5年6月9日 令和5年10月13日	52	専門職者
	＜地域看護学領域＞ リカレント教育 高知県保健師人材育成研修会	9	令和5年5月12日 令和5年8月17日 令和5年8月21日 令和5年9月1日 令和5年9月11日 令和5年11月10日 令和5年12月22日 令和6年3月5日 令和6年3月8日	190	専門職者
健康栄養学部	オープンキャンパス　健康栄養学部体験授業「栄養学の基礎から実践へ」	2	令和4年7月29日	100	高校生

2 学会役員等の状況

（1） 学会の理事・幹事

学 部	職 名	氏 名	学 会 名	理事・幹事の別
文化学部	教 授	五百藏 高浩	英語コーパス学会	幹事
			四国英語教育学会	理事、紀要編集委員、査読委員
			大学英語教育学会中四国支部	支部企画研究委員、査読委員
			日本英文学会中四国支部	理事
	教 授	井上 次夫	日本語教育学会	審査・運営協力員
	教 授	宇都宮 千穂	社会経済史学会中国四国部会	理事
	教 授	橋尾 直和	流域圏学会	理事、編集・出版委員
			土佐民俗学会	常任理事
			物部庄谷相・拓の歴史と文化を考える会	副会長
			土佐歴史資料研究会	理事
			いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会	理事
			土佐民俗文化研究会	世話人
	教 授	金澤 俊吾	英語コーパス学会	理事
			英語語法文法学会	大会運営委員、編集委員
			近代英語協会	編集委員
			日本英語英文学会	評議員
	教 授	三浦 要一	日本建築学会民家小委員会	主査
			建築史学会編集委員会	委員
	准教授	梶原 太一	日本会計教育学会	理事
			日本会計教育学会	スタディ・グループ委員
	准教授	菊池 直人	総合法政策研究会	会計監査
			日本保険学会	関西部会幹事
	准教授	田中 裕也	日本近代文学会	関西支部運営委員
			昭和文学会	編集委員
	准教授	鳥飼 真人	英語英文学会片平会	事務局長
			日本ロレンス協会	評議員
			テクスト研究学会	編集委員
	准教授	根岸 忠	アジア法学会	理事、企画委員
			日本台湾学会	会計監査
			台湾史研究会	事務局員
			総合法政策研究会	会計監査

学 部	職 名	氏 名	学 会 名	理事・幹事の別
看護学部	教 授	畦地 博子	日本精神保健看護学会	代議員、表彰委員会副委員長、査読委員
			日本看護科学学会	代議員、和文誌専任査読委員
	教 授	池添 志乃	日本養護教諭養成大学協議会	副会長
			日本学校保健学会	理事、編集委員会委員
			日本家族看護学会	評議員
			日本養護教諭教育学会	評議員
			中国・四国学校保健学会	理事
			日本看護科学学会	代議員
			日本看護倫理学会	代議員
	教 授	池田 光徳	日本皮膚科学会	高知地方会幹事
	教 授	内田 雅子	日本慢性看護学会	「慢性看護学の知の発展推進事業」推進メンバー
	教 授	瓜生 浩子	日本看護科学学会	代議員
			日本家族看護学会	評議員、教育促進委員会委員、学会誌専任査読者
	教 授	大川 宣容	日本がん看護学会	代議員
			日本看護科学学会	代議員
			日本看護シミュレーションラーニング学会	理事、編集委員長
			日本医療教授システム学会	編集委員
	教 授	木下 真里	日本国際保健医療学会	西日本地方会世話人、第42回日本国際保健医療学会西日本地方会会長
			日本災害医学会	国際委員
			日本公衆衛生学会	認定専門家、モニタリング・レポート委員会（健康危機管理）メンバー
	教 授	久保田 聰美	日本看護管理学会	専任査読委員
			日本禁煙学会	特任理事、資格制度委員会委員
			日本クリニカルパス学会	評議員、学術・出版委員
			日本看護科学学会	代議員
	教 授	田井 雅子	日本精神保健看護学会	代議員、編集委員会委員、学術連携委員会副委員長
	教 授	竹﨑 久美子	日本老年看護学会	認定看護師活動推進委員会委員
			日本災害看護学会	第24回年次大会大会長
	教 授	長戸 和子	日本家族看護学会	理事、査読委員
	教 授	藤田 佐和	日本がん看護学会	専任査読委員
			日本緩和医療学会	代議員 中国・四国支部運営委員会委員
			日本慢性看護学会	代議員 学術集会演題査読委員
			日本看護科学学会	代議員 看護学学術用語検討会委員 学術集会演題査読委員
			日本看護倫理学会	評議員 学術学会演題査読委員

学 部	職 名	氏 名	学 会 名	理事・幹事の別
看護学部	教 授	渡邊 聡子	日本災害看護学会	代議員、編集委員会委員長、学会誌査読委員、COIマネジメント委員会委員
	特任教授	森下 安子	日本看護科学学会	代議員
			日本在宅看護学会	代議員、査読委員
			日本在宅ケア学会	広報委員会委員、査読委員
	准教授	内川 洋子	日本看護管理学会	評議員、査読委員
			日本看護研究学会	中国・四国地方会 運営委員、学術委員会委員
			日本看護学会	「看護管理」論文選考委員
	准教授	川上 理子	日本在宅ケア学会	代議員
	准教授	佐東 美緒	日本小児看護学会	査読委員
			日本看護シミュレーションラーニング学会	学会誌編集委員
	准教授	嶋岡 暢希	高知県母性衛生学会	理事
			日本助産学会	査読委員
			日本看護シミュレーションラーニング学会	査読委員
			日本災害看護学会	編集委員
	准教授	高谷 恭子	日本小児看護学会	学会誌専任査読員
			日本看護学会	学会誌査読委員
	准教授	立木 隆広	日本衛生学会	代議員
	准教授	藤代 知美	日本精神保健看護学会	査読委員、災害対策委員
	講 師	有田 直子	日本小児看護学会	評議員、編集委員会委員、選考委員
	講 師	小原 弘子	日本看護シミュレーションラーニング学会	研修企画委員、専任査読委員
	助 教	池内 香	日本精神科看護協会	査読委員
	助 教	田之頭 恵里	日本小児看護学会	査読委員
社会福祉学部	教 授	杉原 俊二	KJ法学会	運営委員
			日本社会福祉学会	中国四国地域ブロック運営委員副委員長編集委員
			日本人間科学研究会	常務理事・機関誌編集委員長
	教 授	長澤 紀美子	日本社会福祉学会	学会誌査読委員
			日本地域福祉学会	学会誌査読委員
			日本介護経営学会	学会誌査読者
	教 授	西内 章	日本地域福祉学会	地方委員
	准教授	西梅 幸治	日本学校ソーシャルワーク学会	中国四国ブロック運営委員
			日本学校ソーシャルワーク学会	第17 回全国大会実行委員
	准教授	矢吹 知之	日本認知症ケア学会	理事（学会誌編集委員長）
			日本高齢者虐待防止学会	理事
			日本老年社会科学会	評議員

学 部	職 名	氏 名	学 会 名	理事・幹事の別
社会福祉学部	講 師	辻 真美	日本認知症ケア学会	査読委員
			日本介護福祉学会	評議員・査読委員
	助 教	福田 敏秀	日本認知症予防学会	代議員
			日本認知症ケア学会	代議員
健康栄養学部	教 授	村上 尚	日本肥満学会	評議員
	教 授	近藤 美樹	日本栄養・食糧学会	代議員
			日本栄養改善学会	評議員
			日本フードファクター学会	評議員
	教 授	渡邊 浩幸	日本食品保蔵科学会	HACCP専任講師
			日本食品保蔵科学会	HACCP委員会委員
			日本栄養・食糧学会	代議員
	准教授	島田 郁子	日本家政学会中国・四国支部	常任幹事・機関幹事
	准教授	鈴木 麻希子	日本栄養・食糧学会	参与
	准教授	竹井 悠一郎	日本栄養改善学会	評議員
			日本栄養・食糧学会	参与
	助 教	隅田 有公子	日本食育学術会議	理事
	助 教	竹本 和仁	日本食品保蔵科学会	HACCP専任講師
			日本栄養・食糧学会	参与
地域教育研究センター	教 授	石山 貴章	日本職業リハビリテーション学会	理事
	教 授	清原 泰治	日本スポーツ産業学会	スポーツ産業史専門分科会運営委員

（2） 教員が受託した審議会・委員会の委員等

学部	職　名	氏　名	審議会・委員会名等	発　令　者
文化学部	教　授	飯髙　伸五	高知県史編さん委員会民俗部会委員	高知県知事
			国立民族学博物館共同研究員	国立民族学博物館長
	教　授	五百藏　高浩	れんけいこうち広域都市圏ビジョン推進懇談会委員	高知市長
			県立高等学校の在り方検討委員会委員	高知県教育長
			高知工科大学研究公正委員会　委員	高知工科大学　学長
			高知県立安芸中・高等学校学校運営協議会　会長	高知県教育長
			マイプロジェクト発表会審査委員会委員	高知県立嶺北高等学校長
	教　授	岩倉　秀樹	高知県公文書開示審査会委員	高知県知事
			こうち人づくり広域連合情報公開・個人保護審査会委員	こうち人づくり広域連会長
			高知弁護士会綱紀委員会委員	高知弁護士会会長
	教　授	宇都宮　千穂	高知県史編さん現代部会委員	高知県文化生活スポーツ部長
			高知市公文書管理委員会委員	高知市長
			高知県公衆浴場入浴料金審議会委員	高知県健康政策部長
			高知市立自由民権記念館協議会委員	高知市総務部民権・文化財課　課長
			高知市都市計画審議会委員	高知市長
			高知市住宅審議会委員	高知市長
			高知市建築審査会委員	高知市長
			須崎市図書館等複合施設整備事業プロポーザル審査委員	須崎市長
			高知市立自由民権記念館指定管理者審査委員会委員	高知市長
			第12期高知地方労働審議会臨時委員	高知労働局長
			令和6年度アニメ制作体験等実施委託業務に係る公募型プロポーザル審査委員	高知県産業振興推進部 産学官民連携課
	教　授	大井　方子	労働政策審議会障害者雇用分科会委員	厚生労働大臣
			高知地方最低賃金審議会委員	高知労働局長
			高知県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構高知支部 高知職業能力開発促進センター所長
			高知県職業能力開発審議会委員	高知県知事
			高知県地域職業能力開発促進協議会委員	高知労働局長
			高知県立都市公園等指定管理者審査委員会委員	高知県知事
	教　授	大村　　誠	スーパーサイエンスハイスクール岡山県立津山高等学校　運営指導委員会委員	岡山県教育委員会教育長
			令和5年度高知県学校防災アドバイザー	高知県教育長
			寺田寅彦記念賞選考委員	高知県文教協会理事長
	教　授	高西　成介	大原富枝文学賞審査員	本山町立大原富枝文学館館長
			高知県出版文化賞選考委員	高知県文教協会理事長
	教　授	橋尾　直和	高知県史編さん専門部会（民俗部会）委員	高知県知事
			高知市文化財保護審議会委員	高知市教育長
	教　授	三浦　要一	高知県史編さん編集委員会委員	高知県知事
			高知県史編さん文化財専門部会副会長	高知県知事
			高知県文化賞選定委員	高知県知事

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
文化学部	教　授	三浦　要一	高知県文化財保護審議会第1部会長	高知県知事
			高知県文化財専門委員	高知県知事
			札所詳細調査検討委員会委員長	高知県文化生活スポーツ部長
			史跡高知城跡整備計画推進委員会委員	高知県文化生活スポーツ部長
			高知市文化財保護審議会副会長	高知市長
			高知出版学術賞審査委員	高知市文化振興事業団理事長
			重要文化財木村家住宅修理委員会委員長	三好市長
			史跡高松城跡整備会議委員	高松市教育委員会
	教　授	ヨース・ジョエル	高知市出版学術賞選考委員	高知市長
	准教授	梶原　太一	高知県社会貢献活動支援推進会議委員	高知県知事
			高知県社会貢献活動支援推進会議公募委員選考委員会委員	高知県知事
			高知市中小企業・小規模企業振興審議会委員	高知市長
			高知県ボランティア・NPOセンター運営委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
	准教授	菊池　直人	高知県公立大学生活協同組合副理事長	高知県公立大学生活協同組合
			こうち生活協同組合有識者理事	こうち生活協同組合
			高知県LPガスお客様相談所相談委員会議委員	高知県LPガス協会　会長
			高知県消費生活審議会委員	高知県知事
			高知市消費生活審議会委員	高知市
			高知県公文書管理委員会委員	高知県知事
			高知県公文書開示審査会委員	高知県知事
			香美市情報公開審査会委員	香美市長
	准教授	根岸　　忠	高知地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員	高知地方裁判所長
			高知県旅券窓口委託業務公募型プロポーザル審査委員会委員	高知県知事

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
看護学部	教　授	畦地　博子	教育認定委員、学術集会査読委員	日本精神科看護協会会長
			徳島大学医学雑誌学外編集委員	徳島大学学長
			社会福祉法人ファミーユ　評議員	社会福祉法人ファミーユ　理事長
			海辺の杜ホスピタル　院外倫理委員	海辺の杜ホスピタル　院長
			日本精神科看護協会教育認定委員	日本精神科看護協会会長
	教　授	池添　志乃	高知県スクールヘルスリーダー連絡協議会委員	高知県教育委員会事務局 保健体育課長
			保健師助産師看護師実習指導者講習検討会委員	高知県看護協会会長
			こうちの子ども健康・体力支援委員会委員	高知県教育長
			高知県衛生環境研究倫理審査委員会委員	高知県衛生環境研究所所長
			十津小学校　学校運営協議会委員	高知市教育長
			高知県衛生環境研究所倫理審査委員会	高知県衛生環境研究所長
	教　授	池田　光徳	高知県健康づくり推進協議会委員	高知県健康政策部長
			中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム臨床治験推進委員会委員、ファカルティ・ディベロプメント委員会委員	中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム代表
			相模女子大学・相模女子大学短期大学部ヒトを対象とする研究に関する倫理審査委員会外部委員	相模女子大学 相模女子大学短期大学部　学長
			高知県地方薬事審議会委員	高知県健康政策部　薬務衛生課

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
看護学部	教　授	内田　雅子	高知県糖尿病医療体制検討会議委員	高知県健康政策部長
	教　授	瓜生　浩子	日本看護学教育評価機構　評価員	日本看護学教育評価機構　代表理事
			高次脳機能障害リハビリテーション講習会2023高知実行委員	高次脳機能障害リハビリテーション講習会2023高知　実行委員長
	教　授	大川　宣容	一般財団法人日本看護学教育評価機構理事、評価委員会委員	一般財団法人日本看護学教育評価機構代表理事
	教　授	木下　真里	南海トラフ地震対策啓発推進事業委託業務プロポーザル審査委員会委員長	高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課長
			高知県南海トラフ地震対策広報番組制作委託業務プロポーザル審査委員会審査委員	高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課長
			高知市水防協議会委員	高知市長
			高知県南海トラフ地震高知市長期浸水対策連絡会議アドバイザー	高知県知事
			日米教育委員会フルブライトプログラム選考委員	日米教育委員会共同名誉議長
			南海トラフ地震対策啓発動画作成委託業務プロポーザル審査委員会委員長	高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課長
			高知市防災会議委員、高知市防災会議幹事会幹事	高知市長
	教　授	久保田　聰美	高知県健康づくり推進協議会たばこ対策専門部会委員	高知県健康政策部　保健政策課長
			公益社団法人　日本医療機能評価機構　評価調査者（看護サーベイヤー）	公益財団法人　日本医療機能評価機構代表理事
			全日本病院協会　機能評価受審支援相談事業　アドバイザー	全日本病院協会 病院機能評価委員会委員長
	教　授	竹﨑　久美子	災害看護委員会委員	高知県看護協会会長
			新人看護職員研修検討会委員新人看護職員研修事業運営委員会委員長	高知県看護協会会長
	教　授	長戸　和子	日本看護系大学協議会 高度実践看護師教育課程認定委員会 家族看護専門分科会委員	一般社団法人日本看護系大学協議会 高度実践看護師教育課程認定委員会 委員長
			高知県の看護を考える検討委員会委員	高知県健康政策部　医療政策課長
	教　授	藤田　佐和	日本看護系大学協議会 理事、APNグランドデザイン委員会副委員長、専門看護師教育課程認定委員会分科会副委員長	日本看護系大学協議会代表理事
			独立行政法人大学改革支援・学位授与機構大学機関別認証評価委員会専門委員	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長
			高知県後期高齢者医療懇話会委員	高知県後期高齢者医療広域連合長
			令和5年度高知県ナースセンター運営協議会委員	高知県看護協会会長
			高知県ヘルスケアイノベーション推進協議会委員	高知県知事
			高知県がん教育推進協議会委員	高知県知事
			高知医療センター地域医療支援病院運営委員会委員、治験審査委員会委員	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター　病院長
			高知がん診療連携協議会委員	高知大学学長
	教　授	渡邊　聡子	高知県性教育推進協議会委員	高知県知事
			高知県災害時周産期リエゾン	高知県知事
			高知県周産期医療関係者研修事業役員	高知県知事
	特任教授	森下　安子	令和5年度高知県看護協会第1副会長	高知県看護協会会長
			高知県教育委員	高知県知事
			高知県高齢者保健福祉推進委員会委員	高知県知事
			高知県介護支援専門員研修等向上委員会会長	高知県知事
			高知市地域高齢者支援センター運営協議会委員	高知市長

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
看護学部	特任教授	森下　安子	高知市地域密着型サービス運営委員会委員	高知市長
			高知市在宅医療・介護推進委員会委員長	高知市長
			いの町地域包括支援センター運営協議会委員	いの町長
			いの町地域密着型サービス運営委員会委員	いの町長
			日高村地域包括支援センター運営協議会委員長	日高村村長
			日高村地域密着型サービス運営委員会委員	日高村村長
			日高村障害程度区分認定審査委員	日高村村長
			日高村高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画策定委員会会長	日高村村長
			日高村第7期障害福祉計画、第3期障害児福祉計画策定員会　会長	日高村村長
	准教授	内川　洋子	認定看護管理者教育運営委員会委員	高知県看護協会会長
			日本看護学会誌論文査読者・ 高知県看護教育研究会委員	日本看護協会会長
			高知県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員	高知県国民健康保険団体連合会理事長
	准教授	小澤　若菜	土佐市災害時要配慮者支援体制連絡協議会委員	土佐市長
			国民健康保険団体連合会保健事業支援評価委員	国民健康保険団体連合会理事長
			高知市地域保健推進協議会委員	高知市長
			高知市地域密着型サービスの運営に関する委員会委員	高知市長
			高知県人材育成ガイドライン評価検討会委員	高知県
	准教授	川上　理子	介護ロボットプラットホーム事業　ニーズ/シースズマッチング支援事業マッチングサポーター	厚生労働省委託事業　NTTデータ経営研究所
	准教授	嶋岡　暢希	令和5年度助産師職能理事、助産師職能委員会委員長、地域包括ケア検討委員会委員、3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	高知県看護協会会長
			高知県周産期医療協議会委員、高知県助産師出向支援協議会委員	高知県健康政策部長
	准教授	小林　秀行	「経済社会の変化と労働者の生活、健康、ウェルビーイングに関する研究会」委員	独立行政法人　労働政策研究・研修機構理事長
	准教授	髙谷　恭子	高知県小児救急電話相談事業運営協議会委員	高知県看護協会会長
	准教授	藤代　知美	特定非営利活動法人　精神保健ボランティア　ハート・とくしま　理事	精神保健ボランティア　ハート・とくしま理事長
	准教授	森下　幸子	高知県訪問看護推進協議会委員長	高知県健康政策部 在宅療養推進課長
			高知県人生の最終段階における医療・ケア検討会議委員	高知県健康政策部 在宅療養推進課長
			訪問看護ステーション運営委員会委員	高知県看護協会長
			社会福祉法人ファミーユ高知　評議員	社会福祉法人ファミーユ高知理事長
			高知県訪問看護連絡協議会アドバイザー	高知県訪問看護連絡協議会会長
			高知県訪問看護相談支援センター 監事	高知県訪問介護連絡協議会会長
			中芸広域連合 中芸de生きたいを応援する会 アドバイザー	中芸域連合 中芸de生きたいを応援する会会長
	講　師	有田　直子	高知市医療的ケア児および重度の障害のある子どもの支援検討会委員	高知市長
	講　師	岩﨑　順子	令和5年度看護研究倫理審査委員会委員	高知県看護協会会長
	講　師	川本　美香	令和5年度保健師職能委員会委員	高知県看護協会会長

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
看護学部	講　師	小原　弘子	倫理委員会委員	社会医療法人　近森会　理事長
			日本看護シミュレーションラーニング学会 研修企画委員会委員	一般社団法人日本看護シミュレーションラーニング学会　理事長
	助　教	髙橋　真紀子	令和5年度研究学会委員会委員	高知県看護協会会長
	助　教	徳岡　麻由	令和5年度3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	高知県看護協会会長

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
社会福祉学部	教　授	杉原　俊二	令和5年度スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー	高知県教育長
			高知県児童福祉審議会委員	高知県子ども・福祉政策部　子ども家庭課長
	教　授	田中　きよむ	厚生労働省　老人保健健康増進等事業 「中山間地域において災害時でも安心して住み続けられる地域づくり政策に関する調査研究事業」調査研究委員会委員長	三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社代表取締役
			高知県地域年金事業運営調整会議委員長	日本年金機構四国ブロック本部管理部長
			高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員	高知弁護士会会長
			高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長	高知市長
			高知市福祉有償運送運営協議会委員	高知市長
			高知市国民健康保険運営協議会委員	高知市長
			高知県運営適正化委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知市生活支援相談センター運営委員会委員長	高知市社会福祉協議会会長
	教　授	長澤　紀美子	高知県福祉活動支援基金運営委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知市人権尊重のまちづくり審議会委員	高知市長
			高知県困難な問題を抱える女性及びDV被害者への支援協議会委員	高知県知事
			高知地方労働審議会委員・高知労働局「求職開拓事業」に係る提案書技術審査委員会（委員長）	高知労働局長
			高知地方労働審議会	高知労働局長
			高知県人権尊重の社会づくり協議会委員	高知県知事
			高知県社会福祉審議会委員（副委員長）	高知県知事
			高知県社会福祉審議会委員	高知県社会福祉協議会会長
	教　授	西内　　章	高知市成年後見サポートセンター運営委員会委員	高知市社会福祉協議会会長
			これからあんしんサポート事業審査会委員	高知市社会福祉協議会会長
			高知県行政不服審査会委員	高知県知事
			令和5年度スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー	高知県教育長
			高知市高齢者及び障害者虐待予防ネットワーク会議委員	高知市長
			高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会委員	高知県社会福祉協議会会長
			津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員	津野町長
			津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員	津野町長
			津野町成年後見制度利用促進協議会委員	津野町長
			日常生活自立支援事業契約締結審査会委員	高知県社会福祉協議会

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
社会福祉学部	教　授	西内　　章	高知県地域福祉活動支援計画推進委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知県教育振興基本計画推進会議委員	高知県教育長
			高知市成年後見制度利用促進審議会委員	高知市長
	准教授	遠山　真世	高知県障害者介護給付費等不服審査会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			社会福祉法人　土佐あけぼの会　評議員	土佐あけぼの会　理事長
	准教授	西梅　幸治	令和5年度スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー	高知県教育長
			高知市不登校対策専門家支援チーム委員	高知市教育研究所所長
			令和5年度地域共生社会フェスタ開催等委託業務公募型プロポーザル審査委員	高知県子ども・福祉政策部 地域福祉政策課課長
			高知県不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会委員	高知県教育長
			高知県福祉教育・ボランティア学習推進委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知県介護支援専門員法定研修検討ワーキンググループ委員	高知県子ども・福祉政策部 長寿社会課長
	准教授	矢吹　知之	特別研究員等審査会委員	日本学術振興会理事長
			認知症介護研究・研修仙台センター特任研究員	社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター センター長
			令和5年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「認知症施策のあり方に関する調査研究事業」における「普及啓発やバリアフリーに関する論点を検討するワーキンググループ」委員	株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 執行委員本部長
			共生社会の実現を推進するための認知症基本法のわかりやすい解説冊子作成及び自治体への周知に関する広報事業一式に係る提案書審査委員会委員	厚生労働省老健局長
	講　師	加藤　由衣	高知県子どもの環境づくり推進委員会委員	高知県知事
			令和5年度スクールソーシャルワーカー活用事業におけるチーフスクールソーシャルワーカー	高知県教育長
			高知県社会福祉士会理事	高知県社会福祉士会会長
	講　師	田中　眞希	介護福祉士実習指導者講習会　研修企画委員会委員	高知県介護福祉会会長
			令和6年度介護助手導入支援に係る情報共有会議アドバイザー	高知県社会福祉協議会会長
	講　師	辻　　真美	高知市斎場運営協議会委員	高知市長
			高知県公立学校ハラスメント等第三者委員会委員	高知県教育長
			高知県介護福祉士会 倫理委員会委員	高知県介護福祉士会会長
	講　師	行貞　伸二	高知県共同募金会評議員	社会福祉法人高知県共同募金会会長
			高知県共同募金会配分委員会委員	社会福祉法人高知県共同募金会会長
			高知県営住宅入居者選考基準等審査委員会委員	高知県知事
			高知市民生委員推薦会委員	高知市長
			高知市行政改革推進委員会委員	高知市長
	助　教	玉利　麻紀	高知県精神医療審査会　委員	高知県知事
			県立野市総合公園再整備方針検討委員会　委員	高知県土木部公園下水道課長
			高知県精神保健福祉士協会　研修委員	高知県精神保健福祉士会会長
			高知県精神保健福祉協会　研修委員	高知県精神保健福祉協会会長
			介護労働安定センター高知支部　ヘルスカウンセラー	介護労働安定センター高知支部長
	助　教	福田　敏秀	介護労働安定センター高知支部（ヘルスカウンセラー、介護人材育成コンサルタント）	介護労働安定センター支部所長
			高知県公立大学生活協同組合理事	高知県公立大学生活協同組合

学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
社会福祉学部	助　教	福田　敏秀	高知県福祉人材センター・高知県福祉研修センター運営委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			介護助手普及啓発テレビCM作成等委託業務公募型プロポーザル審査委員会審査委員	高知県社会福祉協議会会長
			令和5年度介護助手導入支援に係る情報共有会議アドバイザー	高知県社会福祉協議会会長
			健康確保支援事業ヘルスカウンセラー	介護労働安定センター徳島支部長
			高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員長	高知市長
	助　教	上杉　麻理	高知県若い世代の福祉・介護人材確保・育成検討会委員	高知県知事
学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
健康栄養学部	教　授	近藤　美樹	高知県食育連携推進協議会委員	高知県健康政策部長
			高知県食の安全・安心推進審議会委員	高知県健康政策部長
	教　授	渡邊　浩幸	高知県産業振興推進総合支援事業審査アドバイザー	高知県知事
			こうち産業振興基金等事業審査会審査員	高知県知事
			高知県新事業チャレンジ支援事業費補助金審査会審査員	公益財団法人高知県産業振興センター理事長
			越知町まち・ひと・しごと創生推進会議（委員）	越知町長
			高知県農林業基本対策審議会特別委員	高知県知事
			安芸市立学校給食センター運営委員会アドバイザー	安芸市長
	准教授	島田　郁子	土佐市立学校給食センター運営審議会委員	土佐市教育長
			安芸市立学校給食センター運営委員会の委員	安芸市教育長
			高知市学校給食調理等業務プロポーザル選定委員会委員	高知市教育長
	准教授	竹井　悠一郎	高知県アルコール健康障害・依存症対策推進協議会委員	高知県子ども・福祉政策部長
	助　教	隅田　有公子	高知県公立大学生活協同組合理事	高知県公立大学生活協同組合　理事長
	助　手	彼末　富貴	高知市春野郷土資料館運営審議会委員	高知市長
			高知市文化振興審議会委員	高知市長
			高知市観光振興計画推進委員会委員	高知市長
			令和5年度 農林水産省 訪日外国人対応による輸出促進連携支援事業のうち日本の食文化の多角的な価値の整理・情報発信委託事業における地域検討委員会委員長	株式会社ぐるなび
学部	職　名	氏　　名	審議会・委員会名等	発　令　者
地域教育研究センター	教　授	石山　貴章	高知県障害者教育支援委員会委員	高知県教育長
	教　授	清原　泰治	高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員	高知市長
			高知県立高知城歴史博物館運営協議会委員	公益財団法人土佐山内記念財団
			高知放送番組審議会委員長	高知放送代表取締役社長
			令和5年度スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員	高知県教育長
			高知県中山間地域再興ビジョン検討委員会委員	高知県知事
	講　師	秋谷　公博	スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員	高知県教育長
			高知県市町村図書館等振興協議会委員	高知県教育長
			佐川町総合計画審議会委員	佐川町長
			高知県おもてなし県民会議委員	高知県知事
			土佐市創生有識者会議委員	土佐市長

（3） 他大学等非常勤講師応諾

学部	職　名	氏　名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
文化学部	教　授	飯髙　伸五	近森病院附属看護学校	基礎分野「生活と分野」（1年生前期）	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	教　授	井上　次夫	高知大学	中等国語科指導法3	令和5年4月1日～令和6年2月29日
				中等国語科指導法2	
			放送大学（面接授業）	ことばと意味	令和5年10月1日～令和6年3月31日
	教　授	岩倉　秀樹	高知工科大学	日本国憲法	令和5年4月1日～令和5年9月30日
	教　授	宇都宮　千穂	放送大学（面接授業）	地域経済と経済政策	令和5年4月22日～令和5年4月23日
			高知大学	日本経済史	令和5年9月1日～令和5年9月30日
	教　授	高西　成介	高知大学	中国文学概論Ⅱ	令和5年4月1日～令和6年2月29日
				中国古典文学論基礎論	
			鳴門教育大学	語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）	令和5年4月10日～令和6年3月31日
	教　授	ヨース・ジョエル	愛知県立大学	外国史各論	令和5年4月1日～令和5年9月30日
	准教授	梶原　太一	高知工科大学	NPO論	令和5年4月1日～令和5年9月30日
	准教授	菊池　直人	高知工科大学	法律学	令和5年4月1日～令和5年9月30日
			高知工業高等専門学校	法学	令和5年4月6日～令和5年9月24日
	准教授	清水　直樹	高知大学	政治学概論	令和5年4月1日～令和5年9月30日
	准教授	田中　裕也	放送大学	学習センターの運営に関する助言・協力	令和5年4月1日～令和6年3月31日
看護学部	教　授	畦地　博子	愛媛県立医療技術大学	精神看護学特論Ⅱ	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	教　授	池添　志乃	高知学園大学	家庭看護学	令和5年10月1日～令和6年3月31日
	教　授	池田　光徳	高知県立幡多けんみん病院	診療応援	令和5年4月1日～令和6年3月31日
			高知大学	皮膚科学	令和5年10月1日～令和6年3月31日
			三愛病院	皮膚科治療及び治療の教授	令和5年4月1日～令和6年3月31日
			高知学園短期大学	治療援助学Ⅰ	令和5年10月1日～令和6年3月31日
	教　授	瓜生　浩子	関西医科大学	家族看護学	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	教　授	大川　宣容	川崎医療福祉大学	クリティカルケア看護学特論	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	教　授	久保田　聰美	京都大学大学院医学研究科	看護管理・政策論	令和5年4月1日～令和5年9月30日
			愛媛県立医療技術大学	看護管理学特論	令和5年4月1日～令和6年3月31日
			四国大学	看護管理学特論	令和5年4月3日～令和5年9月23日
			高知大学	医療安全学	令和5年10月1日～令和6年1月31日
	教　授	竹﨑　久美子	九州大学	看護研究方法論Ⅱ	令和5年4月1日～令和5年9月30日
			高知リハビリテーション専門職大学	生命倫理	令和5年4月1日～令和5年9月15日
			高知学園短期大学	災害看護学	令和5年10月1日～令和6年3月31日
	教　授	渡邊　聡子	高知リハビリテーション専門職大学	生命倫理	令和5年4月1日～令和5年9月15日
			兵庫県立大学	災害看護対象論	令和5年4月1日～令和5年9月30日
	准教授	小澤　若菜	高知大学	地域援助論	令和5年4月11日～令和5年8月31日
	准教授	川上　理子	高知リハビリテーション専門職大学	地域包括ケア論	令和5年4月1日～令和5年9月15日
	准教授	森下　幸子	高知リハビリテーション専門職大学	地域包括ケア論	令和5年4月1日～令和5年9月15日
			高知病院附属看護学校	地域で暮らす人々を支える看護	令和5年10月1日～令和6年3月31日
	講　師	有田　直子	徳島文理大学	コンサルテーション論	令和5年12月10日、令和5年12月17日、令和6年1月21日
	講　師	川本　美香	高知大学	地域援助論	令和5年4月11日～令和5年8月31日
	特任講師	豊田　邦江	徳島文理大学	コンサルテーション論	令和5年12月10日、令和5年12月17日、令和6年1月21日
	特任助教	加藤　昭尚	高知開成専門学校	研究・論文の技法	令和5年10月19日～11月30日

学部	職　名	氏　名	依頼大学等	科目名等	委嘱期間
看護学部	特任助教	山本　かよ	高知学園短期大学	在宅看護援助論	令和5年10月1日～令和6年3月31日
	助　教	源田　美香	高知学園短期大学	在宅看護学概論、 家族看護学	令和5年4月1日～令和5年9月30日（前期） 令和5年10月1日～令和6年3月31日（後期）
	助　教	塩見　理香	龍馬看護ふくし専門学校	精神看護方法論Ⅱ	令和5年4月1日～令和6年2月20日
	助　教	竹中　英利子	高知学園短期大学	在宅看護学概論、 在宅看護援助論	令和5年4月1日～令和5年9月30日（前期） 令和5年10月1日～令和6年3月31日（後期）
	助　教	徳岡　麻由	高知学園短期大学	家族看護学	令和5年10月1日～令和6年3月31日
	助　教	森本　紗磨美	龍馬看護ふくし専門学校	診療補助技術Ⅰ、臨床判断、看護技術の実際	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	特任助手	横川　奈知	高知学園短期大学	在宅看護援助論	令和5年10月1日～令和6年3月31日
社会福祉学部	教　授	杉原　俊二	九州保健福祉大学	社会福祉学特殊講義Ⅷ （児童・家族福祉論）	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	教　授	田中　きよむ	高知大学	社会保障論	令和5年4月11日～令和5年9月30日
			龍馬看護ふくし専門学校	社会保障	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	教　授	西内　　章	高知リハビリテーション専門職大学	対人援助技術論	令和5年4月1日～令和5年9月15日
	教　授	横井　輝夫	吉備国際大学	運動発達学、障がい児理学療法学	令和5年10月1日～令和6年3月31日
	准教授	遠山　真世	高知リハビリテーション専門職大学	障害者の社会環境と制度	令和5年4月1日～令和5年9月15日
	准教授	西梅　幸治	高知リハビリテーション専門職大学	対人援助技術論	令和5年4月1日～令和5年9月15日
			四国中央医療福祉総合学院	「地域福祉と包括的支援体制」のレポート課題設定及びレポート添削	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	准教授	福間　隆康	高知福祉専門学校	福祉サービスの組織と経営	令和5年10月1日～令和6年3月31日
	講　師	加藤　由衣	高知福祉専門学校	社会調査の基礎	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	講　師	辻　　真美	高知大学	介護等体験	令和5年4月1日～令和5年4月30日
	講　師	行貞　伸二	高知学園短期大学	看護と福祉	令和5年4月1日～令和5年9月30日
	助　教	稲垣　佳代	土佐リハビリテーションカレッジ	社会福祉学概論	令和5年10月1日～令和6年3月31日
			高知医療学院	社会福祉学	令和5年9月1日～令和5年9月30日
	助　教	大熊　絵理菜	高知福祉専門学校	ソーシャルワークの理論と方法	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	助　教	福田　敏秀	龍馬看護ふくし専門学校	社会福祉の原理と政策	令和5年10月1日～令和6年2月28日
			高知大学	健康福祉行政論	令和5年4月11日～令和5年9月30日
健康栄養学部	教　授	小林　　淳	電気通信大学	基礎科学実験B	令和5年4月1日～令和5年9月30日
	准教授	島田　郁子	愛媛大学	子どもの食と栄養	令和5年4月10日～令和5年9月23日
			高知大学	食物学概論	令和5年10月1日～令和6年2月29日
			高知学園大学	災害と生活	令和5年10月1日～令和6年3月31日
	准教授	鈴木　麻希子	高知大学	食生活論	令和5年9月1日～令和5年9月30日
	助　教	小山　智久	RKC調理製菓専門学校	衛生法規	令和5年4月～令和6年3月
	助　教	竹本　和仁	RKC調理製菓専門学校	食生活と健康	令和5年4月～令和6年3月
	助　教	生川　卓弘	高知情報ビジネス＆フード専門学校	栄養学	令和5年4月12日～令和6年2月2日
	助　手	彼末　富貴	高知学園大学	調理学実習Ⅰ（基礎）、 調理学実習Ⅱ（応用）	令和5年4月1日～令和6年3月31日
地域教育研究センター	教　授	石山　貴章	名古屋商科大学	特別支援教育論	令和5年4月1日～令和5年9月30日
			高知リハビリテーション専門職大学	特別支援教育論	令和5年4月1日～令和5年9月15日
			高知工科大学	特別支援教育概論	令和5年10月1日～令和6年3月31日
			環太平洋大学	教育相談（初等）（中等）	令和5年4月1日～令和6年3月31日
			就実学園就実大学	障害児就労支援学概論	令和5年9月21日～令和6年3月31日
	教　授	清原　泰治	高知大学	スポーツ科学実技	令和5年4月1日～令和6年2月29日

３ 学外提供用刊行物作成状況

担当部署	名　　称
文化学部	高知県立大学文化学部　思索と実践（改訂版）
	高知県立大学　文化論叢
	文化の力　Vol. 08
	高知県立大学　文化学部　活動記録
	文化学課題研究ゼミナール　概要集
	Humanismus 第35号
看護学部	高知県立大学看護学部・看護学研究科活動報告書
	高知県立大学看護学部・看護学研究科年報
	高知県立大学看護学部看護実習要項
	看護学部パンフレット（受験生向けPR誌）
	看護学部ニュースレター学生生活通信『fure-fure』　第25号・第26号
	高知県立大学看護学研究科　リモートで実現できる学び。
社会福祉学部	福祉で未来を探求！高校生のためのWeb EVENT（リーフレット）　7月・8月・10月・2月
	高知県立大学 社会福祉学部(学部パンフレット)
	実習のてびき ―ソーシャルワーク実習―
	実習のてびき ―精神・社会福祉コース編―
	実習のてびき ―介護福祉実習―
	社会福祉実習報告書(ソーシャルワーク実習・精神保健福祉援助実習)
	介護福祉実習報告集
	高知県立大学 社会福祉学部報
健康栄養学部	健康栄養学部　学部報
総合情報センター	総合情報センター年報　令和4年度
	高知県立大学紀要　第73巻
地域教育研究センター	高知県立大学地域教育研究センター報　2022　第11号
	立志社中プロジェクト2023リーフレット
	立志社中 令和4年度活動報告書
	域学共生事業パンフレット
健康長寿センター	高知県立大学健康長寿センター活動報告書
	高知県中山間地域等訪問看護師育成講座募集要項
	訪問看護スタートアップ研修　新卒パンフレット
	訪問看護スタートアップ研修　リーフレット
	訪問看護スタートアップ研修　I・Uターンリーフレット
	訪問看護スタートアップ研修　病院・施設で働く看護師向けリーフレット
	入退院支援モニタリングシート活用マニュアルver.1
	血管病調整看護師活動手順書

担当部署	名　　称
健康長寿センター	健康長寿センターYouTube公開
	新卒訪問看護師交流会 in Kochi　新卒訪問看護師7年目「～歩んできたキャリアを振り返って～」
	新卒訪問看護師交流会 in Kochi　新卒訪問看護師6年目「新卒～5年目までの振り返り」
	新卒訪問看護師交流会 in Kochi　新卒訪問看護師2年目「訪問看護師1年目を振り返って～私の訪問看護～」
	おうちで健康長寿体験型セミナー認知症予防に効果的な食事のとり方
	【腎臓病の方必見！】管理栄養士さんと考える正しい果物の摂り方
健康管理センター	ヘルスパスポート（健康手帳）
総務課	令和4年度学生による授業評価実施報告書
学生・就職支援課	キャリアハンドブック2024
入試課	大学案内2024
	大学院案内2024
教務課	学生便覧（学部・大学院・補遺）
教育研究戦略課	令和4年度年報

XII　財務

1　はじめに

本法人は、平成 23 年4月1日に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、今期が第3期中期計画の1年目にあたる第13期目の決算となる。

公立大学法人の会計基準は、企業会計を基本としながらも、主たる業務内容が教育・研究であり、利益の獲得を目的としないなどの特殊性を考慮した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成されるもので、県民をはじめとする利害関係者に、法人の財政状態や運営状況を明らかにするために、作成が義務付けられている。

第34条第1項では、毎事業年度終了後3ヶ月以内に、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類等）を、設立団体の長に提出し、承認を得なければならないとされている。

（重要な会計方針の変更について）

前事業年度まで運営費交付金、授業料、寄附金を財源として固定資産を取得した場合、資産見返負債を計上し、減価償却に伴い同額を収益に振替えていたが、当事業年度より改定後の地方独立行政法人会計基準等を適用し、固定資産を取得した時点で収益を計上することとし、資産見返負債は計上していない。なお、改定後の地方独立行政法人会計基準等に従って、前事業年度末の資産見返負債は当期首に臨時利益に計上している。

この結果、前事業年度と比較して経常収益が7千万円減少するとともに、臨時利益が9億1千1百万円増加し、当期純利益及び当期総利益は8億4千1百万円増加している。

令和5年度の財務諸表上の表記は下記のとおりである。

2　貸借対照表

貸借対照表は、令和6年3月 31 日現在の、全ての財産（資産、負債・純資産）の状況を示している。

令和5年度の資産総額は、

固定資産が　108億2千7百万円（ 94.1%）

流動資産が　　6億7千7百万円（　5.9%）

　合計　　115億　　4百万円（100.0%）となっている。

固定資産が資産の 94.1%を占め、このうち県からの出資財産が 83 億5千万円で資産全体の 72.6%を占めている。

負債総額は、

固定負債が　1億6千8百万円

流動負債が　4億1千　　万円

　合計　　5億7千8百万円となっている。

純資産の総額は、

資本金（県からの出資金）が　106億1千　　万円、

資本剰余金が　　△6億　　2百万円、

利益剰余金が　　9億1千8百万円、

　合計　　109億2千6百万円となっている。

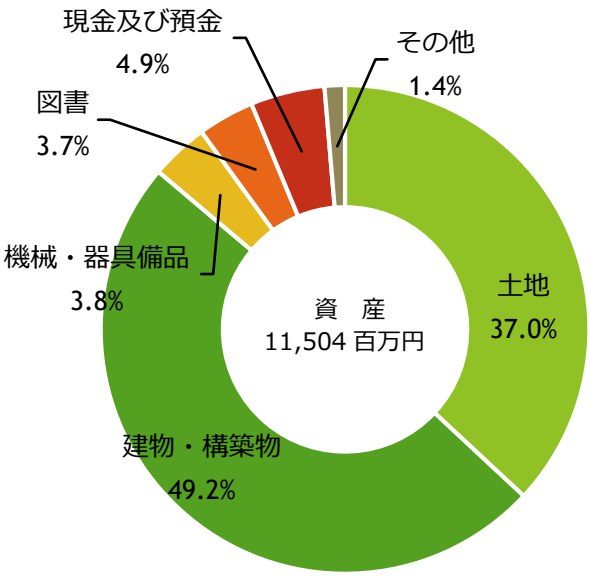
利益剰余金の内訳は、中期計画に定める剰余金の使途として使用することができる目的積立金が7千7百万円で、積立金が8億4千1百万である。

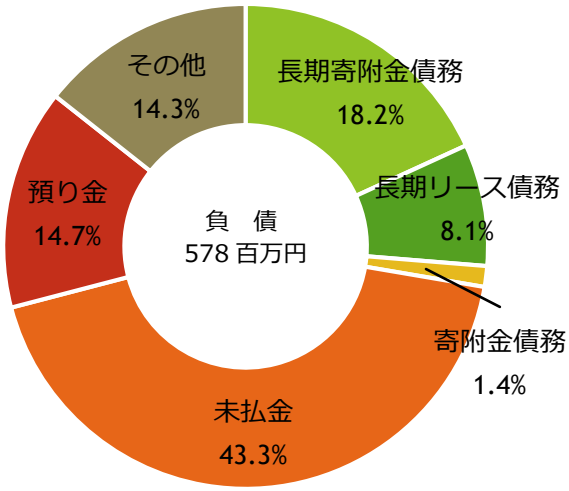
貸借対照表の概要

（単位：百万円）

資産	固定資産	有形固定資産	土地	4,250	負債	固定負債	長期寄附金債務	105
			建物	5,498			長期リース債務	47
			構築物	165			長期繰延補助金等	16
			機械装置	56			小　計	168
			工具器具備品	385		流動負債	寄附金債務	8
			図書	430			未払金	250
			車両運搬具	1			預り金	85
			美術品・収蔵品	25			短期リース債務	50
			小　計	10,810			その他の流動負債	17
		無形固定資産		15			小　計	410
		投資その他の資産		2		合　計③		578
		合　計①		10,827	純資産	資本金		10,610
	流動資産	現金及び預金		565		資本剰余金		▲602
		その他の流動資産		112		利益剰余金		918
		合　計②		677		合　計④		10,926
	資産合計①+②			11,504	負債純資産合計③+④			11,504

※計算後百万円未満四捨五入しているため合計金額が一致しない場合があります。





3 損益計算書

損益計算書は、当期に発生した目的別費用とそれに対応する収益構造を記載した計算書である。

経常費用の総額は26億2千3百万円で、内訳は業務費が24億7千9百万円で、一般管理費が1億4千3百万円、支払利息等の財務費用が1百万円となっている。

業務費24億7千9百万円の内訳は、

教育研究経費	8億4千3百万円（対経常費用 32.1%）
教育経費	5億　千5百万円
研究経費	1億4千9百万円
教育研究支援経費	1億8千9百万円
受託研究等経費	2千3百万円（対経常費用 0.9%）
受託研究費	4百万円
受託事業費	1千9百万円
人件費	16億1千3百万円（対経常費用 61.5%） ※受託研究・事業費に参入した人件費を除く

経常収益の総額は、　26億1千3百万円で、内訳は

運営費交付金収益	14億9千5百万円（対経常収益　57.2%）
授業料等収益	8億6千9百万円（同 33.3%）
受託研究等収益	4百万円（同 0.2%）
受託事業等収益	1千9百万円（同 0.7%）
寄附金収益	3千1百万円（同 1.2%）
補助金等収益	1億3千1百万円（同 5.0%）
雑益	6千4百万円（同 2.4%）

経常収益から経常費用を差し引いた経常損失は、1千万円となっている。

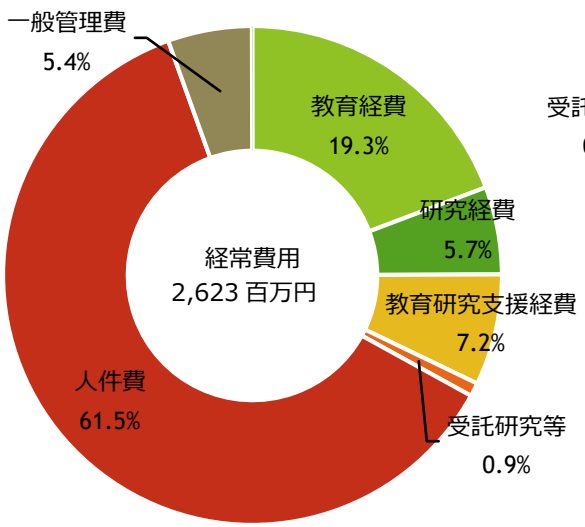
臨時利益が9億1千1百万円発生したため、当期総利益は9億1百万円となっている。

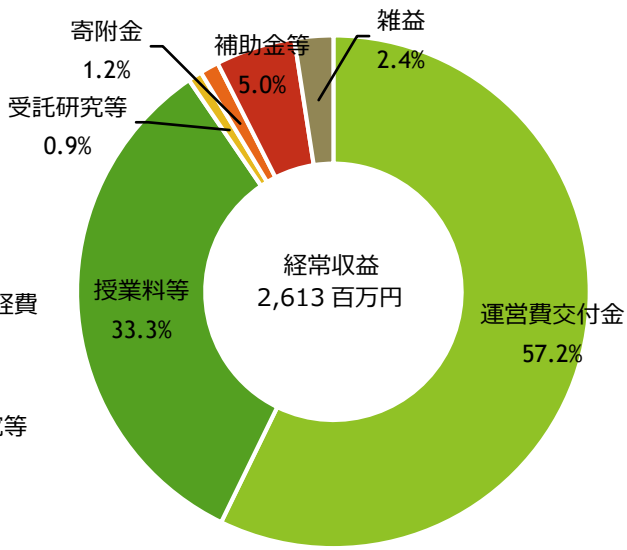
損益計算書の概要

（単位：百万円）

経常費用	業務費	教育経費	505	経常収益	運営費交付金収益	1,495
		研究経費	149		授業料収益	770
		教育研究支援経費	189		入学料収益	81
		受託研究費	4		検定料収益	18
		受託事業費	19		受託研究等収益	4
		教員人件費	1,188		受託事業等収益	19
		職員人件費	425		寄附金収益	31
		合　計	2,479		補助金等収益	131
	一般管理費		143		雑益	64
	財務費用		1		合　計	2,613
	合　計		2,623	臨時利益		911
当期総利益			901	合　計		3,524

※計算後百万円未満四捨五入しているため合計金額が一致しない場合があります。





4 外部資金導入の状況

（1） 科学研究費助成事業交付状況

【科学研究費助成事業交付実績】

研究種目	所属名	課題番号	職名	研究代表者名	研究課題名	補助事業期間	令和5年度の直接経費	令和5年度の間接経費	（参考）研究期間全体の直接経費	（参考）研究期間全の間接経費
基盤研究(B)	文化学部	22H00807	准教授	清水 直樹	選挙対策としての政策変更：選挙の存在が政策に及ぼす影響の包括的分析	2022～2025　継続	4,100,000	1,230,000	13,100,000	3,930,000
	看護学部	20H03984	教授	藤田 佐和	外来治療する高齢がん患者を支える協働型包括的機能評価に基づく統合ケアモデルの開発	2020～2023　継続	1,700,000	510,000	7,000,000	2,100,000
						2020～2023　繰越	1,400,000	0	1,400,000	0
		20H04027	准教授	中井 寿雄	医療的ケア児の参画とテクノロジーの融合による当事者参画型災害備えシステムの開発	2020～2023　継続	2,600,000	780,000	12,800,000	38,400,000
		21H03237	教授	大川 宣容	クリティカルケア看護師の緩和ケアコンピテンシー育成プログラムの開発	2021～2024　継続	1,200,000	360,000	5,800,000	1,740,000
						2021～2024　繰越	590,000	0	590,000	0
		21H03254	教授	中野 綾美	家族との協働型エンドオブライフケア実践能力を高める看護遠隔教育プログラムの開発	2021～2024　継続	3,900,000	1,170,000	11,900,000	3,570,000
						2021～2024　繰越	1,500,000	0	1,500,000	0
	社会福祉学部	22H00931	教授	田中 きよむ	地方におけるホームレスの実態把握と支援方法の研究	2022～2024　継続	1,200,000	360,000	4,100,000	1,230,000
基盤研究(C)	文化学部	18K02072	准教授	根岸 忠	台湾における居宅介護労働者の労働条件保護の決定プロセスとそのあり方	2018～2023　延長	0	0	1,200,000	360,000
		19K01449	准教授	清水 直樹	内閣による議会解散権の制約の政策的帰結：政治的景気循環論による研究	2019～2023　延長	0	0	1,800,000	540,000
		20K00527	教授	高西 成介	「翻訳」「注釈」の創作性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究	2020～2023　延長	0	0	2,500,000	750,000
		21K00572	准教授	金澤 俊吾	英語の形容詞が関わる構文の変則的表現の創出と形成過程に関する実証的、理論的研究	2021～2023　継続	300,000	90,000	1,000,000	300,000
		21K02498	教授	井上 次夫	オンライン授業におけるICT活用指導技術の習得・運用・評価に関する基礎的研究	2021～2023　継続	700,000	210,000	2,800,000	840,000
		21K04455	教授	三浦 要一	国宝保存法時代の寺院建築の修理における当初復原に関する基礎的研究	2021～2023　継続	300,000	90,000	900,000	270,000
		22K00512	准教授	向井 真樹子	再帰複合語の分析	2022～2024　継続	600,000	180,000	1,600,000	480,000
		22K01952	准教授	根岸 忠	外国人労働者受入れ拡大に備えた社会保障制度の適用要件の再検討―日台比較をとおして	2022～2024　継続	800,000	240,000	2,400,000	720,000
	看護学部	18K10077	准教授	立木 隆広	下肢筋量に着目した骨折リスク評価モデルの開発　日本人男性の大規模疫学研究	2018～2023　延長	0	0	3,400,000	1,020,000
		18K10288	助教	森本 紗磨美	消化器がん患者の周術期ヘルスリテラシー支援プログラムの開発	2018～2023　延長	0	0	2,600,000	780,000
		18K10356	助教	塩見 理香	自閉症スペクトラム障害者の対人関係におけるセルフコントロールを高めるプログラム	2018～2023　延長	0	0	3,100,000	930,000
		18K10548	教授	森下 安子	慢性心不全高齢者の再入院を予防するシームレスケアを創る退院支援ガイドラインの開発	2018～2023　延長	0	0	3,200,000	960,000
		19K10955	教授	内田 雅子	慢性病者中心のケア・コーディネーション：事例研究法による看護実践理論の構築	2019～2023　延長	0	0	3,300,000	990,000
		19K10987	講師	有田 直子	血液・腫瘍疾患を持つ青年のSDMを支援する高度実践看護師の教育プログラムの開発	2019～2023　延長	0	0	3,300,000	990,000
		19K11012	講師	岩崎 順子	低出生体重児のFamilyConfidenceを育成する看護介入プログラムの開発	2019～2023　延長	0	0	3,400,000	1,020,000
		19K11091	准教授	高谷 恭子	成人期に移行する先天性心疾患と共に生きる子どもと親の軌跡を説明できるモデルの構築	2019～2023　延長	0	0	3,300,000	990,000
		19K11279	教授	竹崎 久美子	急性期病院に入院中の認知症高齢者に対する効果的ケア・パッケージの開発	2019～2023　延長	0	0	1,600,000	480,000
		20K10610	教授	久保田 聰美	看護の質の向上に貢献する看護師のエンゲージメントモデル開発	2020～2023　延長	0	0	3,300,000	990,000
		20K10696	准教授	森下 幸子	組織学習を支える訪問看護管理者のコンサルテーション力を高める教育支援モデル構築	2020～2023　延長	0	0	2,800,000	840,000
		20K10811	講師	山中 福子	心不全重症化予防に向けたアウトカム評価に基づく患者教育連携プログラム	2020～2023　継続	300,000	90,000	2,400,000	720,000
		20K10842	教授	池添 志乃	発達障害のある子どもと家族の移行を支える協働型看護ケアガイドラインの開発	2020～2023　継続	900,000	270,000	3,400,000	1,020,000
		20K10891	助教	源田 美香	学童期にある発達障害児の家族の家族ストレングスを促進するケアプログラムの開発	2020～2023　継続	300,000	90,000	3,300,000	990,000
		20K10914	教授	瓜生 浩子	患者・家族と看護者間のコンフリクトの発生・悪化を予防する教育プログラムの開発	2020～2023　延長	0	0	3,200,000	960,000
		20K10915	教授	長戸 和子	慢性心不全患者・家族のアドバンス・ケア・プランニング支援ガイドラインの開発	2020～2023　延長	0	0	3,200,000	960,000
		20K10967	教授	畦地 博子	障害文化と健常文化を超えて共創する支援のパターンランゲージ	2020～2023　継続	400,000	120,000	3,300,000	990,000

研究種目	所属名	課題番号	職名	研究代表者名	研究課題名	補助事業期間	令和5年度の直接経費	令和5年度の間接経費	（参考）研究期間全体の直接経費	（参考）研究期間全の間接経費
基盤研究(C)	看護学部	20K11079	准教授	小澤 若菜	市町村保健師による医療保険者と連携型の高齢者心不全重症化予防プログラムの開発	2020～2023　延長	0	0	2,700,000	810,000
		20K11132	教授	木下 真里	全被災者の健康状態把握を支援するモバイル・ツール開発研究	2020～2023　延長	0	0	3,300,000	990,000
		21K10550	助教	塩見 理香	自閉スペクトラム症者の地域生活を支えるための訪問看護ケアの教育プログラム	2021～2024　継続	600,000	180,000	2,700,000	810,000
		21K10634	教授	池田 光徳	ポータブルデバイスおよびAIアプリを用いたポスト・コロナにおける非対面型遠隔看護	2021～2024　継続	900,000	270,000	3,100,000	930,000
		21K10663	准教授	内川 洋子	遠隔参加型看護マネジメント・リフレクションの実践のための教育プログラムの開発	2021～2023　継続	500,000	150,000	1,700,000	510,000
		21K10695	助教	坂元 綾	2型糖尿病患者の足病変予防のセルフモニタリング促進看護支援ガイドラインの開発	2021～2024　継続	700,000	210,000	2,500,000	750,000
		21K10921	准教授	嶋岡 暢希	周産期医療施設における両親を対象とした産婦健診ケアモデルの開発と検証	2021～2023　継続	800,000	240,000	2,200,000	660,000
		21K11009	助教	竹中 英利子	慢性腎臓病患者のサインマネジメントを支援する外来看護師教育プログラムの開発	2021～2024　継続	300,000	90,000	1,700,000	510,000
		21K11031	教授	田井 雅子	認知症の人と家族の家族の伴走を支援する家族看護援助モデルの開発	2021～2024　継続	800,000	240,000	3,100,000	930,000
		22K10905	准教授	藤代 知美	精神科未治療・治療中断者の受療行動を促す地域協働型交渉スキル習得プログラムの開発	2022～2025　継続	900,000	270,000	3,200,000	960,000
		22K10961	講師	岩崎 順子	FamilyConfidenceを高める乳児家族ハイブリット型看護介入モデル開発	2022～2024　継続	600,000	180,000	3,100,000	930,000
		22K11122	助教	中井 あい	中山間地域の独居高齢者の食環境評価を用いた地域共生包括的食生活支援プログラム開発	2022～2024　継続	900,000	270,000	3,100,000	930,000
		22K11151	助教	高橋 真紀子	後期高齢者が独居で暮らし続ける住民同士のケアリング	2022～2024　継続	500,000	150,000	1,700,000	510,000
		22K11152	講師	小原 弘子	高齢在宅療養者の急変対応スキル獲得に向けた訪問看護師遠隔教育プログラムの開発	2022～2024　継続	900,000	270,000	2,300,000	690,000
		22K11267	教授	森下 安子	慢性閉塞性肺疾患患者の再入院予防の地域病院多職種協働型入退院支援ガイドライン開発	2022～2025　継続	800,000	240,000	3,200,000	960,000
		23K09702	准教授	立木 隆広	オステオサルコペニアは骨粗鬆症単独より骨折リスクを高めるか－無作為標本縦断研究	2023～2025　新規	2,200,000	660,000	3,600,000	1,080,000
		23K09936	助教	田中 雅美	Transitionを基盤としたICU看護師の成長を導く支援プログラムの開発	2023～2026　新規	800,000	240,000	2,700,000	810,000
		23K10011	助教	森本 紗磨美	高齢消化器がん患者の機能変化と生活の融合を目指した周術期回復支援プログラムの開発	2023～2026　新規	1,000,000	300,000	3,000,000	900,000
		23K10063	講師	有田 直子	血液・腫瘍疾患の青年のSDMを支援する専門看護師の家族協働型実践プログラムの開発	2023～2026　新規	1,400,000	420,000	3,700,000	1,110,000
		23K10137	准教授	高谷 恭子	成人期に移行する心疾患の子どもと親の軌跡を支援する医療地域連携プログラムの開発	2023～2026　新規	900,000	270,000	3,500,000	1,050,000
		23K10162	准教授	佐東 美緒	医療的ケア児と家族を支える看護職のgood practice収集による学習プログラムの開発	2023～2026　新規	1,400,000	420,000	3,600,000	1,080,000
		23K10243	准教授	小澤 若菜	高齢心不全患者が地域で学び合うための重症化予防学習支援プログラムの開発と検証	2023～2026　新規	1,300,000	390,000	3,600,000	1,080,000
	社会福祉学部	18K02112	准教授	遠山 真世	重度障害者の就労支援における工賃向上のための「高知モデル」の構築	2018～2023　延長	0	0	1,400,000	420,000
		18K02158	教授	西内 章	ソーシャルワークにおけるICTを活用した多職種連携モデルの構築	2018～2023　延長	0	0	1,000,000	300,000
		19K02191	助教	玉利 麻紀	社会的マイノリティへの偏見軽減要因の探索　無関心という壁を越えるために	2019～2023　延長	0	0	2,200,000	660,000
		20K02186	助教	湯川 順子	エイジング・イン・プレイス政策におけるインフォーマル・ケアの制度化に関する研究	2020～2023　延長	0	0	1,500,000	450,000
		20K02212	准教授	西梅 幸治	エンパワメント志向ジェネラル・ソーシャルワークにおける協働アセスメント方法の構築	2020～2023　延長	0	0	1,700,000	510,000
		20K02267	教授	長澤 紀美子	クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発	2020～2023　延長	0	0	3,000,000	900,000
		20K02270	准教授	矢吹 知之	認知症の本人と家族介護者の日本版統合ケアプログラムの開発	2020～2023　延長	0	0	2,700,000	810,000
		21K01950	助教	福田 敏秀	高齢者の在宅介護推進の障壁「介護者の阻害要因」への適切なアセスメント方法の開発	2021～2023　継続	300,000	90,000	1,500,000	450,000
		22K02010	准教授	福間 隆康	障害のある従業員の組織社会化過程における個人の適応行動に関する研究	2022～2025　継続	400,000	120,000	1,300,000	390,000
		22K02186	助教	片岡 妙子	重度要介護高齢者の内在的能力に着目した生活継続のための指標に関する研究	2022～2024　継続	100,000	30,000	400,000	120,000
		22K11208	教授	横井 輝夫	重度アルツハイマー病者のADL再生法の開発	2022～2024　継続	600,000	180,000	1,700,000	510,000

研究種目	所属名	課題番号	職名	研究代表者名	研究課題名	補助事業期間	令和5年度の直接経費	令和5年度の間接経費	(参考)研究期間全体の直接経費	(参考)研究期間全の間接経費
基盤研究(C)	社会福祉学部	23K01877	講師	加藤 由衣	省察ツールを活用したソーシャルワークにおける省察的実践家の熟達モデルの開発	2023～2025　新規	600,000	180,000	1,600,000	480,000
		23K01911	教授	西内 章	身上保護を行う地域連携ネットワークにおけるソーシャルワーク実践モデルの構築	2023～2025　新規	500,000	150,000	900,000	270,000
		23K02164	講師	田中 眞希	施設職員の「演じる行為」を涵養する研修プログラムの開発	2023～2026　新規	700,000	210,000	3,200,000	960,000
	健康栄養学部	21K02143	教授	近藤 美樹	フキの新機能である血糖値上昇抑制作用の解析及び糖尿病対策への活用に向けた基礎研究	2021～2023　継続	1,100,000	330,000	3,200,000	960,000
		21K11680	准教授	竹井 悠一郎	破骨細胞様細胞を標的とした炎症性腸疾患の新規栄養療法の開発	2021～2023　継続	1,100,000	330,000	3,200,000	960,000
		21K11704	助教	隅田 有公子	経腸栄養剤の粘性付加に関する検討	2021～2024　継続	500,000	150,000	3,100,000	930,000
	地域教育研究センター	20K02611	教授	鈴木 康郎	東南アジア諸国における「多様な価値の共存」を目指す道徳教育の比較研究	2020～2023　延長	0	0	3,300,000	990,000
研究活動スタート支援	看護学部	19K24208	助教	竹中 英利子	慢性疾患患者を支える外来看護師のアセスメント能力を育成する教育プログラムの開発	2019～2023　延長	0	0	700,000	210,000
		22K21091	助教	中井 有里	せん妄を誘発する環境要因と予防のための病棟環境整備ガイドラインに関する基礎的研究	2022～2023　継続	1,100,000	330,000	2,200,000	660,000
		22K21179	助教	池内 香	双極性障害をもつ人と家族へのメンタルヘルスリテラシー獲得・向上のための看護方略	2022～2023　継続	900,000	270,000	2,000,000	600,000
若手研究	文化学部	20K12924	准教授	田中 裕也	三島由紀夫文学における思想系テクストの受容と実践に関する研究	2020～2023　継続	300,000	90,000	1,900,000	570,000
	看護学部	18K17646	教授	渡邊 聡子	ICTを用いた妊婦の災害への備えを促進するための介入の効果検証	2018～2023　延長	0	0	3,300,000	990,000
		20K19063	助教	神家 ひとみ	ICUにおける人工呼吸器装着患者の集中治療後症候群予防のケアガイドライン開発	2020～2023　継続	100,000	30,000	1,600,000	480,000
	社会福祉学部	18K12968	講師	加藤 由衣	省察的実践の理論に基づくソーシャルワーク実践方法と省察ツールの開発	2018～2023　延長	0	0	1,700,000	510,000
		19K14071	准教授	河内 康文	介護現場リーダーの越境的学習に基づく職場学習の実証研究－混合研究法に基づく分析－	2019～2023　延長	0	0	1,300,000	390,000
		20K13673	講師	辻 真美	ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究	2020～2023　延長	0	0	900,000	270,000

※研究種目・学部・課題番号順に掲載（補助金種目の繰越、基金種目の研究期間延長、再延長、再々延長課題を含む）。

（2） 奨学寄附金受入状況（過去5年間分）

平成30年度

（単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄 附 者	研 究 題 目
1	看護学部	教 授	神原　咲子	2,200,000	Yahoo!基金	誰も取り残さない減災ケアの地図化と社会化
2	看護学部	教 授	山田　　覚	2,000,000	Yahoo!基金	災害看護支援ネットワークの構築・維持と効率的な運用
3	看護学部	助 教	小原　弘子	700,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	在宅療養に関わる医療・介護職への急変対応スキル向上に向けた取り組み
4	健康栄養学部	講 師	竹井　悠一郎	1,000,000	公益財団法人 日本栄養・食糧学会	動脈瘤発症の予防と治療を目指した食品に関する基礎研究
合計		4件		5,900,000		

令和元年度

（単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄 附 者	研 究 題 目
1	文化学部	准教授	根岸　　忠	1,000,000	公益財団法人 ユニベール財団	公的扶助と私的扶助の関係をめぐる日台比較法研究
合計		1件		1,000,000		

令和2年度

（単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄 附 者	研 究 題 目
1	看護学部	准教授	川上　理子	200,000	高銀地域経済振興財団	高齢者の在宅看取りに対する自己効力感と先行要因の明確化
合計		1件		200,000		

令和3年度

（単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄 附 者	研 究 題 目
1	健康栄養学部	講 師	島田　郁子	200,000	高銀地域経済振興財団	健康と減災を目指した持続可能な食とくらしの探求
2	健康栄養学部	准教授	鈴木　麻希子	100,000	コネル・ブラザーズ・ジャパン株式会社	縮合リン酸の分析等に関する専門的助言・指導
3	健康栄養学部	講 師	竹井　悠一郎	900,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	破骨細胞様細胞を標的とした潰瘍性大腸炎患者の重症化に関連する腸内細菌および代謝産物の網羅的解析
合計		3件		1,200,000		

令和4年度

（単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄 附 者	研 究 題 目
1	健康栄養学部	助　教	竹本　和仁	200,000	高銀地域経済振興財団	高知県産イタドリ葉の食物アレルギー症状緩和による高付加価値化
2	健康栄養学部	助　教	竹本　和仁	500,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	高知県産イタドリ葉の機能性を厳しく管理する成分品質管理法の確立
3	看護学部	助　教	中井　あい	350,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	地域共生拠点を活用した独居高齢者の看取りを支える多職種連携
4	社会福祉学部	教　授	田中　きよむ	300,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	高齢者の認知機能と運転時注意挙動との関係解析
合計		4件		1,350,000		

令和5年度

（単位：円）

	寄附を受けた者			金　額	寄 附 者	研 究 題 目
1	健康栄養学部	准教授	鈴木 麻希子	1,000,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命（いのち）の基金」	加工食品の摂取実態とリン摂取量が腎機能に及ぼす影響
2	看護学部	准教授	小林　秀行	500,000	公益財団法人生協総合研究所	子どもの社会経済的状況が発育不良や不健康リスクに及ぼす影響～健診データと健康行動国際指標との関連の検討
合計		2件		1,500,000		

（3）受託研究費受入状況（過去5年間分）

令和元年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	看護学研究科 看護学部 看護学部	教　授 教　授 准教授	神原　咲子 山田　　覚 木下　真里	2,500,000	国立大学法人 大阪大学	災害対応に資するPLRの事前整備と利用モデルの検討	平成31年4月1日－ 令和2年3月31日
2	文化学部	准教授	根岸　　忠	1,000,000	公益財団法人 日本台湾交流協会	外国人労働者受入れをめぐる労働市場法政策の日台比較－外国人非熟練労働者に焦点をあてて	平成31年4月1日－ 令和2年3月31日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	1,940,000	株式会社　協和	生姜摂取後の血流に関する研究	令和元年11月1日－ 令和2年3月31日
合計		3件		5,440,000			

令和2年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	看護学研究科	教　授	神原　咲子	2,500,000	国立大学法人 大阪大学	災害対応に資するPLRの事前整備と利用モデルの検討	令和2年4月1日－ 平成3年3月31日
2	健康栄養学部	教　授	稲井　玲子	495,880	高知県	令和2年度食生活実態調査事業	令和2年11月11日－ 平成3年3月31日
合計		2件		2,995,880			

令和3年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	看護学研究科	教　授	神原　咲子	1,560,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	SAWACHI型健康社会共創拠点	令和3年4月1日－ 令和5年3月31日
2	看護学研究科	教　授	神原　咲子	400,000	公益財団法人 地球環境戦略研究機関	Case Study Research on COVID19	令和3年5月1日－ 令和4年6月30日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	600,000	高知大学	褐毛和種高知系の肉質・ブランド力強化事業	令和3年5月27日－ 令和6年3月31日
4	看護学部	准教授	佐東　美緒	858,000	一般社団法人 放送大学教育振興会	対面・遠隔ハイブリッド型看護学教育に向けた教育要件の検討－学生・教員双方の視点からの分析－	令和3年7月13日－ 令和4年3月31日
合計		4件		3,418,000			

令和4年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
1	看護学部	特　任 教　授	神原　咲子	1,200,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	SAWACHI型健康社会共創拠点に関する研究開発	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
2	社会福祉学部	助　教	玉利　麻紀	1,799,780	文部科学省	大学等生涯教育機会創出モデル構築	令和4年5月27日－ 令和5年3月10日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	150,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	食品中機能性成分の相乗効果を高感度に検出する生体中蓄積脂肪燃焼作用評価システムの構築	令和4年10月1日－ 令和6年3月31日
4	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	279,000	ウシオ電機株式会社	食品成分研究	令和4年9月1日－ 令和5年12月20日
合計		4件		3,428,780			

令和5年度

（単位：円）

	研究者			金　額	委託者	研　究　題　目	期間
2	社会福祉学部	助　教	玉利　麻紀	1,978,901	文部科学省	大学等生涯教育機会創出モデル構築	令和5年5月17日－ 令和5年3月10日
4	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	279,000	ウシオ電機株式会社	食品成分研究	令和5年4月1日－ 令和6年3月31日
3	健康栄養学部	教　授	渡邊　浩幸	150,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	食品中機能性成分の相乗効果を高感度に検出する生体中蓄積脂肪燃焼作用評価システムの構築	令和5年4月1日－ 令和6年3月31日
合計		3件		2,407,901			

（4）受託事業費受入状況（過去5年間分）

令和元年度

（単位：円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教　授	森下　安子	16,233,000	高知県	退院支援事業	平成31年4月1日－ 令和2年3月31日
2	看護学部	教　授	内田　雅子	1,960,000	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	平成31年4月19日－ 令和2年3月31日
3	社会福祉学部	講　師	河内　康文	3,512,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和元年5月13日－ 令和2年3月31日
4	看護学部	教　授	森下　安子	2,719,000	高知県	令和元年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和元年6月25日－ 令和2年3月31日
合計		4件		24,424,000			

令和2年度

（単位：円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教　授	森下　安子	13,749,000	高知県	退院支援事業	令和2年4月1日－ 令和3年3月31日
2	看護学部	教　授	内田　雅子	4,492,020	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和2年4月6日－ 令和3年3月31日
3	看護学部	教　授	森下　安子	2,100,000	高知県	令和2年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和2年8月11日－ 令和3年3月31日
合計		3件		20,341,020			

令和3年度

（単位：円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教　授	森下　安子	13,979,000	高知県	退院支援事業	令和3年4月1日－ 令和4年3月31日
2	看護学部	教　授	内田　雅子	5,472,038	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和3年4月1日－ 令和4年3月31日
3	看護学部	教　授	森下　安子	2,770,000	高知県	令和3年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和3年6月24日－ 令和4年3月31日
合計		3件		22,221,038			

令和4年度

（単位:円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教　授	森下　安子	8,946,154	高知県	退院支援事業	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
2	看護学部	教　授	内田　雅子	3,833,475	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和4年4月1日－ 令和5年3月31日
3	看護学部	教　授	森下　安子	2,130,769	高知県	令和4年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和4年6月22日－ 令和5年3月31日
合計		3件		14,910,398			

令和5年度

（単位:円）

	代表教員			金　額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教　授	森下　安子	8,946,154	高知県	退院支援事業	令和5年4月1日－ 令和6年3月31日
2	看護学部	教　授	内田　雅子	3,833,475	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和5年4月1日－ 令和6年3月31日
3	看護学部	教　授	森下　安子	2,130,769	高知県	令和5年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和5年6月30日－ 令和6年3月31日
合計		3件		14,910,398			

（5）その他受入状況（過去5年間分）

令和元年度

（単位：円）

	研究者	金　額	相手先	事業名	期間
1	森下　安子	20,000,000	高知県	平成31年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	平成31年4月1日－令和2年3月31日
2	渡邊　浩幸	13,200,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	平成31年4月1日－令和2年3月31日
3	渡邊　浩幸	400,000	高知県牧野記念財団	牧野富太郎博士ゆかり植物の高度利用による食品・健康・観光産業の創出	平成31年4月1日－令和2年3月31日
4	渡邊　浩幸	500,000	株式会社ファンケル	コーン由来のASG含有抽出物の内臓脂肪増加と血中LDL上昇の抑制効果の検証	令和元年11月1日－令和2年3月31日
合計	4件	34,100,000			

令和2年度

（単位：円）

	研究者	金　額	相手先	事業名	期間
1	渡邊　浩幸	13,200,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和2年4月1日－令和3年3月31日
2	清原　泰治	1,817,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和2年4月1日－令和3年3月31日
3	藤田　佐和	3,858,000	文部科学省	多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材養成プラン」事業	令和2年4月1日－令和3年3月31日
4	森下　安子	20,000,000	高知県	令和2年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和2年4月1日－令和3年3月31日
5	河内　康文	3,512,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和2年4月1日－令和3年3月31日
合計	5件	42,387,000			

令和3年度

（単位：円）

	研究者	金　額	相手先	事業名	期間
1	渡邊　浩幸	13,200,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和3年4月1日－令和4年3月31日
2	清原　泰治	1,817,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和3年4月1日－令和4年3月31日
3	藤田　佐和	2,203,000	文部科学省	多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材養成プラン」事業	令和3年4月1日－令和4年3月31日
4	森下　安子	20,000,000	高知県	令和3年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和3年4月1日－令和4年3月31日
5	河内　康文	3,812,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和3年4月1日－令和4年3月31日
合計	5件	41,032,000			

令和4年度

（単位：円）

	研究者	金　額	相手先	事業名	期間
1	渡邊　浩幸	12,000,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和4年4月1日－令和5年3月31日
2	清原　泰治	1,580,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和4年4月1日－令和5年3月31日
3	藤田　佐和	8,850,000	文部科学省	ウィズコロナ時代の医療人材養成事業	令和4年4月1日－令和5年3月31日
4	森下　安子	20,000,000	高知県	令和4年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和4年4月1日－令和5年3月31日
5	河内　康文	3,812,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和4年5月26日－令和5年3月31日
合計	5件	46,242,000			

令和5年度

（単位：円）

	研究者	金　額	相手先	事業名	期間
1	渡邊　浩幸	4,228,000	高知県	“IoP（Internet of Plants）”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和5年4月1日－令和6年3月31日
2	清原　泰治	626,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和4年4月1日－令和5年3月31日
4	森下　幸子	20,000,000	高知県	令和5年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和5年4月1日－令和6年3月31日
5	田中　眞希	3,812,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和5年5月9日－令和6年3月31日
合計	4件	28,666,000			

５ 学長助成事業等の状況

【戦略的研究推進プロジェクト事業実績】

（単位：千円）

事業内容	助成費	備　考
高知県立大学の学術研究の充実及び高知県の課題解決を目指し、特に重点的に本学を特徴づけるテーマ1～5のいずれかにおいて、教育研究力を格段に高めようとする取り組みに対し、経費を補助することにより、教育・研究のイノベーションを促すことを目指す。	4,564	
合　　計	4,564	

XIII　キャンパス

1 土　地

（単位：㎡）

	区　　分	所　在　地	面　積
1-1	永国寺　北校舎敷地（教育研究棟）	高知市永国寺町91番地	7,406.09
1-2	永国寺　南校舎敷地（地域連携棟）	高知市永国寺町6番地28	3,116.30
1-3	永国寺　図書館，体育館，学生会館	高知市永国寺町5番地15	11,313.47
1-4	池　校舎敷地	高知市池2751番地1	31,586.00
1-5	池　運動場敷地	高知市池2532番地1	6,943.00
1-6	池　多目的広場	高知市池2469番地1　ほか	13,628.75
1-7	学生寮（あふち寮）敷地	高知市東石立町48番地11	1,523.98
1-8	学生寮（さくら寮）敷地	高知市池2532番地1	2,677.00
1-9	その他（法面）	高知市池2155番地1　ほか	8,917.55
計			87,112.14

2 建　物

（単位：㎡）

	区　　分	所　在　地	面　積
2-1	永国寺　北校舎（教育研究棟）	高知市永国寺町2番22号	14,821.49
2-2	永国寺　南校舎（地域連携棟）	高知市永国寺町6番地28	3,136.00
2-3	永国寺　図書館，体育館，学生会館	高知市永国寺町5番地15	5,700.60
2-4	池　校舎	高知市池2751番地1	28,671.67
2-5	学生寮（あふち寮）	高知市東石立町48番地11	2,330.87
2-6	学生寮（さくら寮）	高知市池2532番地1	1,245.50
計			55,906.13